

# 利根川水系河川整備基本方針の変更について ＜参考資料＞

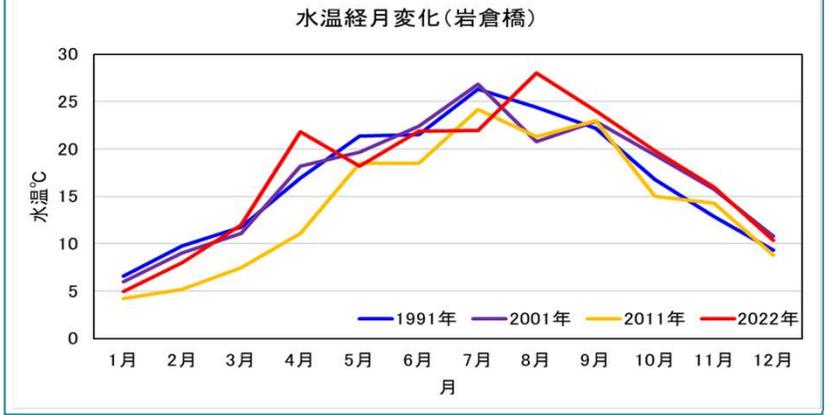
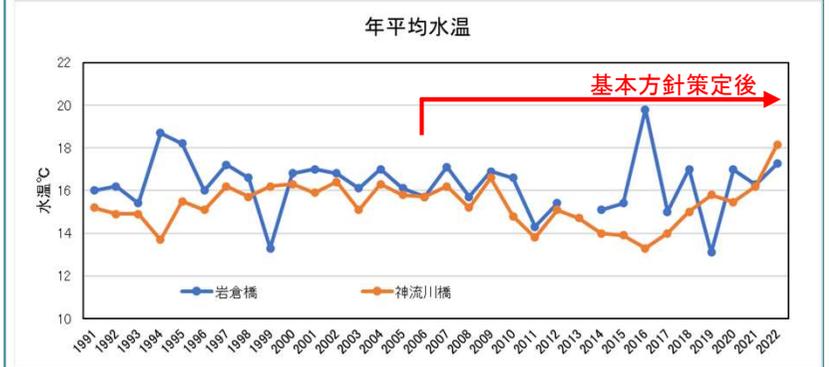
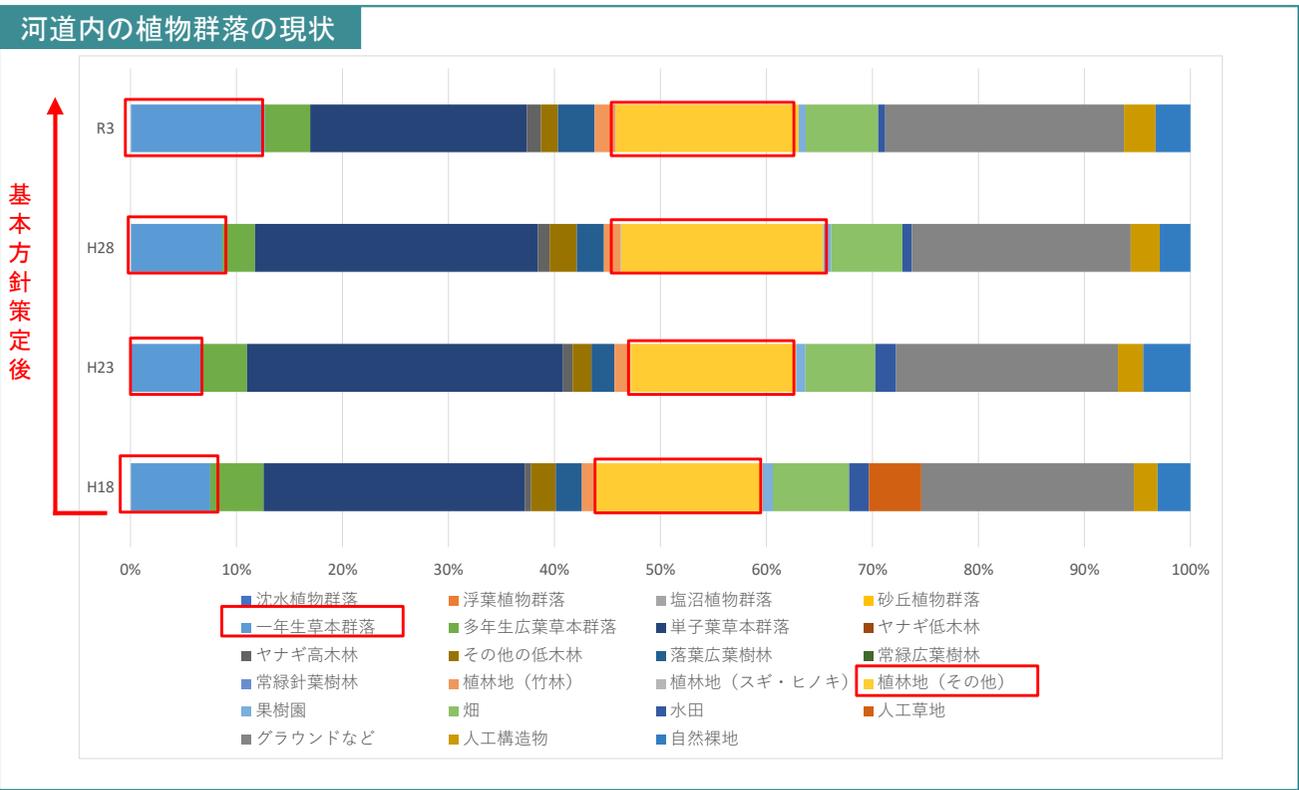
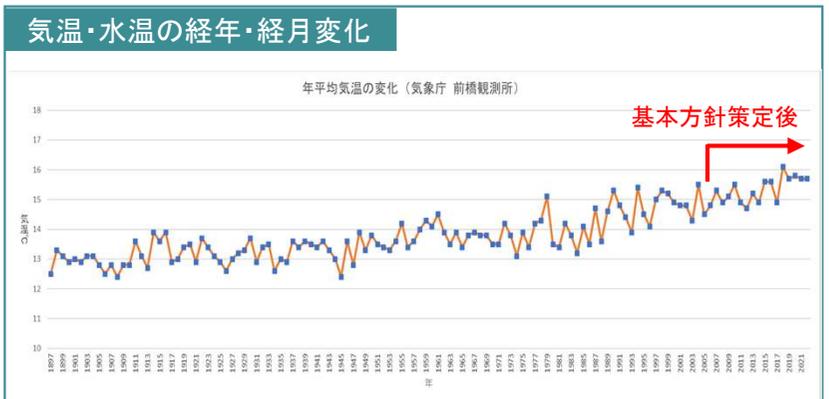
令和6年4月19日

国土交通省 水管理・国土保全局

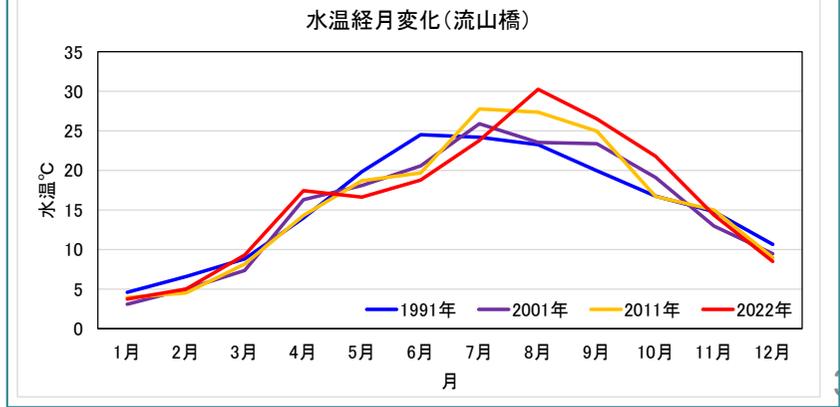
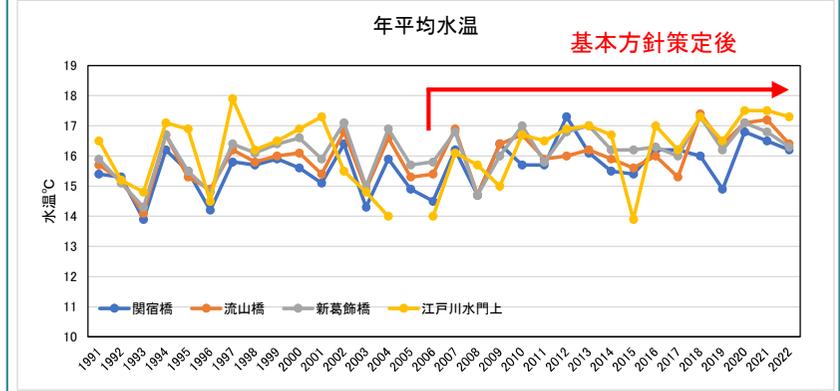
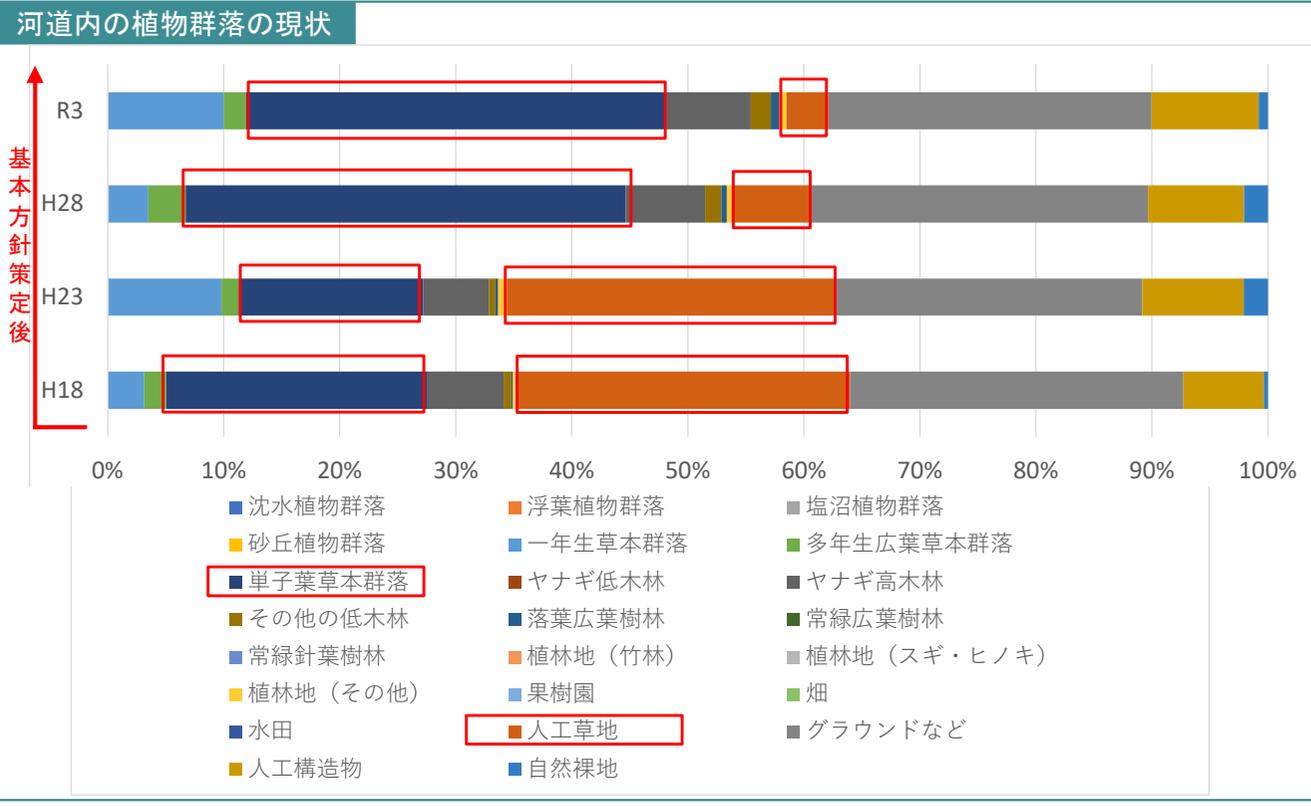
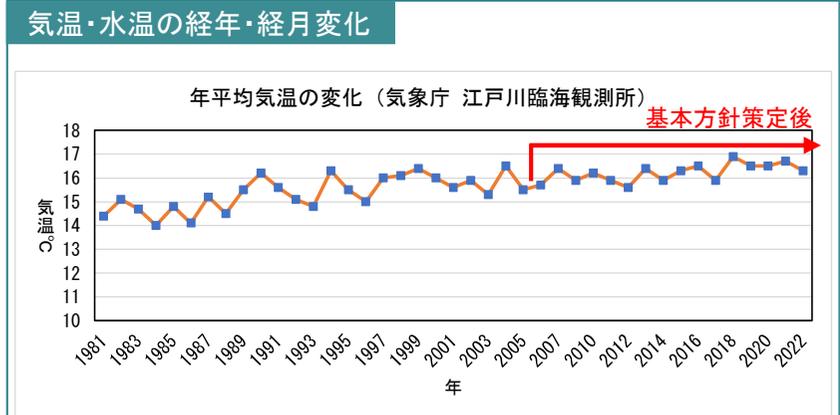
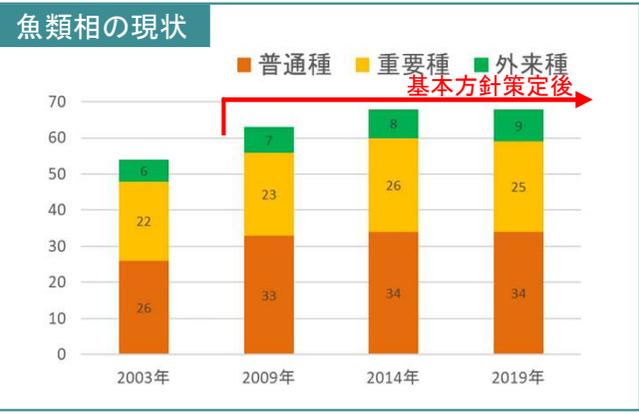
## ⑤河川環境・河川利用についての検討

# 動植物の生息・生育・繁殖環境 動植物の生息・生育・繁殖環境の変遷【烏川・神流川】 利根川水系

- 烏川・神流川は、瀬、淵が連続する区間が見られ、高水敷にはワンド、砂礫地等の多様な環境が見られる。
- 魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、経年的に一年生草本群落が増加傾向で、植林地(その他)の割合が横ばい傾向である。
- 年平均気温は、前橋観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。岩倉橋地点の平均水温も同様に約1℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。

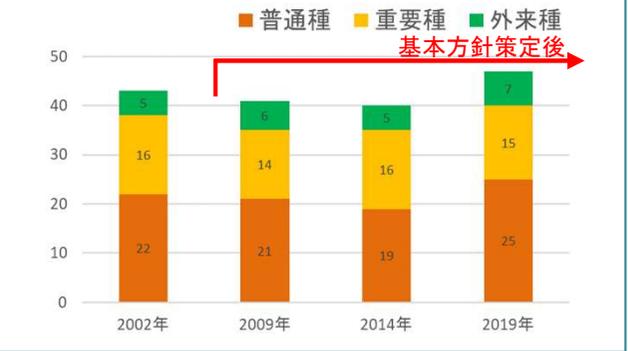


- 江戸川は、緩やかな勾配により砂質土の河道を形成するとともに、河口付近では湛水域が形成されている。
- 江戸川では、魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、平成23年以降人工草地在り減少傾向で、単子葉草本群落が増加傾向である。
- 年平均気温は、江戸川臨海観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。流山橋地点の平均水温も同様に約1℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。

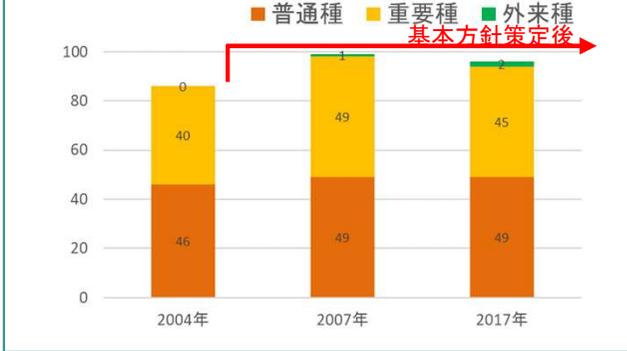


- 渡良瀬川上流は急流で、礫・玉石を主とした礫河原が形成されており、渡良瀬川下流は、河床勾配が緩やかで、扇状地が形成されている。
- 魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、一年生草本群落が増加傾向で、植林地(その他)が横ばい傾向である。
- 年平均気温は、前橋観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。渡良瀬大橋地点の平均水温も同様に約1℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。

## 魚類相の現状



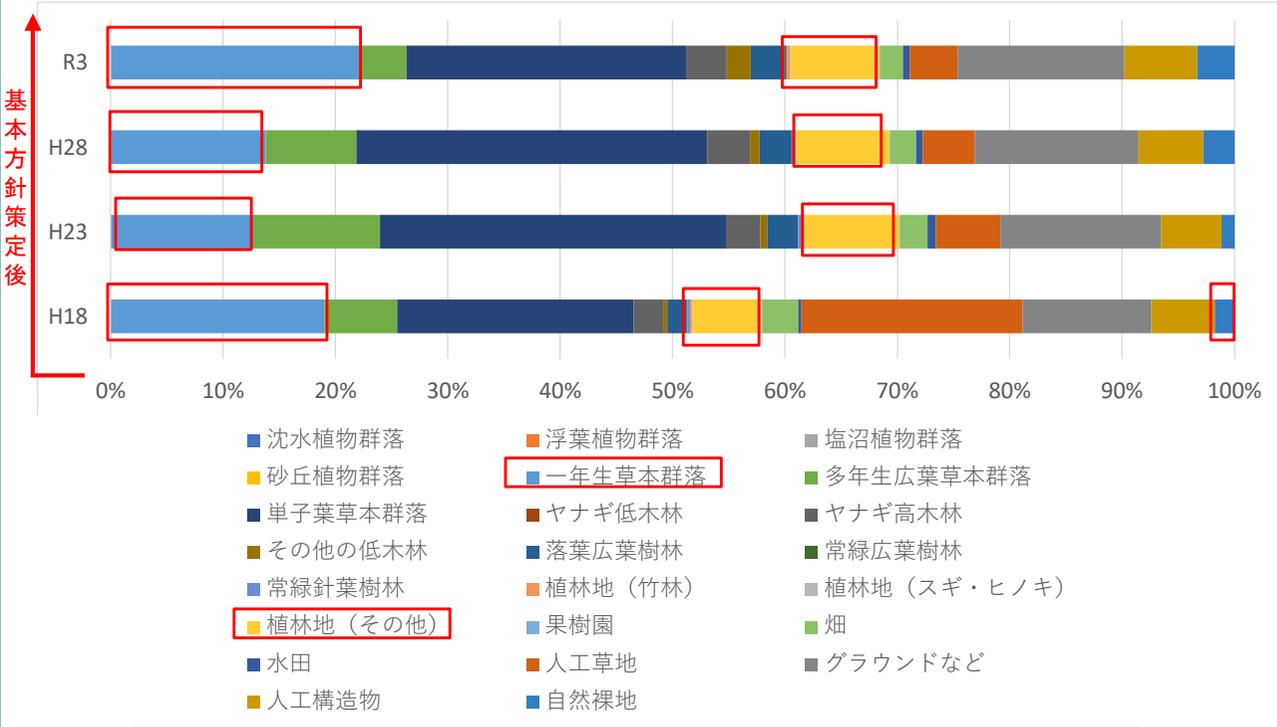
## 鳥類相の現状



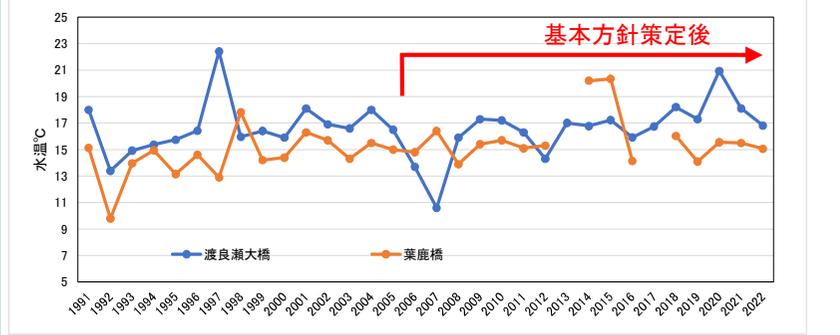
## 気温・水温の経年・経月変化



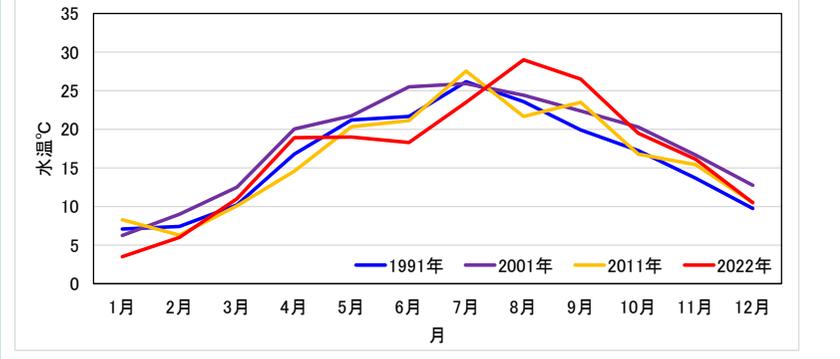
## 河道内の植物群落の現状



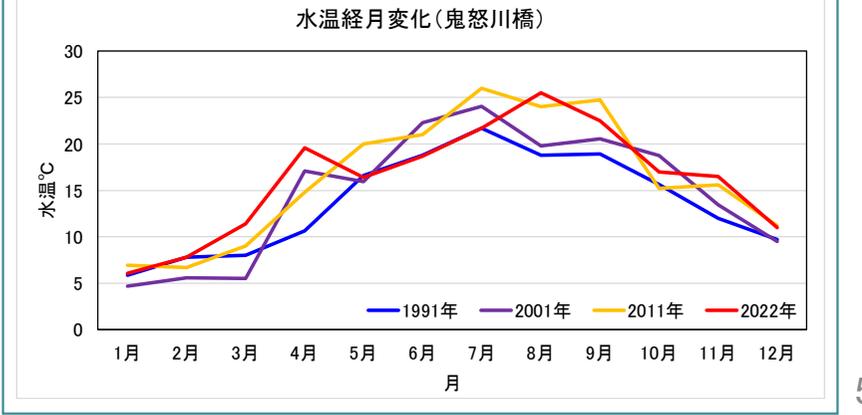
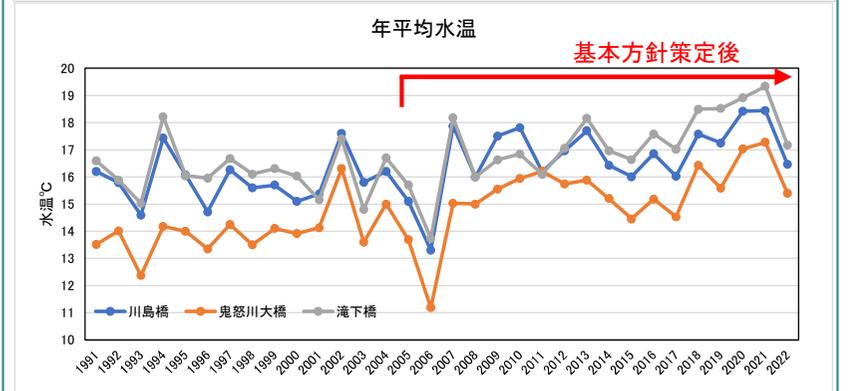
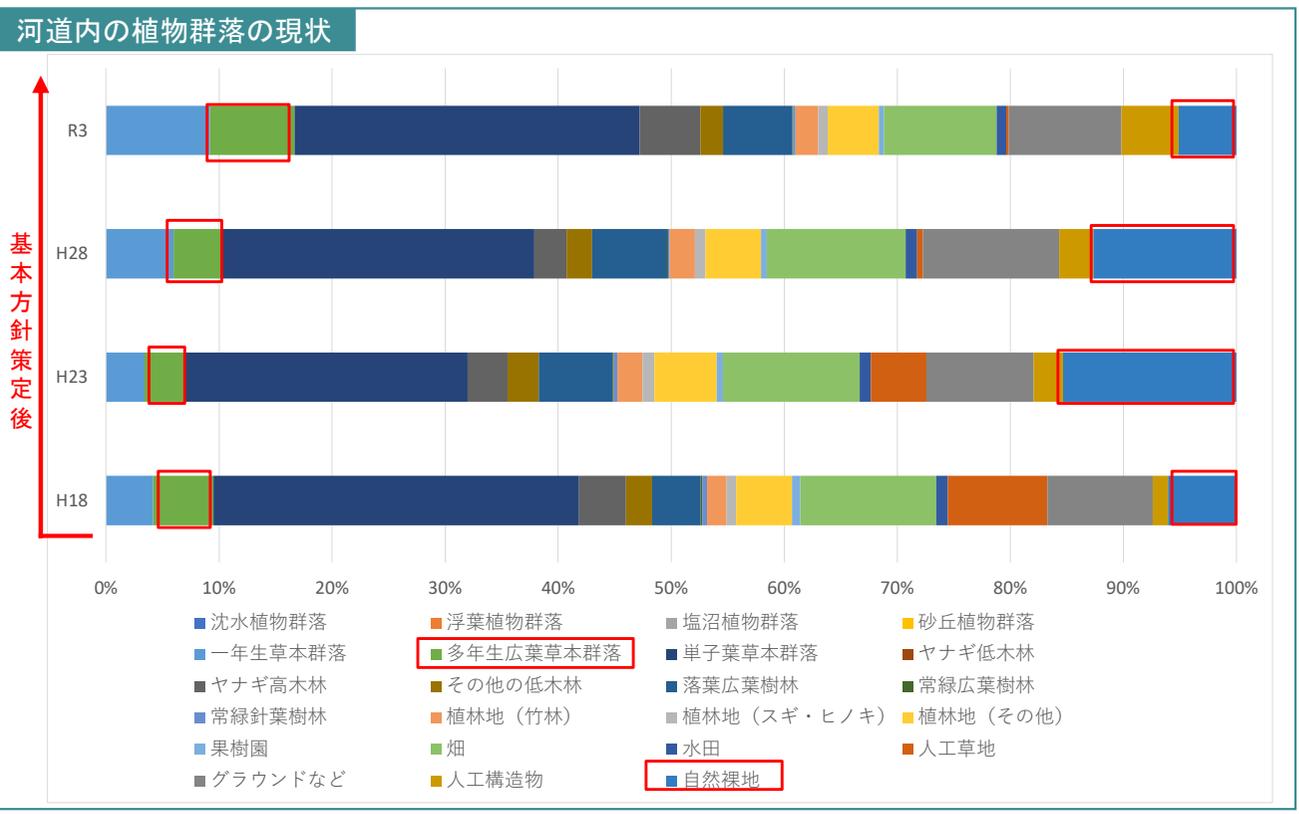
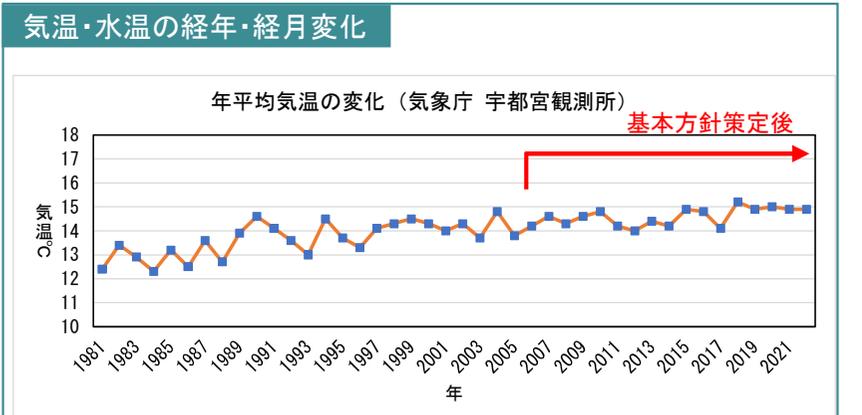
## 年平均水温



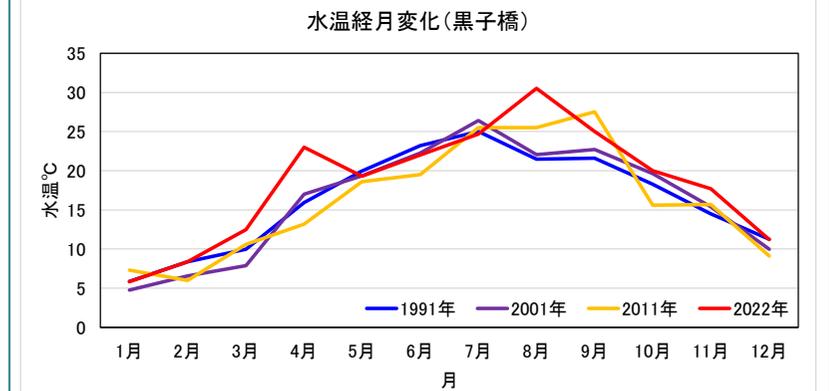
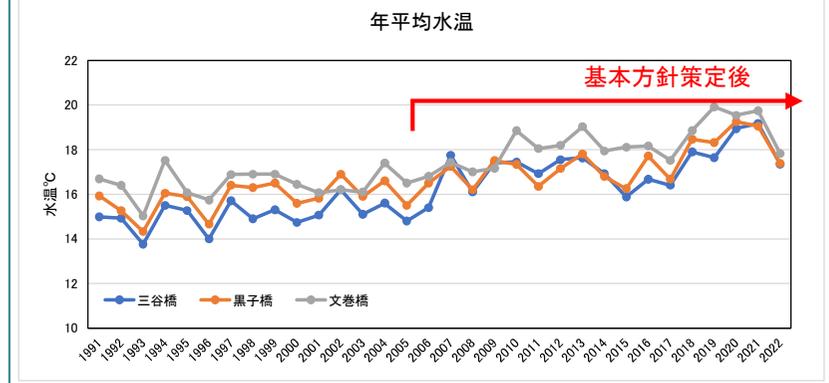
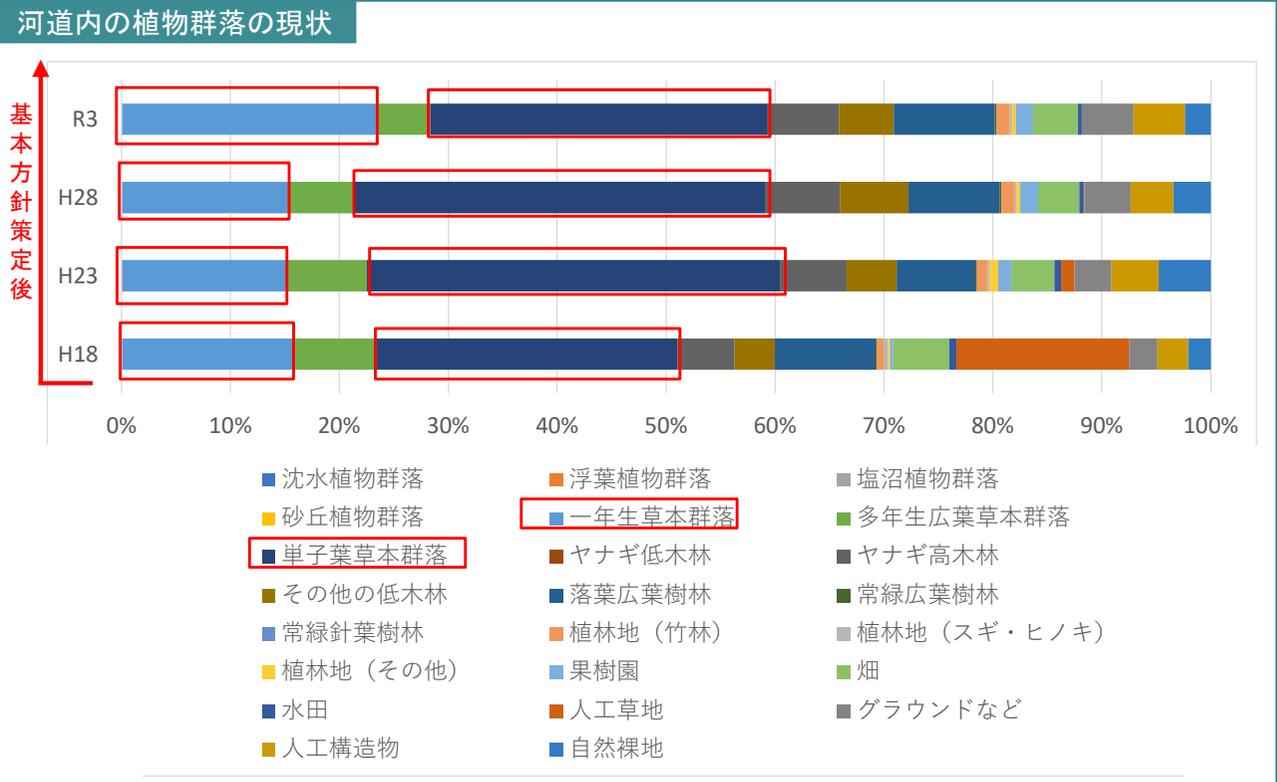
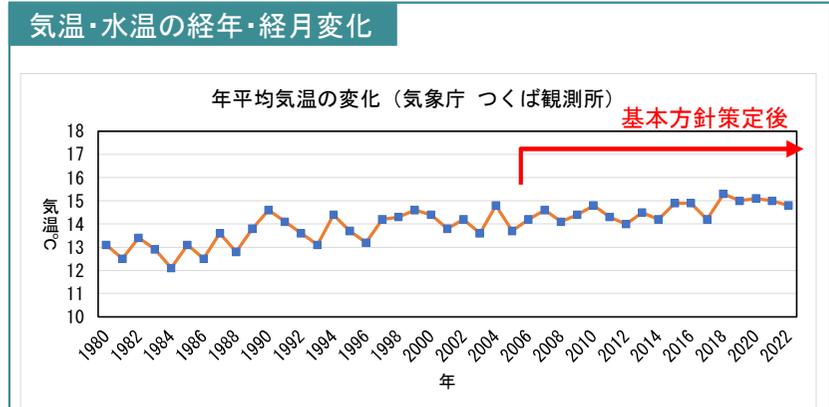
## 水温経月変化(渡良瀬大橋)



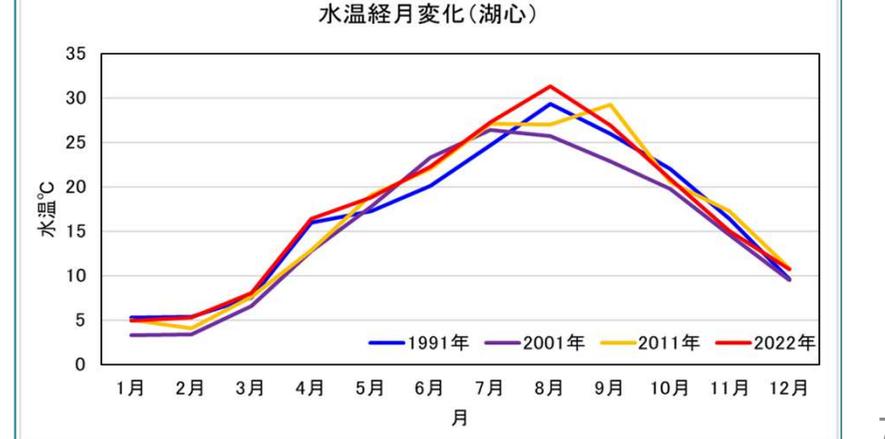
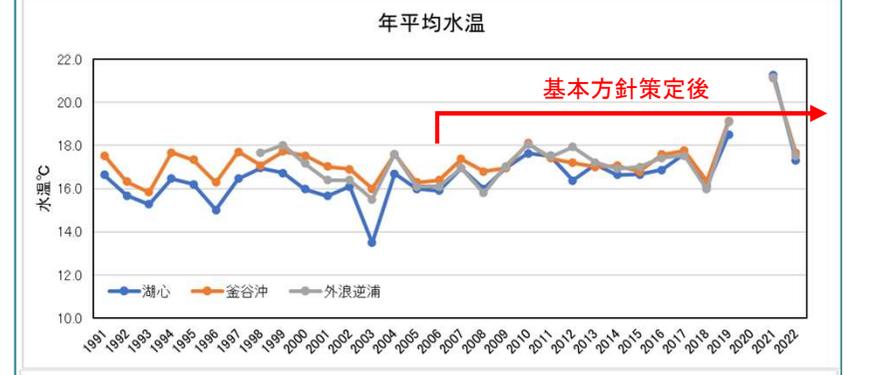
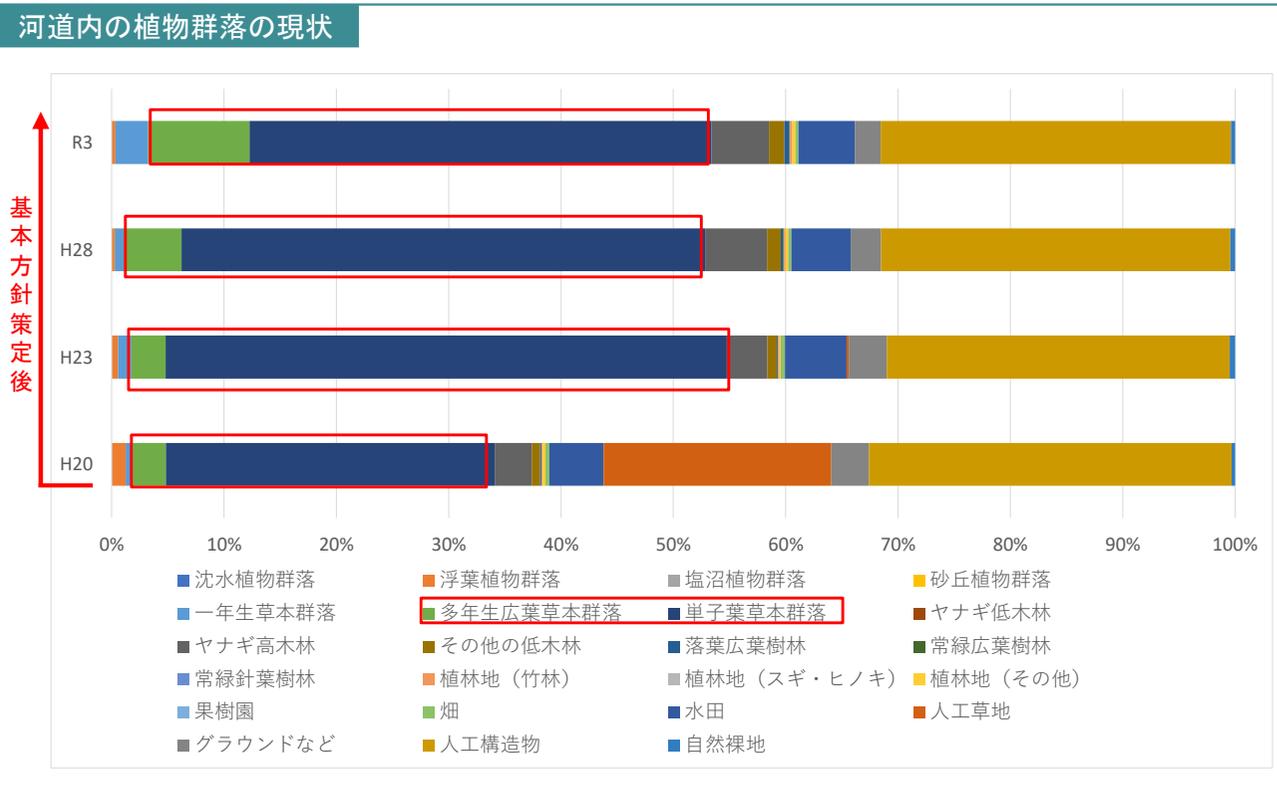
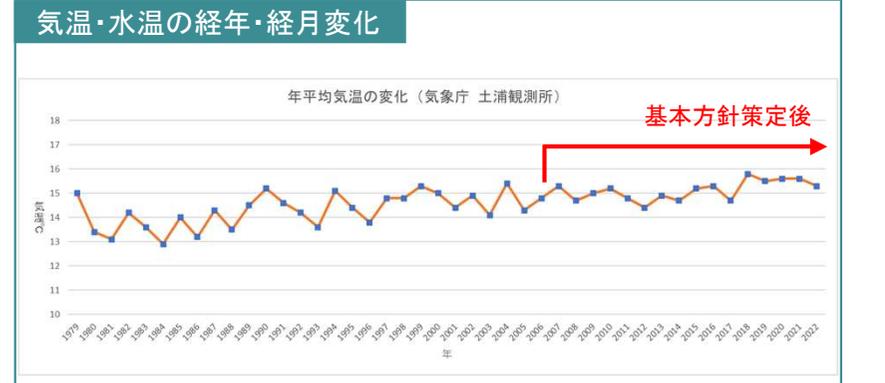
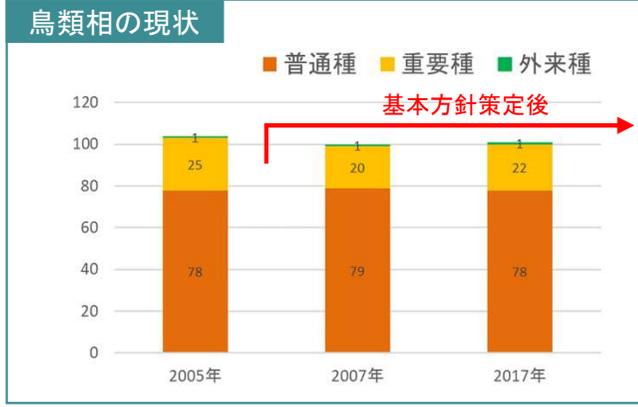
- 鬼怒川上流は急流で、礫河原による網状流路が形成されており、下流は川幅が狭く、流れが緩やかで滞筋が単列化している。
- 魚類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化は見られず、鳥類の種数は、過年度で確認されている種については概ね確認できた。
- 植物群落の変遷では、多年生広葉草本群落の増加傾向で、自然裸地が減少傾向である。
- 年平均気温は、宇都宮観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。鬼怒川大橋地点の平均水温も同様に約2℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。



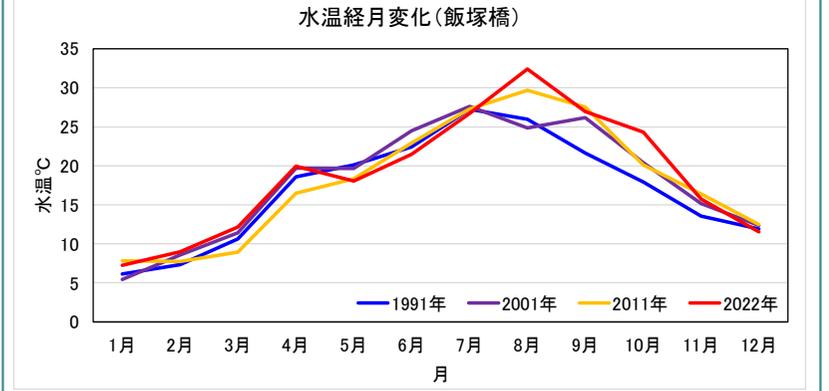
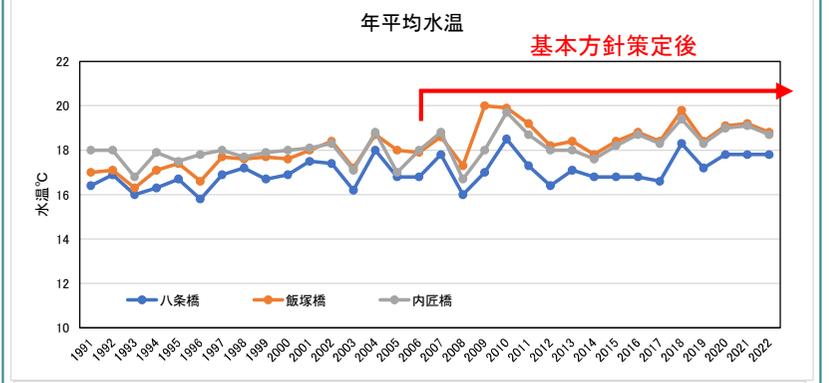
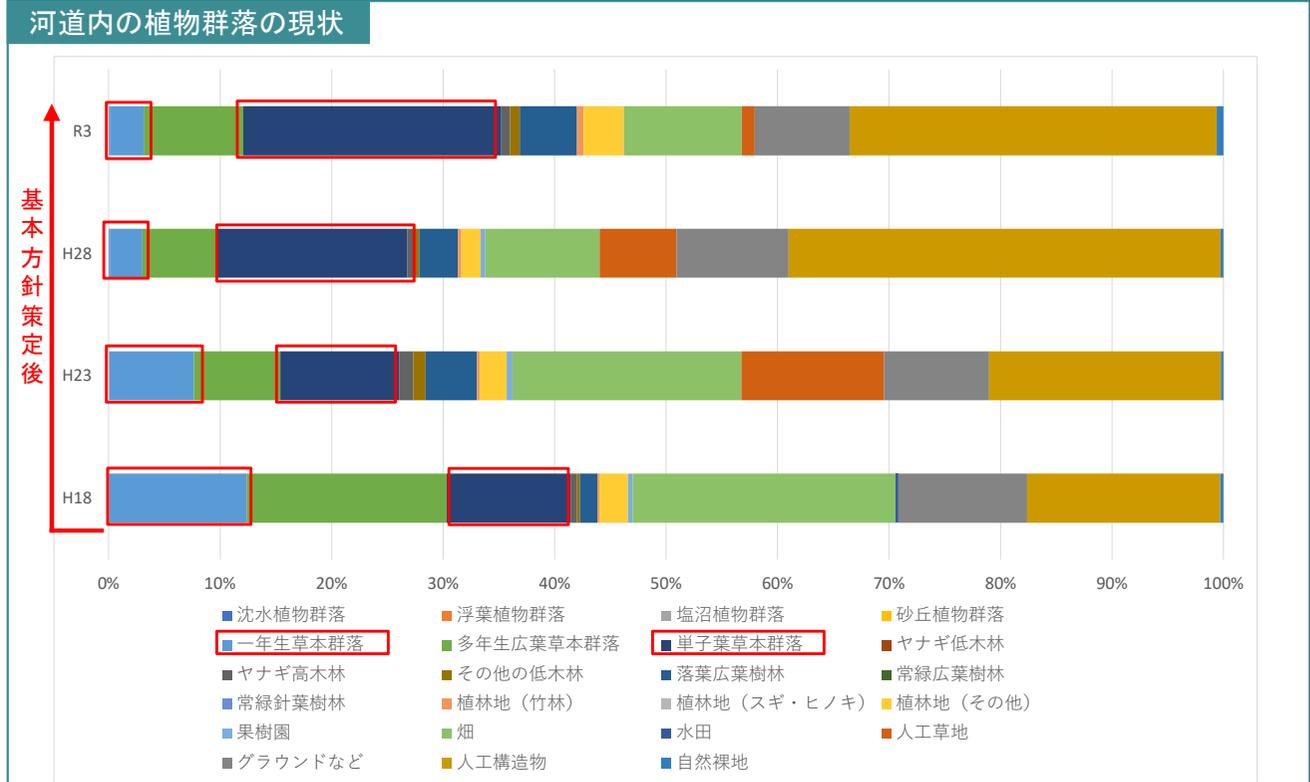
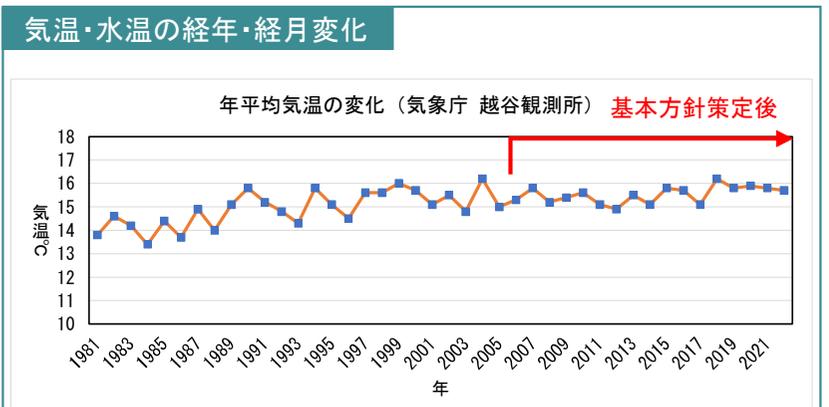
- 小貝川上流は、掘込み河道となっており、瀬と淵が連続する区間があり、下流は3つの取水堰による湛水域が形成されている。
- 魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、一年生草本群落、単子葉草本群落が増加傾向である。
- 年平均気温は、つくば観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。黒子橋地点の平均水温も同様に約2℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。



- 霞ヶ浦(霞ヶ浦(西浦)、北浦、常陸利根川)は、複数の流入支川をもち、霞ヶ浦(西浦)、北浦と合流した常陸利根川が利根川と合流する。常陸利根川の河床勾配はほとんどない。
- 魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、多年生広葉草本群落の増加傾向がみられ、単子葉草本群落が増加傾向である。
- 年平均気温は、土浦観測所において現行の河川整備基本方針策定以降ほぼ横ばいの傾向である。湖心地点の平均水温は約2℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。



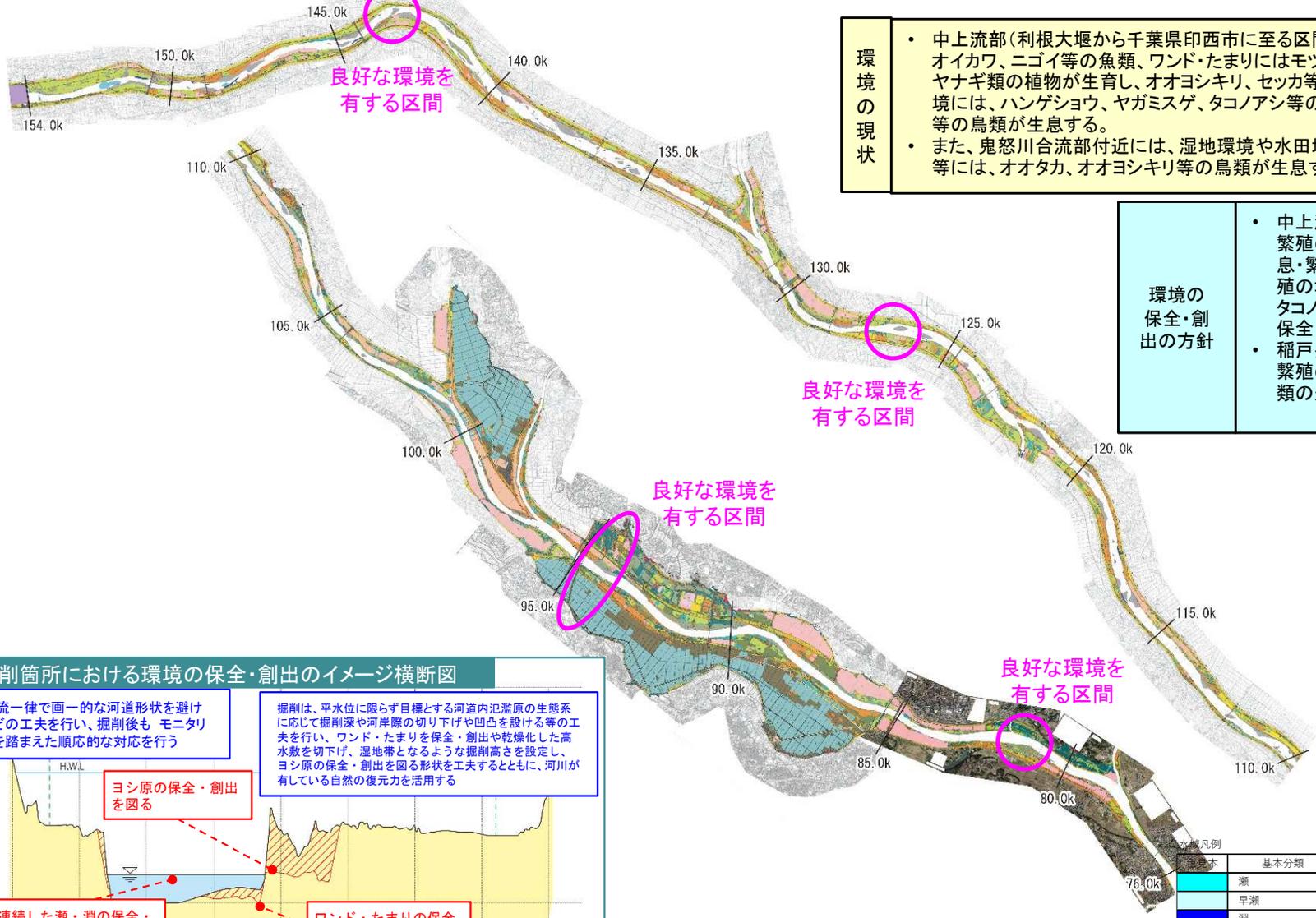
- 中川は低地を緩やかに流下し、潮止橋付近より上流の右岸に高水敷が存在している。綾瀬川は単断面河道で大部分が鋼矢板護岸となっている。いずれの河川も感潮区間である。
- 中川では、魚類・鳥類の種数は、現行の河川整備基本方針策定後、経年的に大きな変化はみられず、ほぼ横ばいの傾向である。
- 植物群落の変遷では、一年生草本群落の減少傾向で、単子葉草本群落が増向傾向である。
- 年平均気温は、越谷観測所において現行の河川整備基本方針策定以降、約1℃程度上昇している。飯塚橋地点の平均水温も同様に約1℃程度上昇している。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境等に係る観測・調査を継続的に行い、気候変動による河川環境への影響の把握に努める。





# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析②【本川中上流部】

- 利根川中上流部では、瀬・淵には、ニゴイ等の魚類、ワンド・たまりにはモツゴ等の魚類が生息する。河岸にヨシ等の植物が生育し、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ類の哺乳類が生息し、湿地環境には、ハンゲショウ等の植物が生育し、中州等にはコアジサシ類等の鳥類が生息する。
- 鬼怒川合流部付近には、湿地環境や水田地帯が広がり、稲戸井調節池周辺は、ハンノキ林、ヨシ原等には、オオヨシキリ等の鳥類が生息する。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、連続した瀬と淵、ワンド・たまりの保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。



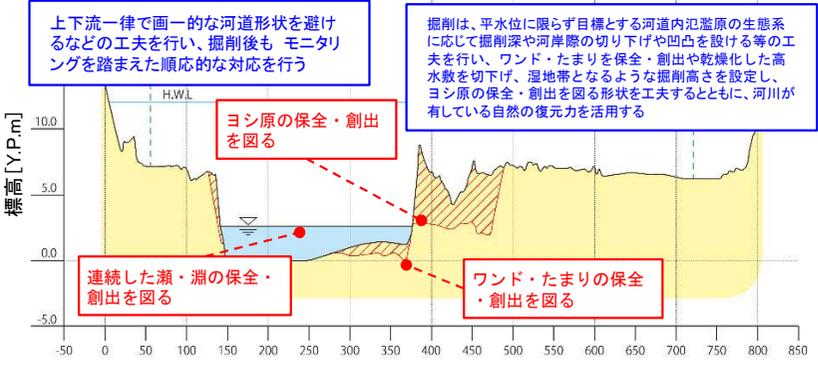
**環境の現状**

- ・ 中上流部(利根大堰から千葉県印西市に至る区間)は、広大な河川空間が形成され、瀬・淵には、オイカワ、ニゴイ等の魚類、ワンド・たまりにはモツゴ等の魚類が生息する。河岸にヨシ・オギ群落、ヤナギ類の植物が生育し、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類やカヤネズミ類の哺乳類が生息し、湿地環境には、ハンゲショウ、ヤガミスゲ、タコノアシ等の植物が生育し、中州等にはコアジサシやチドリ類等の鳥類が生息する。
- ・ また、鬼怒川合流部付近には、湿地環境や水田地帯が広がり、稲戸井調節池のハンノキ林、ヨシ原等には、オオタカ、オオヨシキリ等の鳥類が生息する。

**環境の保全・創出の方針**

- ・ 中上流部では、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、オイカワ、ニゴイ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬・淵、モツゴ等の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、ハンゲショウ、ヤガミスゲ、タコノアシ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。
- ・ 稲戸井調節池については、オオタカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるハンノキ林の保全、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原の保全・創出を図る。

河道掘削箇所における環境の保全・創出のイメージ横断図



植生凡例

色見本	基本分類
[Blue]	沈水植物群落
[Dark Blue]	浮葉植物群落
[Light Blue]	一年生草本群落
[Green]	多年生広葉草本群落
[Light Green]	単子葉草本群落
[Yellow-Green]	単子葉草本群落
[Yellow]	単子葉草本群落
[Light Yellow]	単子葉草本群落
[Light Green]	ヤナギ高木林
[Green]	その他の低木林
[Dark Green]	落葉広葉樹林
[Light Green]	常緑広葉樹林
[Red]	植林地(竹林)
[Brown]	植林地(スギ・ヒノキ)
[Dark Brown]	植林地(その他)
[Dark Brown]	果樹園
[Dark Brown]	畑
[Light Blue]	水田
[Light Blue]	人工草地
[Light Blue]	グラウンドなど
[Light Blue]	人工構造物
[Light Blue]	自然裸地
[Light Blue]	開放水面

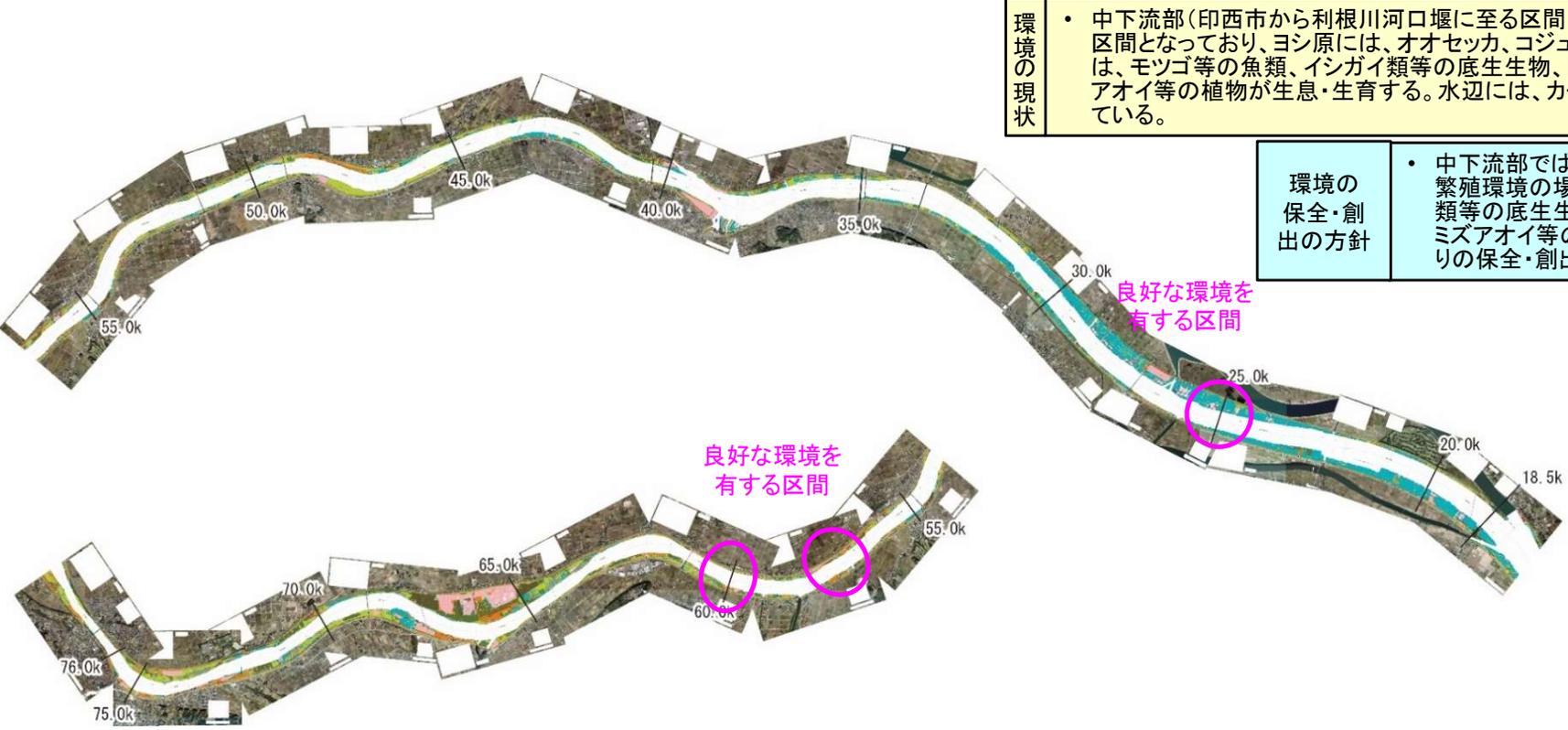
  

色見本	基本分類
[Light Blue]	瀬
[Light Blue]	早瀬
[Light Blue]	淵
[Light Blue]	湧水
[Light Blue]	ワンド・たまり
[Light Blue]	湛水域



# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析②【本川中下流部】

- 利根川中下流部は、ヨシ原には、オオセッカ、コジュリン等の鳥類が生息し、ワンド・たまりには、モツゴ等の魚類、イシガイ類等の底生生物、トウキョウダルマガエル等の両生類、ミズアオイ等の植物が生息・生育する。水辺には、カモ類、サギ類、カモメ類等の鳥類が生息している。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、ワンド・たまりの保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。



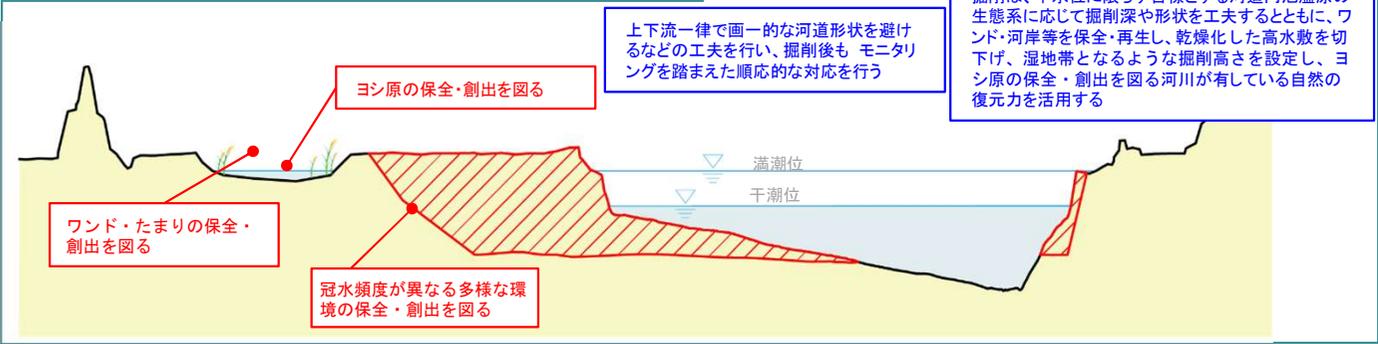
**環境の現状**

- 中下流部(印西市から利根川河口堰に至る区間)は、河床勾配は緩やかで、河口堰の湛水区間となっており、ヨシ原には、オオセッカ、コジュリン等の鳥類が生息し、ワンド・たまりには、モツゴ等の魚類、イシガイ類等の底生生物、トウキョウダルマガエル等の両生類、ミズアオイ等の植物が生息・生育する。水辺には、カモ類、サギ類、カモメ類等の鳥類が生息している。

**環境の保全・創出の方針**

- 中下流部では、オオセッカ、コジュリン等の鳥類の生息・繁殖環境の場となるヨシ原、モツゴ等の魚類、イシガイ類等の底生生物、トウキョウダルマガエル等の両生類、ミズアオイ等の生息・生育・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。

## 河道掘削箇所における環境の保全・創出のイメージ横断面図



植生凡例

色見本	基本分類
[Purple]	沈水植物群落
[Light Purple]	浮葉植物群落
[Orange]	一年生草本群落
[Green]	多年生広葉草本群落
[Light Green]	単子葉草本群落
[Yellow-Green]	単子葉草本群落
[Yellow]	単子葉草本群落
[Light Green]	ヤナギ高木林
[Light Green]	その他の低木林
[Light Green]	落葉広葉樹林
[Light Green]	常緑広葉樹林
[Red]	植林地(竹林)
[Red]	植林地(その他)
[Brown]	果樹園
[Brown]	畑
[Light Blue]	水田
[Light Blue]	人工草地
[Light Blue]	グラウンドなど
[Light Blue]	人工構造物
[Light Blue]	自然裸地
[Light Blue]	開放水面

水域凡例

色見本	基本分類
[Blue]	湖
[Blue]	ワンド・たまり
[Blue]	湛水域
[Blue]	干潟
[Blue]	横断工作物
[Blue]	樋門・樋管



# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析②【本川下流部】

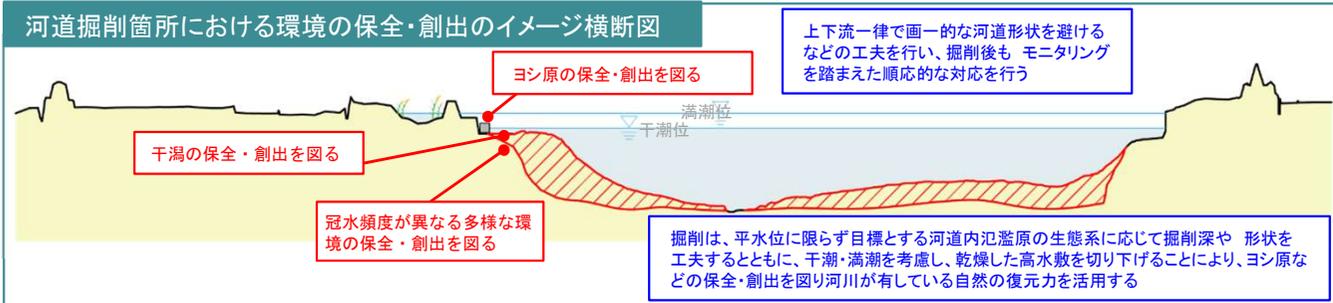
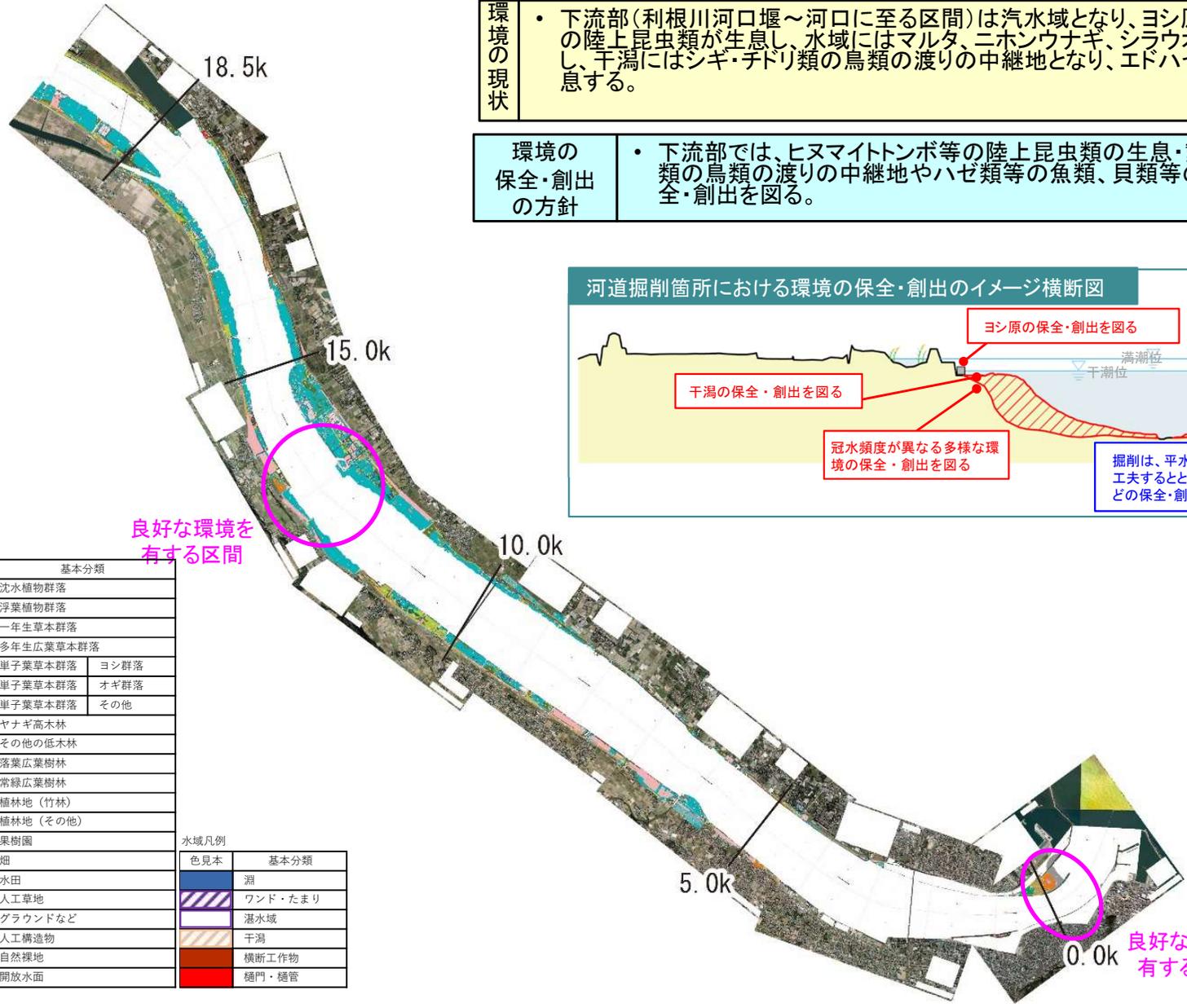
- 下流部は汽水域となり、ヨシ原にはヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類が生息し、水域にはマルタ等の回遊魚やスズキ等の魚類が生息し、干潟にはシギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地となり、エドハゼ等の魚類やヤマトシジミ等の底生動物が生息する。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、干潟の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

**環境の現状**

- 下流部(利根川河口堰～河口に至る区間)は汽水域となり、ヨシ原にはヒヌマイトトンボ、キイロホソゴミムシ等の陸上昆虫類が生息し、水域にはマルタ、ニホンウナギ、シラウオ等の回遊魚やスズキ、ボラ等の魚類が生息し、干潟にはシギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地となり、エドハゼ等の魚類やヤマトシジミ等の底生動物が生息する。

**環境の保全・創出の方針**

- 下流部では、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場となる汽水域のヨシ原、シギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地やハゼ類等の魚類、貝類等の底生生物の生息・繁殖の場となる干潟の保全・創出を図る。



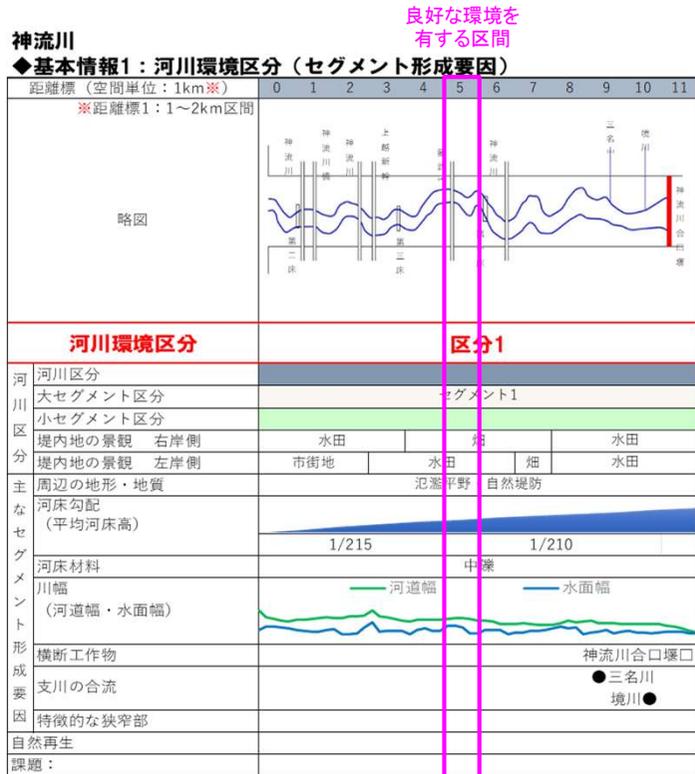
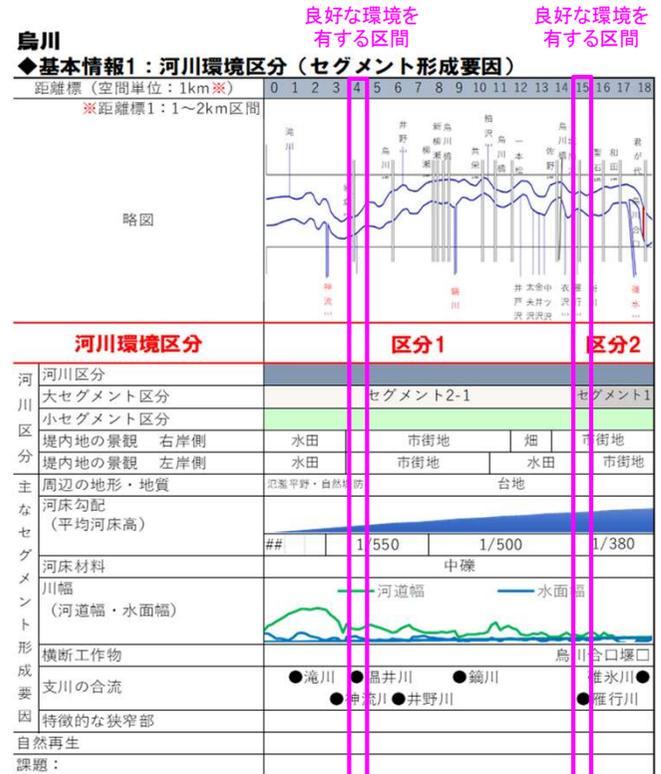
植生凡例

色見本	基本分類
沈水植物群落	
浮葉植物群落	
一年生草本群落	
多年生広葉草本群落	
単子葉草本群落	
単子葉草本群落	
単子葉草本群落	
単子葉草本群落	
ヤナギ高木林	
その他の低木林	
落葉広葉樹林	
常緑広葉樹林	
植林地(竹林)	
植林地(その他)	
果樹園	

水域凡例

色見本	基本分類
畑	
水田	
人工草地	
グラウンドなど	
人工構造物	
自然裸地	
開放水面	
湖	
ワンド・たまり	
湛水域	
干潟	
横断工作物	
樋門・樋管	

○ 烏川・神流川では、「連続した瀬と淵」、「ワンド・たまり」、及び「礫河原」として「自然裸地」、「ヨシ原」として「水生植物帯」の分布状況を確認した。  
 ○ これらの良好な生息場は、烏川の4~5km、15~16km、神流川の5~6kmに見られ、当該区間では特徴的で良好な動植物の生息・生育・繁殖の場を形成している。



◆基本情報2-2：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）

距離標（空間単位：1km）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
陸域																				
水域																				
汽水域																				
水																				
特殊																				
生息場の多様性の評価値	4	4	5	2	5	2	5	3	3	1	1	2	2	3	5	5	3	2	3	

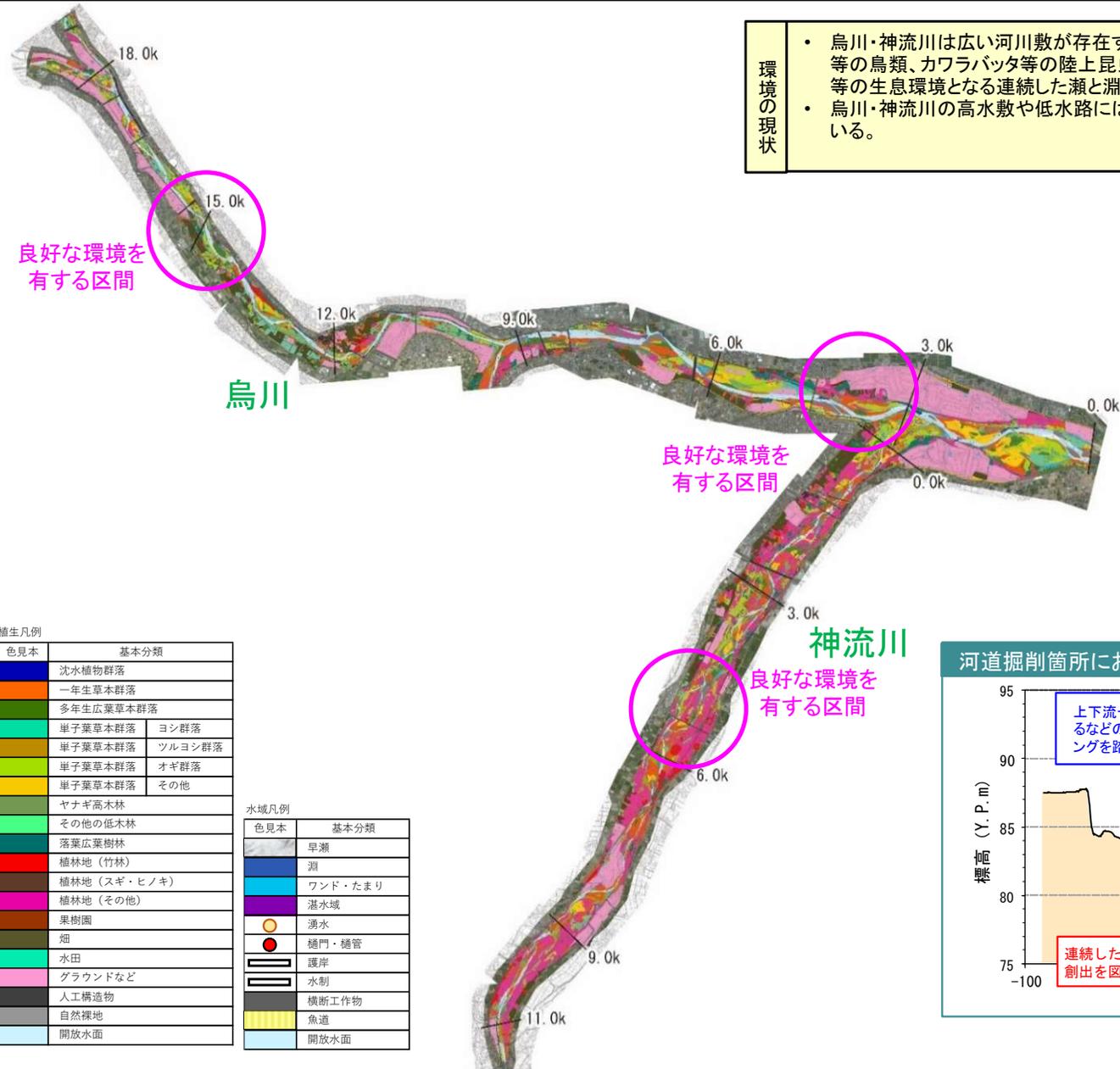
◆基本情報2-2：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）

距離標（空間単位：1km）	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
陸域													
水域													
汽水域													
水													
特殊													
生息場の多様性の評価値	2	5	4	4	6	6	3	2	2	2	2	0	



# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析②【烏川・神流川】

- 烏川・神流川は、オオヨシキリ等の鳥類が生息する水際のヨシ原、イカルチドリ等の鳥類、カワラバッタ等の陸上昆虫類、カワラサイコ等の植物が生息・生育する礫河原、ギバチ等の生息環境となる連続した瀬と淵、ムサシノジュズカケハゼ等が生息するワンド・たまりが形成されている。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、礫河原、連続した瀬・淵、ワンド・たまりの保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。



**環境の現状**

- ・ 烏川・神流川は広い河川敷が存在する扇状地河川であり、オオヨシキリ等の鳥類が生息する水際のヨシ原、イカルチドリ等の鳥類、カワラバッタ等の陸上昆虫類、カワラサイコ等の植物が生息・生育する礫河原、オイカワ、アブラハヤ、ギバチ等の生息環境となる連続した瀬と淵、ムサシノジュズカケハゼ等が生息するワンド・たまりが形成されている。
- ・ 烏川・神流川の高水敷や低水路にはハリエンジュを中心とした樹木が繁茂しており、特に神流川では樹林化が進行している。

**環境の保全・創出の方針**

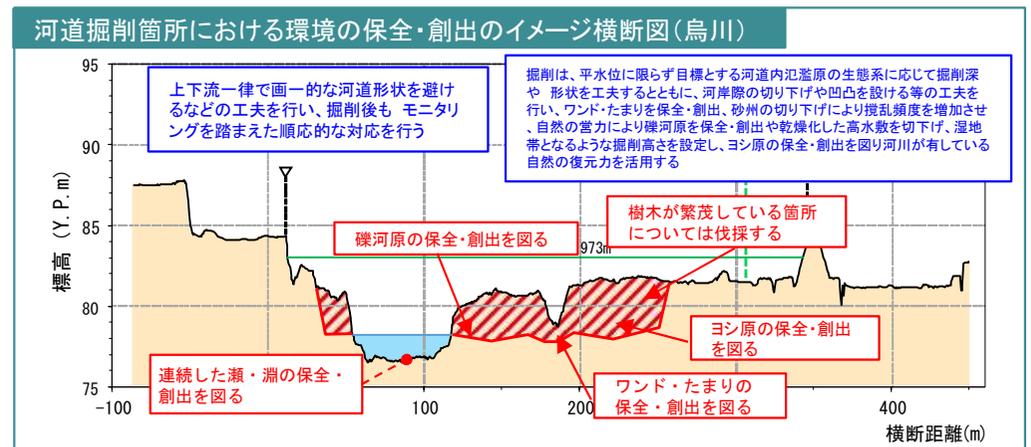
- ・ 烏川・神流川では、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、イカルチドリ等の鳥類、カワラバッタ等の陸上昆虫類、カワラサイコ等の植物の生息・生育・繁殖の場となる礫河原、オイカワ、アブラハヤ、ギバチ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬と淵、ムサシノジュズカケハゼ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。
- ・ 神流川については、ハリエンジュを中心とした樹林化対策を進める。

植生凡例

色見本	基本分類
Blue	沈水植物群落
Orange	一年生草本群落
Green	多年生広葉草本群落
Light Green	単子葉草本群落 ヨシ群落
Yellow-Green	単子葉草本群落 ツルヨシ群落
Yellow	単子葉草本群落 オギ群落
Light Yellow	単子葉草本群落 その他
Dark Green	ヤナギ高木林
Light Green	その他の低木林
Dark Green	落葉広葉樹林
Red	植林地(竹林)
Brown	植林地(スギ・ヒノキ)
Pink	植林地(その他)
Dark Brown	果樹園
Light Green	畑
Light Blue	水田
Light Green	グラウンドなど
Dark Grey	人工構造物
Light Grey	自然裸地
Light Blue	開放水面

水域凡例

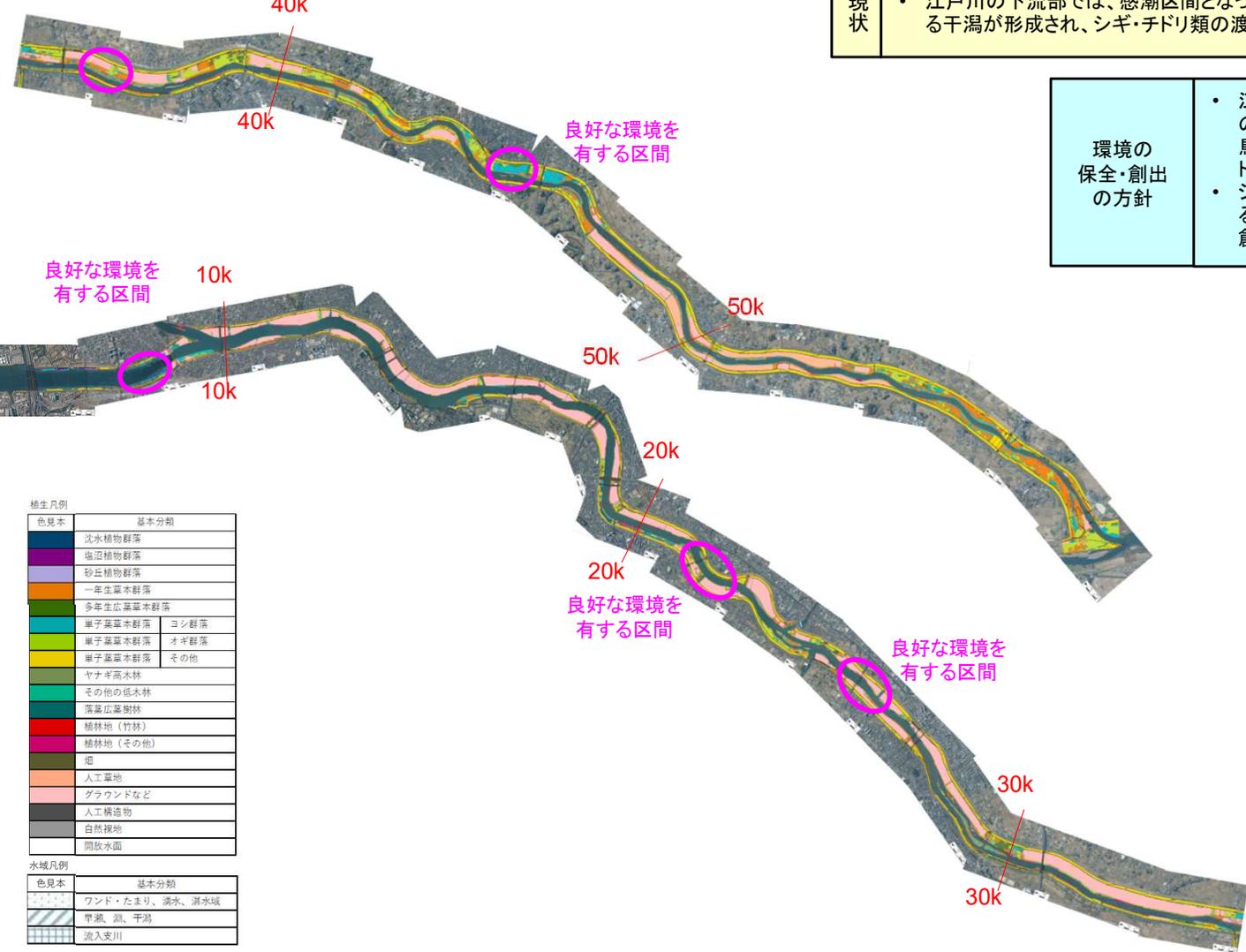
色見本	基本分類
Blue	早瀬
Dark Blue	淵
Light Blue	ワンド・たまり
Dark Blue	湛水域
Yellow Circle	湧水
Red Circle	樋門・樋管
Black Line	護岸
Black Line	水制
Black Line	横断工作物
Yellow	魚道
Light Blue	開放水面





- 江戸川は、ヨシ原等にはオオヨシキリ等の鳥類、ヒヌマイトンボ等の陸上昆虫類が生息し、砂州にはコチドリ等の鳥類が生息し、ワンド・たまりには、タモロコ等の魚類が生息し、カイツブリ等の鳥類、ニホンアカガエル等が生息する。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、ワンド・たまり、砂洲、干潟、湿地環境の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

良好な環境を有する区間



**環境の現状**

- 江戸川の上流部では、ワンド・たまり、蛇行部の砂州が形成され、ヨシ原等にはオオヨシキリやセッカ等の鳥類、ヒヌマイトンボ等の陸上昆虫類が生息し、砂州にはコチドリ等の鳥類が生息する。ワンド・たまりには、タモロコ、ミナミメダカ等の魚類が生息し、カイツブリ等の鳥類、ニホンアカガエル等が生息する。
- 江戸川の下流部では、感潮区間となっており、ヨシ群落やシオクグ等の植物が生育する。トビハゼ等の魚類が生息する干潟が形成され、シギ・チドリ類の渡りの中継地になっている。

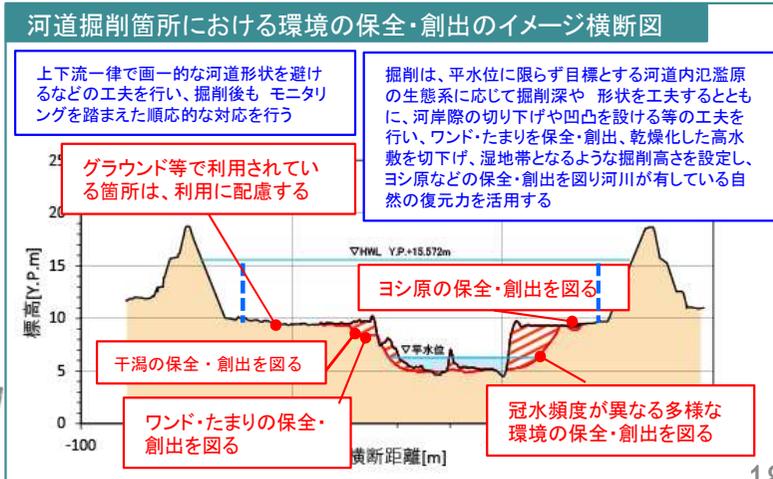
**環境の保全・創出の方針**

- 江戸川では、ヒヌマイトンボ等の陸上昆虫類、オオヨシキリやセッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、タモロコやミナミメダカ等の魚類、カイツブリ等の鳥類、ニホンアカガエル等の両生類の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、コチドリ等の鳥類の生息・繁殖の場となる砂州の保全・創出を図る。
- シギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地やハゼ類等の魚類の生息・繁殖の場となる干潟、ヨシ群落やシオクグ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。

植生凡例	
色見本	基本分類
[Blue]	沈水植物群落
[Green]	塩沼植物群落
[Yellow]	砂丘植物群落
[Orange]	一年生草本群落
[Red]	多年生広葉草本群落
[Light Green]	単子葉草本群落 ヨシ群落
[Dark Green]	単子葉草本群落 オギ群落
[Light Yellow]	単子葉草本群落 その他
[Dark Green]	ヤナギ高木林
[Light Green]	その他の低木林
[Dark Green]	落葉広葉樹林
[Red]	植林地(竹林)
[Pink]	植林地(その他)
[Brown]	畑
[Orange]	人工草地
[Light Green]	グラウンドなど
[Dark Grey]	人工構造物
[Light Grey]	自然裸地
[Blue]	開放水面

水域凡例	
色見本	基本分類
[Blue]	ワンド・たまり、湧水、淵水域
[Light Blue]	草瀬、洲、干潟
[Dark Blue]	流入支川



# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析①【渡良瀬川】

○ 渡良瀬川では、「連続する瀬と淵」、及び「礫河原」を示す「自然裸地」、「ヨシ・オギ群落」を示す「水生植物帯」と「オギ群落」の分布状況を確認した。  
 ○ これらの良好な生息場は、15～16km、27～28km、50～51kmに見られ、当該区間では特徴的で良好な動植物の生息・生育・繁殖の場を形成している。

## ◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）

距離標 (空間単位: 1km※)	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55							
略図	[略図: 渡良瀬川沿線の地形、橋梁、支川を示す線図]																																																	
河川環境区分	区分1															区分2										区分3																								
河川区分	渡良瀬川A区間															渡良瀬川B区間																																		
大セグメント区分	セグメント2-2															セグメント2-1										セグメント1																								
小セグメント区分	小セグメント①					小セグメント②					小セグメント③					小セグメント④					小セグメント⑤					小セグメント⑥					小セグメント⑦					小セグメント⑧														
堤内地の景観 右岸側	農地・住宅地															住宅地										住宅地																								
堤内地の景観 左岸側	農地・住宅地															住宅地										住宅地																								
周辺の地形・地質	低地 (扇状地、氾濫平野)																																																	
河床勾配 (平均河床高)	1/4,100					1/2,000					1/1,700					1/700					1/430					1/310					1/210					1/40														
河床材料(粒径)	0.3mm					0.5mm					26.7mm					44.3mm					64.8mm					70.8mm					99.9mm					105.6mm														
川幅 (河道幅・水面幅)	[河道幅・水面幅の線グラフ]																																																	
横断工作物	●邑楽頭首工 ●矢場川 ●才川 ●旗川 ●袋川 ●蓮台寺 ●松田川 ●小俣川 ●桐生川 ●太田頭首工 ●広沢川																																																	
支川の合流	●三杉山川 ●菊沢川 ●才川 ●旗川 ●袋川 ●蓮台寺 ●松田川 ●小俣川 ●桐生川 ●太田頭首工 ●広沢川																																																	
水辺整備	●足利中央地区															●五十部地区																																		

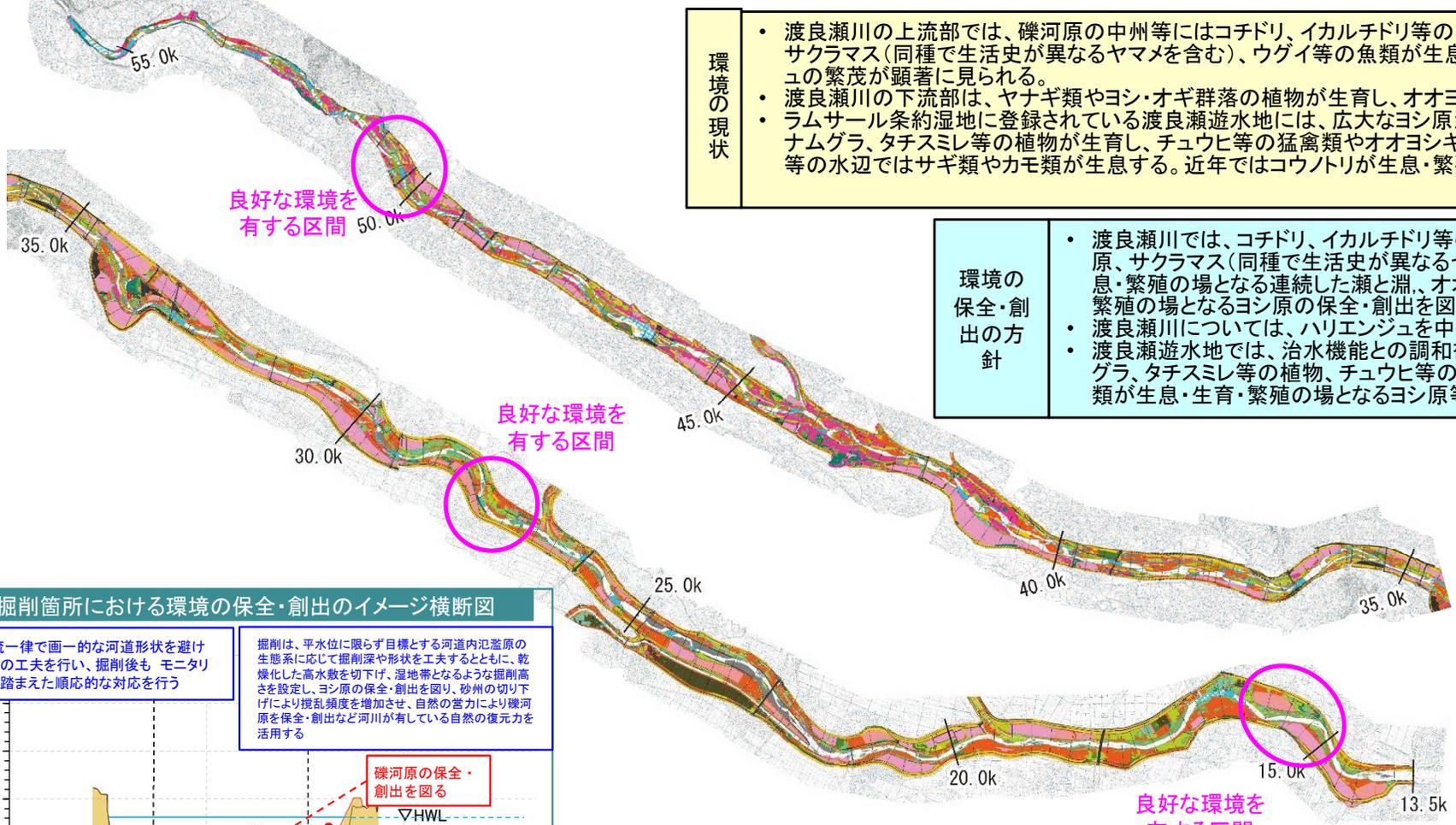


## ◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）

距離標 (空間単位: 1km)	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55							
陸域	[陸域生息場評価マトリクス]																																																	
水際	[水際生息場評価マトリクス]																																																	
水域	[水域生息場評価マトリクス]																																																	
汽水域	[汽水域生息場評価マトリクス]																																																	
水	[水生植物帯評価マトリクス]																																																	
特殊性	[特殊生息場評価マトリクス]																																																	
生息場の多様性の評価値	3	2	4	2	4	5	6	4	3	4	5	2	4	7	6	5	5	4	3	3	4	3	5	4	6	3	2	2	4	3	4	5	1	1	3	1	4	3	2	5	4	2	3							

# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析② 【渡良瀬川】

- 渡良瀬川の上流部は、礫河原の中州等にはコチドリ等の鳥類が生息し、連続した瀬と淵には、サクラマス(同種で生活史が異なるヤマメを含む)等の魚類が生息する。近年は、高水敷にハリエンジュの繁茂が顕著に見られる。下流部は、ヨシ群落等の植物が生育し、オオヨシキリ等の鳥類が生息する。
- 渡良瀬遊水地には、トネハナヤスリ等の植物が生育し、チュウヒ等の猛禽類やオオヨシキリ等の鳥類が生息する。
- 河道掘削を実施する区間は、礫河原、ヨシ原、連続した瀬・淵の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

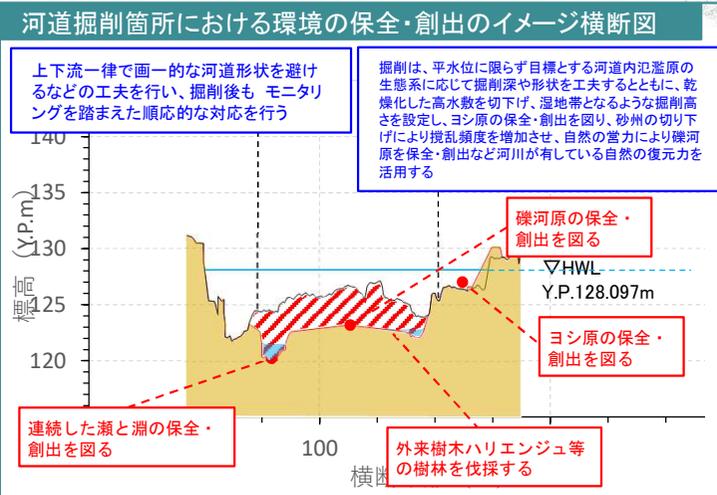


**環境の現状**

- 渡良瀬川の上流部では、礫河原の中州等にはコチドリ、イカルチドリ等の鳥類が生息し、連続した瀬と淵には、サクラマス(同種で生活史が異なるヤマメを含む)、ウグイ等の魚類が生息する。近年は、高水敷にハリエンジュの繁茂が顕著に見られる。
- 渡良瀬川の下流部は、ヤナギ類やヨシ・オギ群落の植物が生育し、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息する。
- ラムサール条約湿地に登録されている渡良瀬遊水地には、広大なヨシ原が広がるとともに、トネハナヤスリ、ハナムグラ、タチスミレ等の植物が生育し、チュウヒ等の猛禽類やオオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息し、谷中湖等の水辺ではサギ類やカモ類が生息する。近年ではコウノトリが生息・繁殖している。

**環境の保全・創出の方針**

- 渡良瀬川では、コチドリ、イカルチドリ等の鳥類の生息・繁殖の場となる礫河原、サクラマス(同種で生活史が異なるヤマメを含む)、ウグイ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬と淵、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原の保全・創出を図る。
- 渡良瀬川については、ハリエンジュを中心とした樹林化対策を進める。
- 渡良瀬遊水地では、治水機能との調和を図りながらトネハナヤスリ、ハナムグラ、タチスミレ等の植物、チュウヒ等の猛禽類やオオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息・生育・繁殖の場となるヨシ原等の湿地の保全・創出を図る。



植生凡例

色見本	基本分類
Blue	沈水植物群落
Orange	一年生草本群落
Green	多年生広葉草本群落
Light Green	単子葉草本群落
Yellow	単子葉草本群落
Light Yellow	単子葉草本群落
Yellow-Green	単子葉草本群落
Green	ヤナギ低木林
Dark Green	ヤナギ高木林
Light Green	その他の低木林
Green	落葉広葉樹林
Light Green	常緑広葉樹林
Dark Green	常緑針葉樹林
Red	植林地(竹林)
Light Green	植林地(スギ・ヒノキ)
Dark Green	植林地(その他)
Light Green	果樹園

水域凡例

色見本	基本分類
Blue	早瀬
Light Blue	淵
Light Blue	ワンド・たまり
Light Blue	湛水域
Light Blue	干潟
Blue	湧水
Blue	流入支川

Light Green	ヨシ群落
Light Green	ツルヨシ群落
Light Green	オギ群落
Light Green	その他



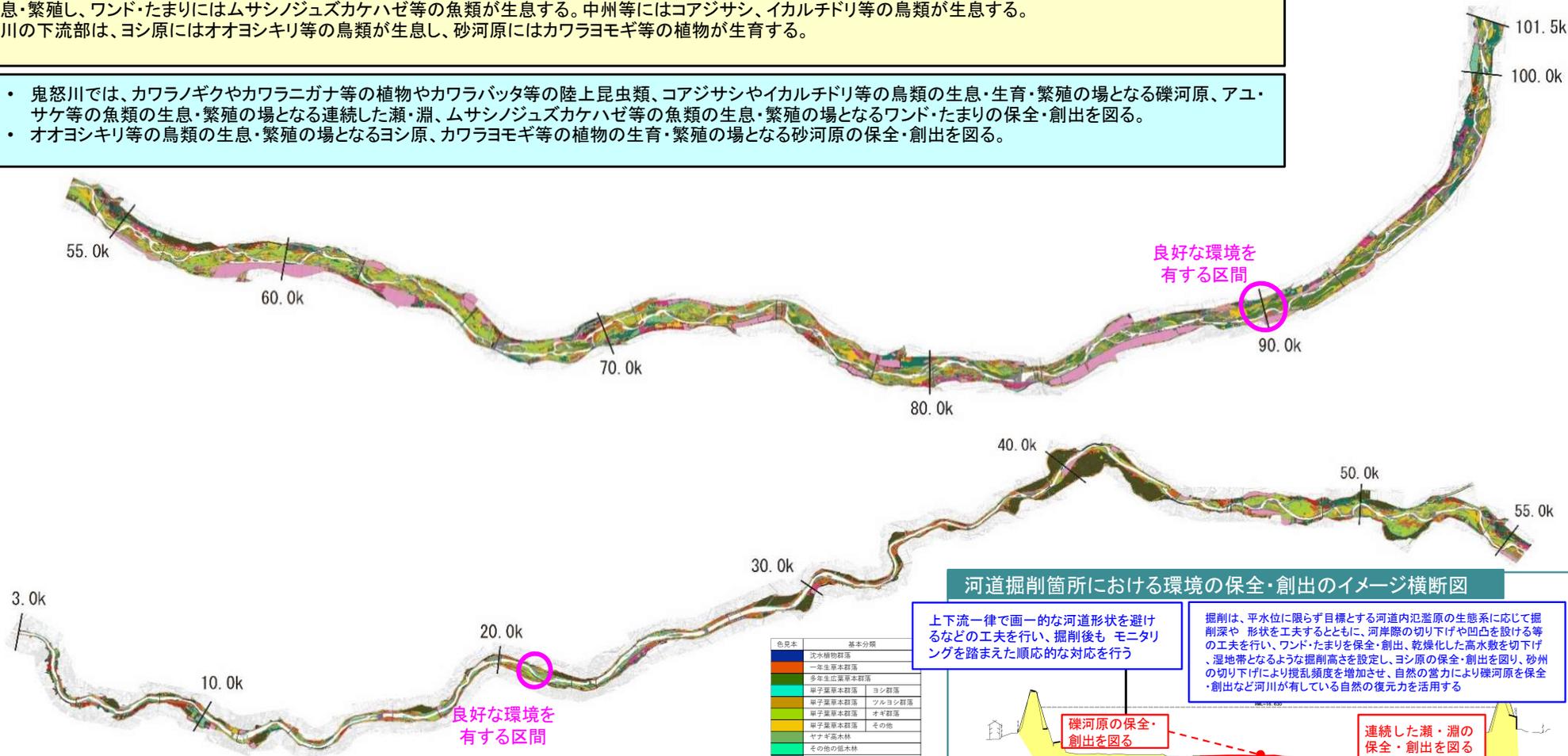
- 鬼怒川上流部は、カワラノギク等の植物が生育し、カワラバッタ等の陸上昆虫類が生息する。瀬・淵にはアユ・サケ等の魚類が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはムサシノジュズカケハゼ等の魚類が生息する。中州等にはコアシサシ、イカルチドリ等の鳥類が生息する。下流部は、ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類が生息し、砂河原にはカワラヨモギ等の植物が生育する。
- 河道掘削を実施する区間は、礫河原、連続した瀬・淵、ワンド・たまり、ヨシ原、砂河原の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

環境の現状

- ・ 鬼怒川の上流部は網状流路の礫河原となっており、カワラノギク、カワラニガナ等の植物が生育し、カワラバッタ等の陸上昆虫類が生息する。瀬・淵にはアユ・サケ等の魚類が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはムサシノジュズカケハゼ等の魚類が生息する。中州等にはコアシサシ、イカルチドリ等の鳥類が生息する。
- ・ 鬼怒川の下流部は、ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類が生息し、砂河原にはカワラヨモギ等の植物が生育する。

環境の保全・創出の方針

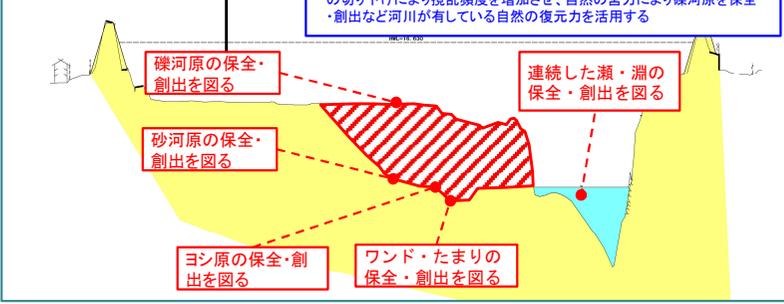
- ・ 鬼怒川では、カワラノギクやカワラニガナ等の植物やカワラバッタ等の陸上昆虫類、コアシサシやイカルチドリ等の鳥類の生息・生育・繁殖の場となる礫河原、アユ・サケ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬・淵、ムサシノジュズカケハゼ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。
- ・ オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、カワラヨモギ等の植物の生育・繁殖の場となる砂河原の保全・創出を図る。



河道掘削箇所における環境の保全・創出のイメージ横断面図

上下流一律で画一的な河道形状を避けるなどの工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う

掘削は、平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削深や形状を工夫するとともに、河岸線の切り下げや凹凸を設ける等の工夫を行い、ワンド・たまりを保全・創出、乾燥化した高水敷を切り下げ、湿地帯となるような掘削高さを設定し、ヨシ原の保全・創出を図り、砂州の切り下げにより攪乱頻度を増加させ、自然の営力により礫河原を保全・創出など河川が有している自然の回復力を活用する



色見本	基本分類
赤	浸水植物群落
青	一年生草本群落
黄	多年生広葉草本群落
緑	単子葉草本群落
紫	ツルヨシ群落
茶	単子葉草本群落
黒	オアシ群落
白	その他の低木林
黄緑	ヤナギ高木林
緑	その他の低木林
黄緑	落葉広葉樹林
緑	常緑広葉樹林
黄緑	常緑針葉樹林
赤	雑草地 (竹林)
赤	雑草地 (スギ・ヒノキ)
赤	雑草地 (その他)
黄	栗樹園
黒	畑
青	水田
黄	人工草地
黒	グラウンドなど
黒	人工構造物
黒	鉄道
黒	自然探地
黒	開放水渠

# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析①【小貝川】

○小貝川では、環境目標とする「連続した瀬やワンド・細流部」として「連続する瀬と淵」及び「ワンド・たまり」、「礫河原」として「自然裸地」、「砂河原」として「礫河原の植生域」、「ヨシ・オギ群落」として「水生植物帯」の分布状況を確認した。  
 ○これらの良好な生息場は67~68km と、21~22kmに見られ、当該区間では特徴的で良好な動植物の生息・生育・繁殖の場を形成している。

## ◆基本情報1：河川環境区分（セグメント形成要因）



良好な環境を有する区間

良好な環境を有する区間

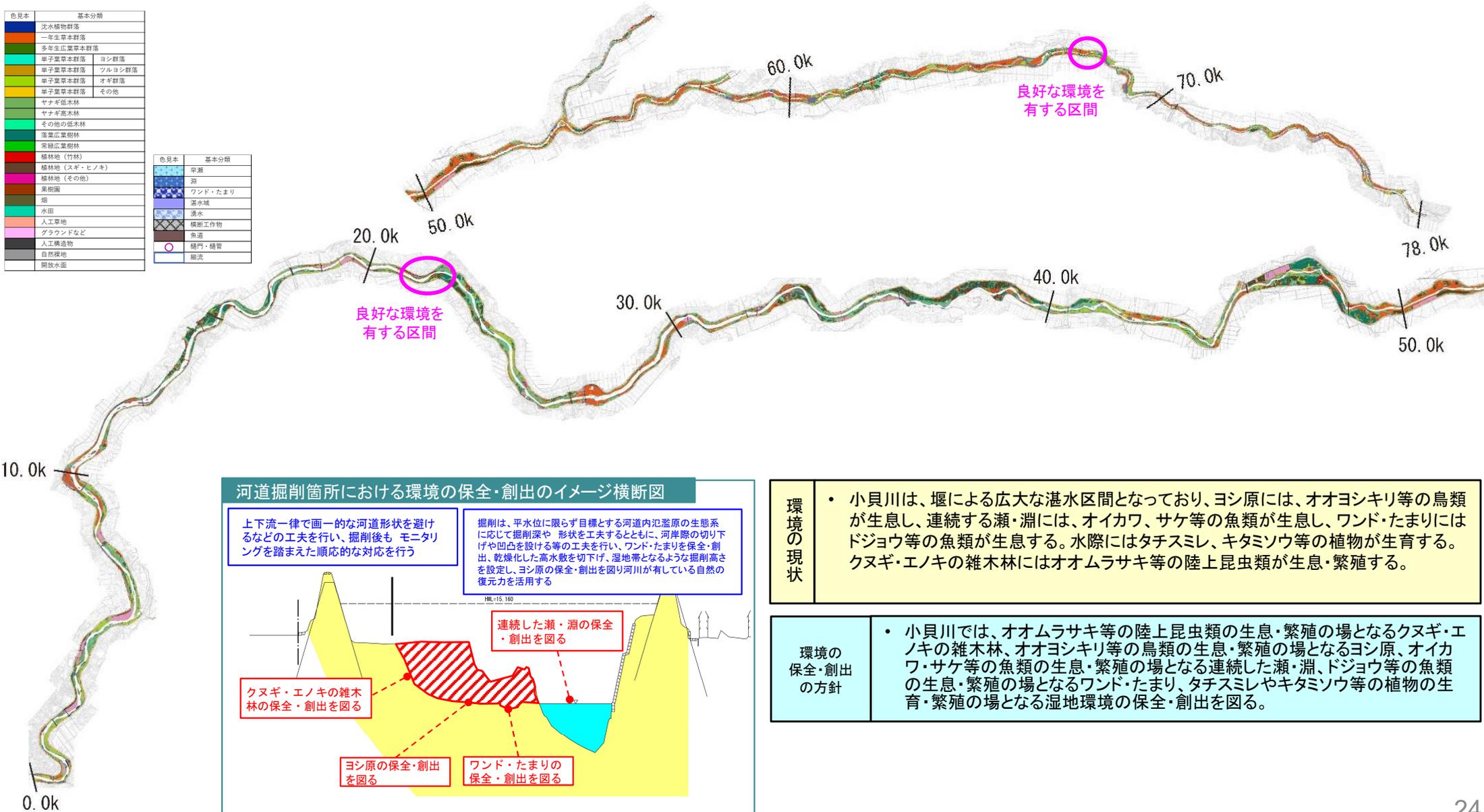
## ◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）



- 小貝川は、ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類が生息し、連続する瀬・淵には、サケ等の魚類が生息し、ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息する。水際にはキタミソウ等の植物が生育する。クヌギ・エノキの雑木林にはオオムラサキ等の陸上昆虫類が生息・繁殖する。
- 河道掘削を実施する区間は、ヨシ原、連続した瀬・淵、ワンド・たまりの保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

色見本	基本分類
沈水植物群落	
一年生草本群落	
多年生広葉草本群落	
単子葉草本群落	ヨシ群落
単子葉草本群落	ツルヨシ群落
単子葉草本群落	オギ群落
単子葉草本群落	その他
ヤナギ低木林	
ヤナギ高木林	
その他の低木林	
落葉広葉樹林	
常緑広葉樹林	
雑林地(竹林)	
雑林地(スギ・ヒノキ)	
雑林地(その他)	
果樹園	
畑	
水田	
人工草地	
グラウンドなど	
人工構造物	
自然裸地	
開放水面	

色見本	基本分類
早瀬	
淵	
ワンド・たまり	
湛水域	
湧水	
横断工作物	
魚道	
樋門・樋管	
細流	



### 河道掘削箇所における環境の保全・創出のイメージ横断図

上下流一律で画一的な河道形状を避けるなどの工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う

掘削は、平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削深や形状を工夫するとともに、河岸際の切り下げや凹凸を設ける等の工夫を行い、ワンド・たまりを保全・創出、乾燥化した高水敷を切下げ、湿地帯となるような掘削高さを設定し、ヨシ原の保全・創出を図り河川が有している自然の復元力を活用する

**環境の現状**

- 小貝川は、堰による広大な湛水区間となっており、ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類が生息し、連続する瀬・淵には、オイカワ、サケ等の魚類が生息し、ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息する。水際にはタチスミレ、キタミソウ等の植物が生育する。クヌギ・エノキの雑木林にはオオムラサキ等の陸上昆虫類が生息・繁殖する。

**環境の保全・創出の方針**

- 小貝川では、オオムラサキ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場となるクヌギ・エノキの雑木林、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、オイカワ・サケ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬・淵、ドジョウ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、タチスミレやキタミソウ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。





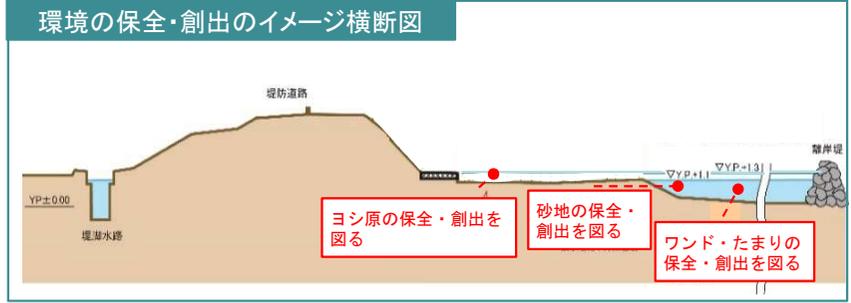
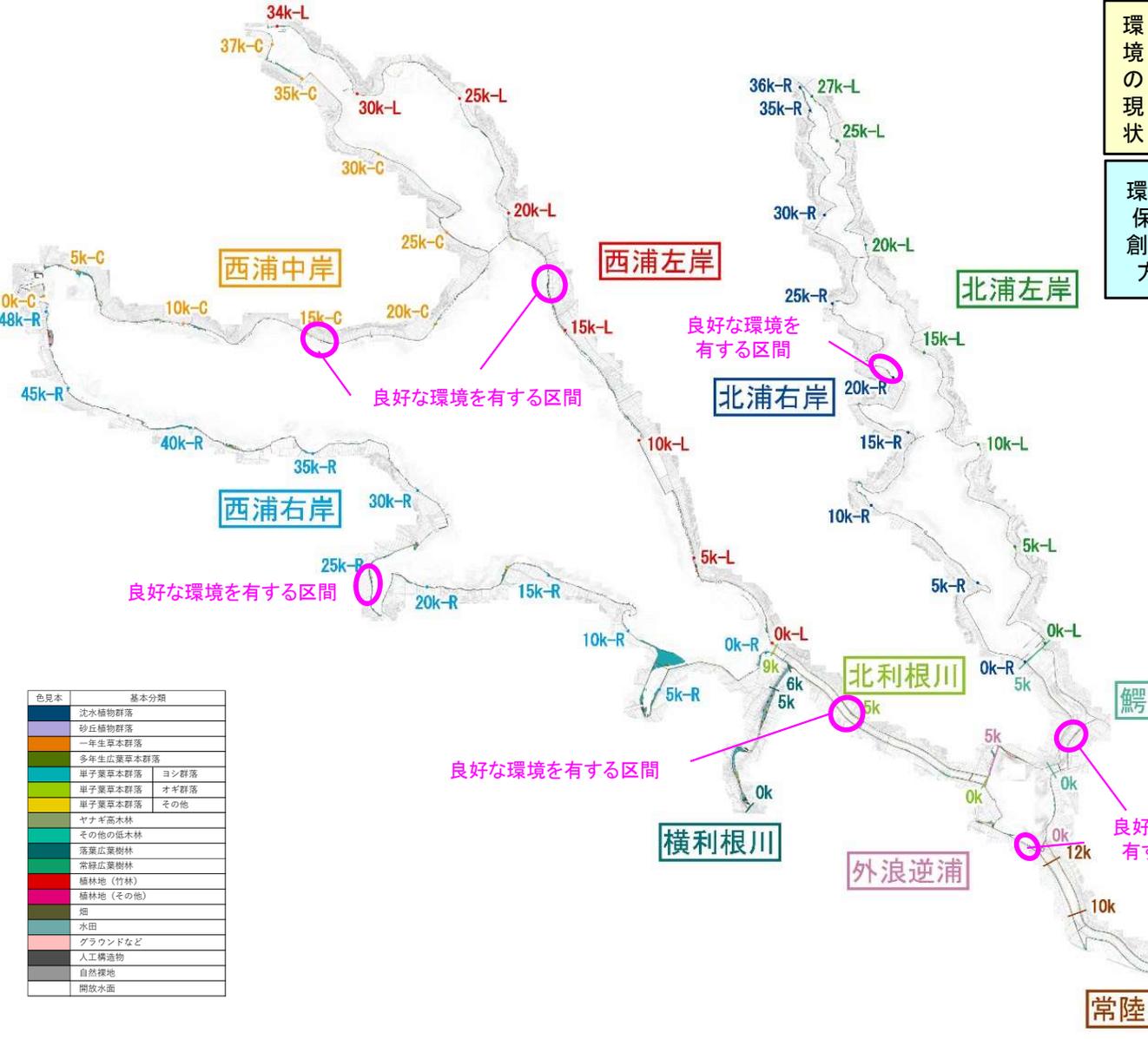




# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析⑤ 【霞ヶ浦】

- 霞ヶ浦(西浦、北浦)は、琵琶湖に次ぐ広大な湖面積を有し、ヨシ等の植物が生育する湖岸帯が広がっている。ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息し、ワンド・たまりには、イシガイ等の底生動物が生息し、水辺には、サギ類やコガモ、カイツブリ等の鳥類が生息する。
- 河道掘削を実施する区間は、湖岸帯、ワンド・たまり、砂地の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

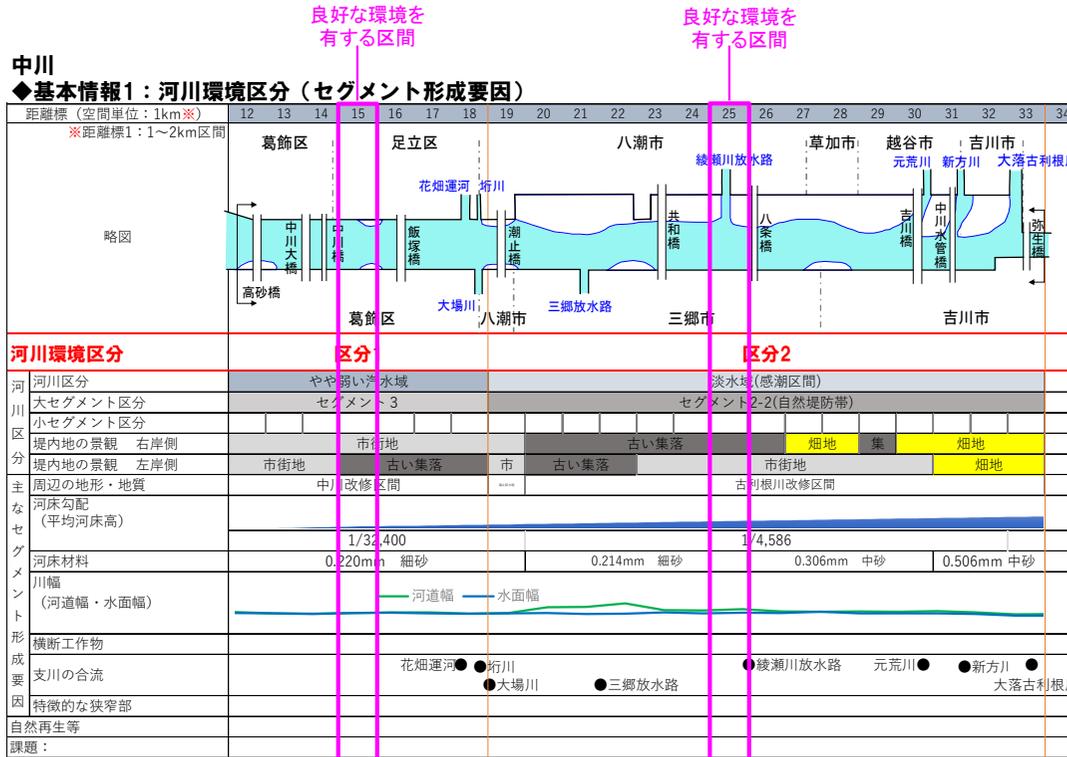
環境の現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 霞ヶ浦は、琵琶湖に次ぐ広大な湖面積を有し、ヨシ等の植物が生育する湖岸帯が広がっており、ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息し、ワンド・たまりには、イシガイ等の底生動物が生息し、水辺には、サギ類やコガモ、カイツブリ等の鳥類が生息する。水域には、水産資源となるコイやワカサギ、シラウオ等の魚類が生息する。</li> </ul>
環境の保全・創出の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 霞ヶ浦では、オオヨシキリ等の鳥類、カヤネズミ等の哺乳類の生息・繁殖の場となるヨシ等の湖岸帯、イシガイ等の底生生物の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、カイツブリ等の鳥類、シラウオ等の魚類の生息・繁殖の場である砂地の保全・創出を図る。</li> </ul>



色見本	基本分類
Blue	沈水植物群落
Light Blue	砂丘植物群落
Orange	一年生草本群落
Green	多年生広葉草本群落
Light Green	単子葉草本群落
Yellow	単子葉草本群落
Light Yellow	単子葉草本群落
Light Green	ヤナギ高木林
Light Green	その他の低木林
Light Green	落葉広葉樹林
Light Green	常緑広葉樹林
Light Green	樹林地(竹林)
Light Green	樹林地(その他)
Light Green	畑
Light Green	水田
Light Green	グラウンドなど
Light Green	人工構造物
Light Green	自然裸地
Light Green	開放水面

# 動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の現状分析①【中川】

- 「河川環境管理シート」から、中川の「干潟」、「ヨシ原」、及び「樹林」を示す「川辺性の樹林・河畔林」の分布状況を確認した。
- これらの良好な生息場は、中川の15～16km、25～26kmに見られ、当該区間では特徴的で良好な動植物の生息・生育・繁殖の場を形成している。

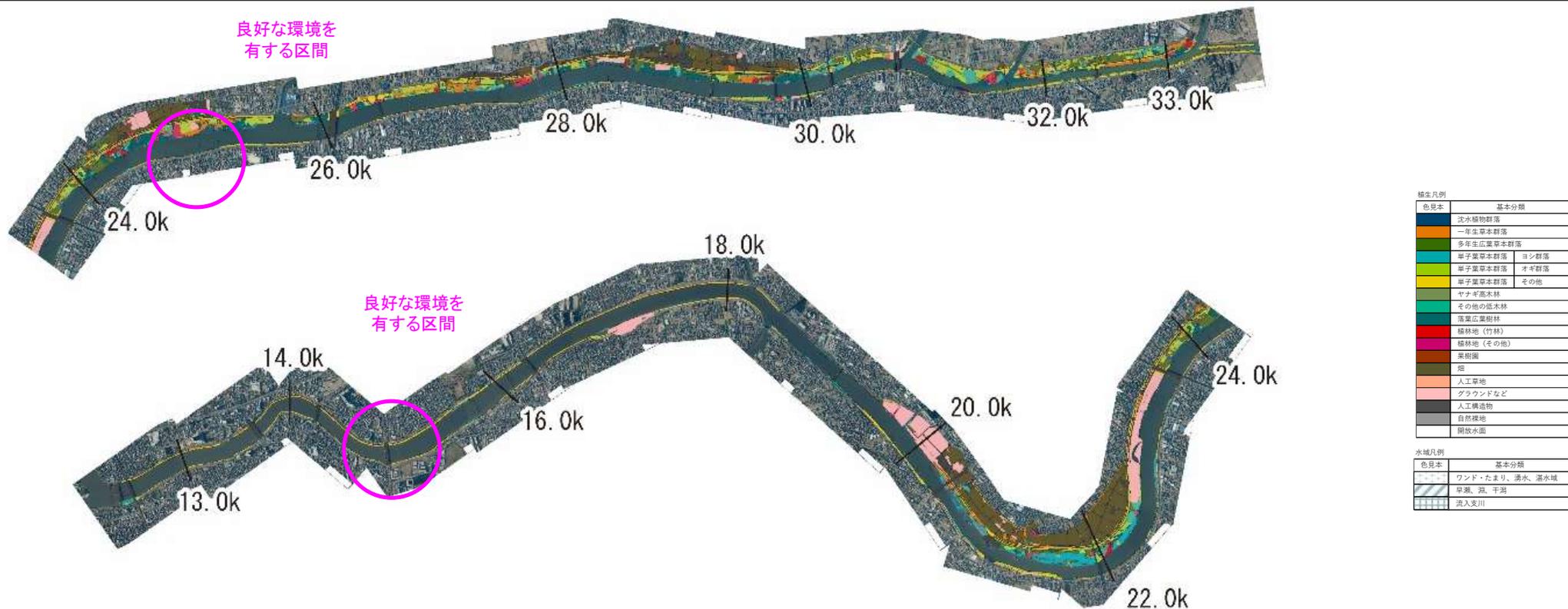


◆基本情報2-1：生物の生息場の分布状況（全川の中央値に基づき評価）

距離標 (空間単位: 1km)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
典型性	1. 低・中葦草地																							
	2. 河辺性の樹林・河畔林	△	-	-	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3. 自然裸地																							
	4. 外来植物生育地	△	△	△	△	△	△	△	△	×	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	△	×	×	×
	5. 水生植物帯																							
	6. 水際其自然度	△	△	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7. 水際の複雑さ	△	△	△	○	△	△	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	8. 連続する瀬と淵																							
	9. ワンド・たまり				○					△	△	△	△	△	○				△	○				
	10. 湛水域																							
汽水	1. 干潟	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	
	2. ヨシ原	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
特殊性	礫河原の植生域																							
	湧水地																							
	海浜植生帯																							
	塩沼湿地																							
生息場の多様性の評価値	1	0	0	3	2	2	3	2	3	2	2	1	3	4	2	3	1	4	3	3	2	1		



- 中川は、汽水域に生息するアシシロハゼ等の魚類やクロベンケイガニ属等の底生生物が生息する。ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類が生息し、干潟にはシギ・チドリ類の鳥類が生息している。また、サギ類の鳥類の集団営巣地となる樹林が形成されている。
- 河道掘削を実施する区間は、汽水域、ヨシ原、干潟、樹林の保全・創出を図る。
- 上下流一律で画一的な河道形状を避ける等の工夫を行い、掘削後もモニタリングを踏まえた順応的な対応を行う。

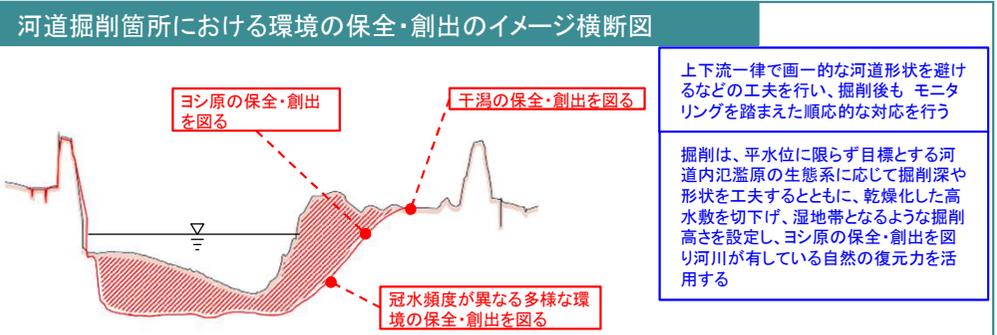


**環境の現状**

- 中川は、感潮区間があり、汽水域に生息するアシシロハゼ、ズズキ等の魚類やクロベンケイガニ、カワゴカイ属等の底生生物が生息する。ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類が生息し、干潟にはシギ・チドリ類の鳥類が生息している。また、サギ類の鳥類の集団営巣地となる樹林が形成されている。

**環境の保全・創出の方針**

- 中川では、アシシロハゼ、ズズキ等の魚類、クロベンケイガニやカワゴカイ属等の底生生物の生息・繁殖の場である汽水域、オオヨシキリ等の鳥類、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場であるヨシ原、シギ・チドリ類等の鳥類の生息・繁殖の場である干潟、集団営巣しているサギ類の鳥類の生息・繁殖の場である樹林の保全・創出を図る。

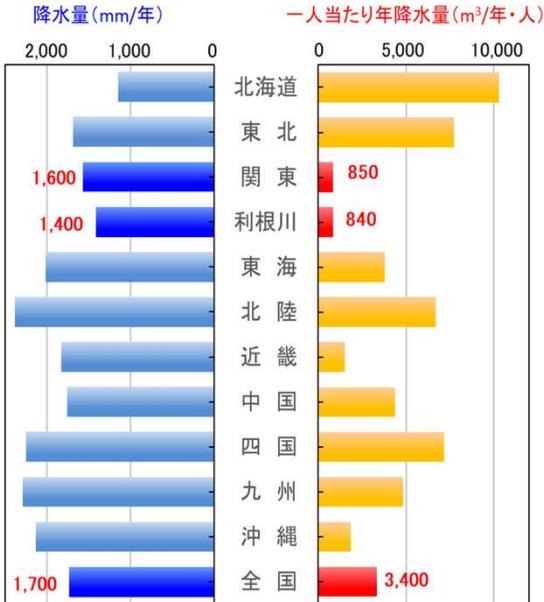


# 水資源開発の概要

○ 利根川水系では広大な関東平野の農業用水や首都圏の都市用水等大量の水需要に対応するため、流域を越えた広域的な水利用を実施。

## 年間平均降雨量

- 日本の年平均降水量1,700mm に比べ、利根川流域の年平均降水量は約1,400mm と少ない
- 一人当たりの年降水総量は約840m<sup>3</sup>/年・人で、全国平均の約1/3



注) 1.地域面積は「令和4年全国都道府県市区町村別面積積調(4月1日時点)」

2.人口は総務省統計局[国勢調査](2020年)

3.平均降水量は1992~2021年の平均値で、国土交通省水資源部調べ

## 供給エリア

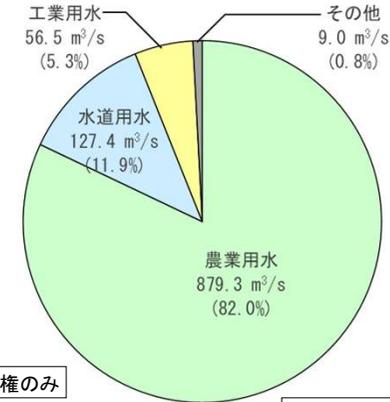
- 利根川の水は、本川筋の取水の他、利根川と荒川を結ぶ武蔵水路等の導水施設により、利根川流域以外のエリアにも広域的に供給されている



## 水需要

- 約30万haにおよぶ広大な耕作の農業用水や首都圏1都5県の水道用水等として大量に供給されている

利根川の利水量1,072.2m<sup>3</sup>/sの内訳(発電を除く)

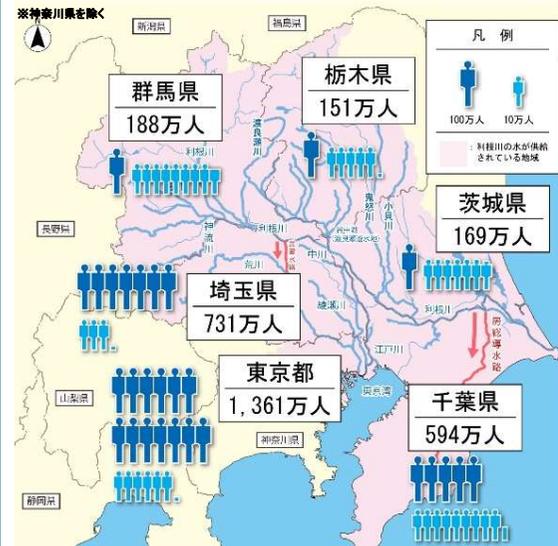


許可水利権のみ  
令和4年3月現在

他に発電: 2,698m<sup>3</sup>/s

## 利根川の給水人口内訳

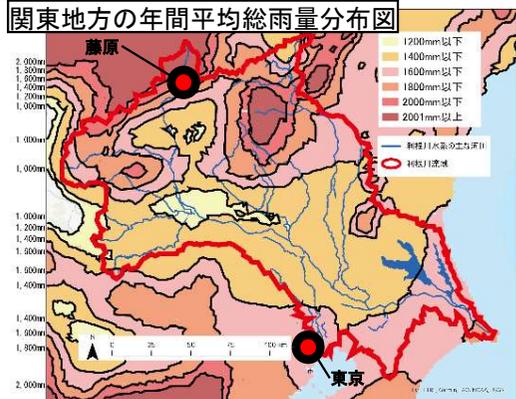
- 関東地方(1都5県※)の約9割に当たる3,194万人の水道用水として、利用されている



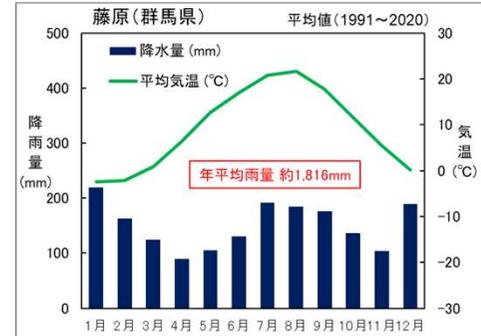
「令和元年度(2019年度)水道統計調査」より算出

## 降雨の分布

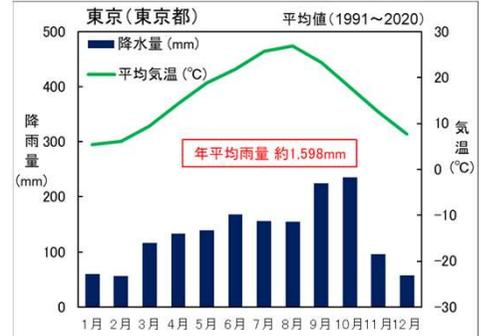
- 降水量は山間部に多く、水需要の多い平野部に少ない



### 山間部の気候<藤原>



### 平野部の気候<東京>



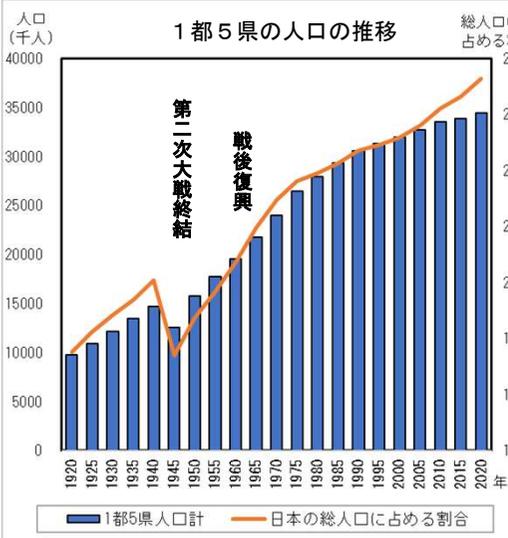
○ 戦後の都市用水需要の増大に対応するため、水資源開発施設等を整備。

## 主な社会・経済情勢と利水開発の経過

年度	主な社会・経済情勢	利根川水系の利水開発の経過
昭和20	第二次世界大戦終結	
21	農地改革・食糧危機	
25	復興期 国土総合開発法制定 (防災、電力開発、食糧増産) 電源開発促進法制定	多目的ダム建設へ (治水、不特定、発電)
27		地下水から表流水へ転換が必要
31		五十里ダム完成
33	春濁水(干塩害)	藤原ダム完成
34	高度経済成長長期前半	相俣ダム完成
35	国民所得倍増計画	
36	水資源開発促進法制定 春濁水	新たな水需要のために、早期に計画的な水資源開発施設の整備が必要
37	東京都一千万人突破	
39	オリンピック濁水	
40		園原ダム完成 品木ダム完成
41		川俣ダム完成
42	高度経済成長長期後半	春濁水 矢木沢ダム完成 武蔵水路完成
43	GNP世界第二位に	下久保ダム完成
44		
45		II次フルプラン決定
47	夏濁水(15%取水制限)	利根川河口堰完成 北千葉導水路着手
48	低成長長期 第一次石油ショック 夏濁水(20%取水制限)	
51		III次フルプラン決定 草木ダム完成
52		

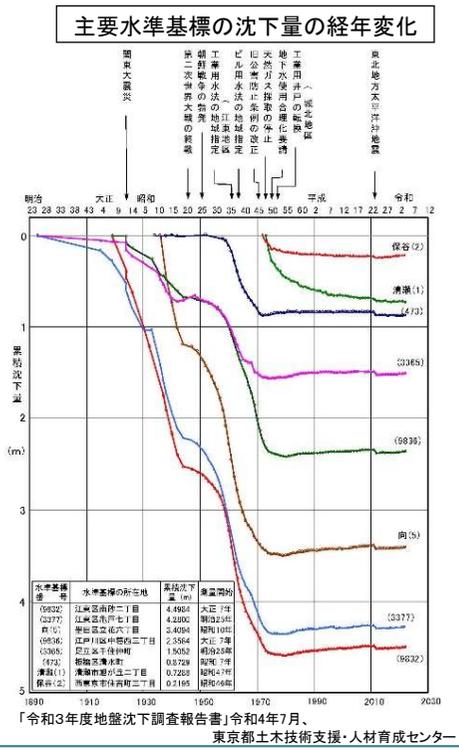
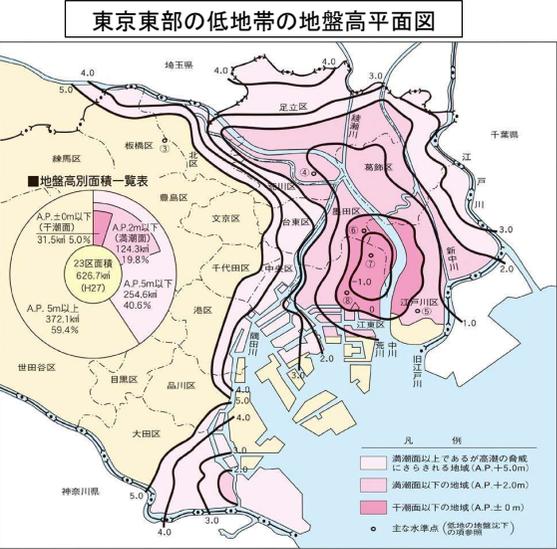
## 首都圏に集中する人口

- 利根川、荒川流域を含む首都圏1都5県(群馬、栃木、茨城、千葉、埼玉、東京)は、日本の総面積の8%であるが、総人口の27%の人々が生活し、総生産の3割を占めている



## 大量の地下水の汲み上げ → 地盤沈下の進行 → 河川水への取水転換

- 戦後、工業地帯の拡大や人口の著しい集中に起因する地下水の汲み上げにより、地盤沈下が進行し、東京江東区のゼロメートル地帯ははだいに拡大
- 高度経済成長期は、都市用水の需要が著しく増大し、地下水のくみ上げによる地盤沈下が社会問題となり、河川水の取水に対する多量の需要が発生



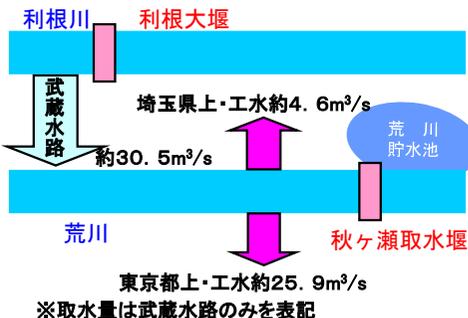
## 水資源開発施設等の整備

- 上流域等のダム  
利根川9ダム完成  
鬼怒川4ダム完成  
(利水容量 約80,000万m<sup>3</sup>)



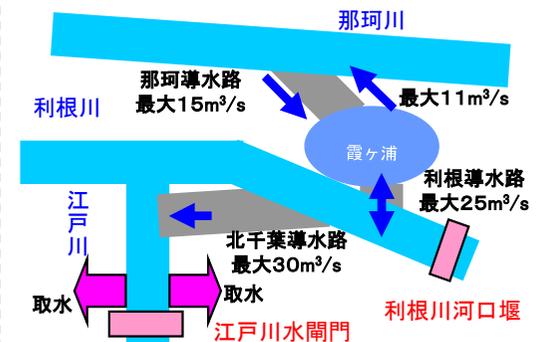
## 広域導水施設

昭和30年代に度々濁水に見舞われたため、導水施設を通じて主要な水源を多摩川から利根川へ



## 流況調整河川

上流の降雨状況や時期に応じ、余剰流量のある河川から不足している河川へ導水し、流況改善や安定的な水供給を図る





- 基準地点は新たに設定しない
- 維持流量は、「正常流量の手引き(案)」に基づいて検討したが、変更がなかった
- 水利権量等は最新の流量に更新した
- 栗橋地点の正常流量は、かんがい期で概ね120m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね80m<sup>3</sup>/sであるが、水利流量等を最新の値で見直しを行い、かんがい期で概ね122m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね86m<sup>3</sup>/sに変更する。利根川河口堰下流地点の値に変更はない。

## 基準地点(栗橋、利根川河口堰下流)

基準地点は、以下の点を勘案し、現行の「栗橋」、「利根川河口堰下流」とする。

- ・ 河川を代表する流量管理地点。
- ・ 北千葉導水路や利根川河口堰等水資源開発施設の運用上必要となる管理地点。
- ・ 流量の把握が可能であり、過去の水文資料が十分に備わっている地点。

## 正常流量の変更 ※かんがい期における変更内容

### 【栗橋地点の変更内容】

変更前

$$\text{栗根川 栗橋地点の正常流量}(115.1\text{m}^3/\text{s}) = \text{維持流量}(59.0\text{m}^3/\text{s}) + \text{水利権量}(87.0\text{m}^3/\text{s}) - \text{流入・還元量}(30.9\text{m}^3/\text{s})$$

維持流量(59.0m<sup>3</sup>/s)：布川地点～利根川河口堰の塩害防止の必要流量及び江戸川分派点～江戸川水閘門上流における動植物の保護の必要流量  
 水利権量(87.0m<sup>3</sup>/s)：栗橋地点～利根川河口堰及び江戸川分派点～江戸川水閘門までの水利権量 (かんがい期最大5月11日～15日)  
 流入・還元量(30.9m<sup>3</sup>/s)：流入：支川の流入量、還元量：農業用水からの還元

変更後

$$\text{栗根川 栗橋地点の正常流量}(121.1\text{m}^3/\text{s}) = \text{維持流量}(59.0\text{m}^3/\text{s}) + \text{水利権量}(93.5\text{m}^3/\text{s}) - \text{流入・還元量}(31.4\text{m}^3/\text{s})$$

維持流量(59.0m<sup>3</sup>/s)：布川地点～利根川河口堰の塩害防止の必要流量及び江戸川分派点～江戸川水閘門上流における動植物の保護の必要流量  
 水利権量(93.5m<sup>3</sup>/s)：栗橋地点～利根川河口堰及び江戸川分派点～江戸川水閘門までの水利権量 (かんがい期最大5月11日～15日)  
 流入・還元量(31.4m<sup>3</sup>/s)：流入：支川の流入量、還元量：農業用水からの還元

### 【利根川河口堰下流地点の変更内容】※変更なし

変更前

$$\text{栗根川河口堰下流地点の正常流量}(30.0\text{m}^3/\text{s}) = \text{維持流量}(30.0\text{m}^3/\text{s})$$

維持流量(30.0m<sup>3</sup>/s)：利根川河口堰下流における動植物の必要流量  
 ※利根川河口堰から河口までの間で淡水を取水する水利はない。

変更前

$$\text{栗根川河口堰下流地点の正常流量}(30.0\text{m}^3/\text{s}) = \text{維持流量}(30.0\text{m}^3/\text{s})$$

維持流量(30.0m<sup>3</sup>/s)：利根川河口堰下流における動植物の必要流量  
 ※利根川河口堰から河口までの間で淡水を取水する水利はない。

# 正常流量の変更 江戸川

- 基準地点は新たに設定しない
- 維持流量は、「正常流量の手引き(案)」に基づいて検討したが、変更がなかった
- 水利権量等は最新の流量に更新した
- 野田地点の正常流量は、かんがい期で概ね35m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね30m<sup>3</sup>/s であるが、水利流量等を最新の値で見直しを行い、かんがい期で概ね35m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね32m<sup>3</sup>/sに変更する。江戸川水閘門下流地点の値に変更はない。

## 基準地点(野田、江戸川水閘門下流)

基準地点は、以下の点を勘案し、現行の「野田」、「江戸川水閘門下流」とする。

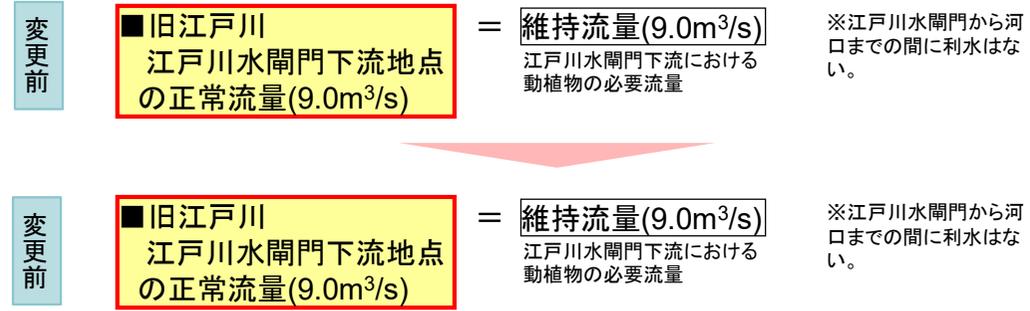
- ・ 北千葉導水路や利根川河口堰等水資源開発施設の運用上必要となる管理地点。
- ・ 流量の把握が可能であり、過去の水文資料が十分に備わっている地点。

## 正常流量の設定 ※かんがい期における変更内容

### 【野田地点の変更内容】



### 【江戸川水閘門下流地点の変更内容】※変更なし



- 基準地点は新たに設定しない
- 維持流量は、「正常流量の手引き(案)」に基づいて検討したが、変更がなかった
- 水利権量等は最新の流量に更新した
- 佐貫地点の正常流量は、かんがい期で概ね45m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね7m<sup>3</sup>/s であるが、水利流量等を最新の値で見直しを行い、かんがい期で概ね51m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね8m<sup>3</sup>/sに変更する。
- 大間々地点の正常流量は、かんがい期で概ね25m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね7m<sup>3</sup>/s であるが、水利流量等を最新の値で見直しを行い、かんがい期で概ね24m<sup>3</sup>/s、非かんがい期は概ね7m<sup>3</sup>/sに変更する。

## 基準地点(佐貫)

基準地点は、以下の点を勘案し、現行の「佐貫」とする。

- ・ 大規模な取水・導水や支川合流等による変動後の流況把握が必要となる管理地点。
- ・ 流量の把握が可能であり、過去の水文資料が十分に備わっている地点。

## 基準地点(大間々)

基準地点は、以下の点を勘案し、現行の「大間々」とする。

- ・ 大規模な取水・導水や支川合流等による変動後の流況把握が必要となる管理地点。
- ・ 流量の把握が可能であり、過去の水文資料が十分に備わっている地点。

## 正常流量の設定(佐貫) ※かんがい期における変更内容

### 【佐貫地点の変更内容】

変更前

$$\text{鬼怒川 佐貫地点の正常流量 (45.0m}^3\text{/s)} = \text{維持流量(2.4m}^3\text{/s)} + \text{水利権量(72.2m}^3\text{/s)} - \text{流入・還元量(29.6m}^3\text{/s)}$$

維持流量(2.4m<sup>3</sup>/s): 佐貫地点～栄橋地点における動植物の必要流量  
 水利権量(72.2m<sup>3</sup>/s): 佐貫地点～勝瓜頭首工までの水利権量 (かんがい期最大4月26～30日)  
 流入・還元量(29.6m<sup>3</sup>/s): 流入: 支川の流入量, 還元量: 農業用水からの還元

変更後

$$\text{鬼怒川 佐貫地点の正常流量 (50.6m}^3\text{/s)} = \text{維持流量(2.4m}^3\text{/s)} + \text{水利権量(74.4m}^3\text{/s)} - \text{流入・還元量(26.2m}^3\text{/s)}$$

維持流量(2.4m<sup>3</sup>/s): 佐貫地点～栄橋地点における動植物の必要流量  
 水利権量(74.4m<sup>3</sup>/s): 佐貫地点～勝瓜頭首工までの水利権量 (かんがい期最大4月20～25日)  
 流入・還元量(26.2m<sup>3</sup>/s): 流入: 支川の流入量, 還元量: 農業用水からの還元

## 正常流量の設定(大間々) ※かんがい期における変更内容

### 【大間々地点の変更内容】

変更前

$$\text{渡良瀬川 大間々地点の正常流量 (23.6m}^3\text{/s)} = \text{維持流量(2.5m}^3\text{/s)} + \text{水利権量(21.5m}^3\text{/s)} - \text{流入・還元量(0.4m}^3\text{/s)}$$

維持流量(2.5m<sup>3</sup>/s): 渡良瀬川における動植物の必要流量及び水質の必要流量  
 水利権量(21.5m<sup>3</sup>/s): 大間々地点から～太田頭首工までの水利権量 (かんがい期最大6月16～20日)  
 流入・還元量(0.4m<sup>3</sup>/s): 流入: 支川の流入量, 還元量: 農業用水からの還元

変更後

$$\text{渡良瀬川 大間々地点の正常流量 (23.8m}^3\text{/s)} = \text{維持流量(2.5m}^3\text{/s)} + \text{水利権量(21.6m}^3\text{/s)} - \text{流入・還元量(0.3m}^3\text{/s)}$$

維持流量(2.5m<sup>3</sup>/s): 渡良瀬川における動植物の必要流量及び水質の必要流量  
 水利権量(21.6m<sup>3</sup>/s): 大間々地点から～太田頭首工までの水利権量 (かんがい期最大6月16～20日)  
 流入・還元量(0.3m<sup>3</sup>/s): 流入: 支川の流入量, 還元量: 農業用水からの還元

# 環境本文掲載種の根拠

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 1/8

8	利根川流域の自然環境は、群馬県利根郡みなかみ町から群馬県渋川市までの源流部は、巨岩の岩肌が連なる水上峡、諏訪峡に代表される風光明媚な景観を呈し、沿川には、 <b>ブナ</b> 、 <b>ミズナラ</b> 等の自然林、 <b>コナラ</b> 等の二次林や <b>スギ</b> 、 <b>ヒノキ</b> 等の人工林が広がり、溪流では <b>サクラマス</b> （同種で生活史が異なる <b>ヤマメ</b> を含む）、 <b>カヅカ</b> 等の清流に生息する渓流魚が生息する。また、ダム湖周辺では、 <b>ヤマセミ</b> 、 <b>オシドリ</b> 、 <b>マガモ</b> 等の鳥類が生息する。	魚類	サクラマス（ヤマメ）（環境NT、群馬NT）	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	カヅカ（環境NT、群馬NT）	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ブナ・ミズナラ等の自然林	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	環境省植生図において、藤原ダム～矢木沢ダム、奈良俣ダム周辺の主要な植生となっている群落（記述はブナクラス域自然植生ニシマザサブナ群集）
		植物	コナラ等の二次林	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	環境省植生図において、利根川のみなかみ町～沼田市区間における主要な植生となっている群落（記述はヤブツバキクラス域代償植生ニクニコナラ群集）
		植物	スギ・ヒノキ等の人工林	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	環境省植生図において、利根川のみなかみ町～渋川市間における主要な植生となっている群落（記述はスギ・ヒノキ・サワラ植林）
		鳥類	ヤマセミ（環境VU、茨城IB類、埼玉NT2（繁殖鳥）、千葉A）	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	オシドリ（環境DD、群馬NT、茨城準絶、埼玉EN、埼玉VU、千葉B）	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	マガモ	概要 利根川源流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
9	扇状地が広がる群馬県渋川市から利根大堰（埼玉県行田市）までの上流部は、蛇行河川が形成され、礫河床の瀬・淵には <b>アユ</b> 、 <b>ウグイ</b> 等、ワンド・たまりには <b>ムサシノジュズカケハゼ</b> 等の魚類が生息し、礫河原には <b>カワラサイコ</b> 等の植物が生育し、 <b>カワラバッタ</b> 等の陸上昆虫類が生息する。中州等には <b>コアジサシ</b> 、 <b>チドリ</b> 類等の鳥類が生息し、水辺には <b>カモ</b> 類等の鳥類が生息する。	植物	カワラサイコ（群馬EN、茨城準絶、埼玉VU、千葉C）	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		陸上昆虫	カワラバッタ（群馬VU、茨城II類、埼玉EN）	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	アユ	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ウグイ	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ムサシノジュズカケハゼ（環境EN、群馬VU）	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	カモ類	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
10	利根大堰から千葉県印西市までの中上流部は、広大な河川空間が形成され、瀬・淵には、 <b>オイカワ</b> 、 <b>ニゴイ</b> 等の魚類、ワンド・たまりには <b>モツゴ</b> 等の魚類が生息する。河岸には <b>ヨシ</b> ・ <b>オギ</b> 群落、 <b>ヤナギ</b> 類の植物が生育し、 <b>オオヨシキリ</b> 、 <b>セッカ</b> 等の鳥類や <b>カヤネズミ</b> 類の哺乳類が生息し、湿地環境には、 <b>ハンゲシヨウ</b> 、 <b>ヤガミスゲ</b> 、 <b>タコノアシ</b> 等の植物が生育し、中州等には <b>コアジサシ</b> や <b>チドリ</b> 類等の鳥類が生息する。鬼怒川合流部付近には、湿地環境や水田地帯が広がり、稲戸井調節池の <b>ハンノキ</b> 林、 <b>ヨシ原</b> 等には、 <b>オオタカ</b> 、 <b>オオヨシキリ</b> 等の鳥類が生息する。	植物	ヨシ・オギ群落	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	ヨシ群落、オギ群落が該当
		植物	ヤナギ類	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	タチヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集などが該当
		植物	ハンゲシヨウ（群馬NT、埼玉VU）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヤガミスゲ（群馬NT、茨城準絶、千葉D）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	タコノアシ（環境NT、群馬CR、茨城準絶、埼玉VU）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥）、千葉D）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	セッカ（千葉D）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	コアジサシ（環境VU、群馬EN、茨城II類、埼玉CR（繁殖鳥））	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	チドリ類	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		哺乳類	カヤネズミ（群馬VU、茨城不明、千葉D）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	オイカワ	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ニゴイ（千葉C）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	モツゴ（千葉D）	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	

※1：種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境：環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬：「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編（2022年改訂版）動物レッドリスト（2022年改訂版）」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編（2022年改訂版）植物レッドリスト（2022年改訂版）」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足

栃木：「栃木県版レッドリスト（第3次／2018年版）」

絶滅：絶滅 I類：絶滅危惧I類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 不足：情報不足 地域：絶滅のおそれのある地域個体群 注目：要注目

茨城：「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅：絶滅 IA類：絶滅危惧IA類 IB類：絶滅危惧IB類 II類：絶滅危惧II類 準絶：準絶滅危惧 注目：情報不足①注目種 不明：情報不足②現状不明種

埼玉：「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧I類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

千葉：「千葉県レッドリスト動物編（2019年改訂版）」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編（2017年改訂版）」

X:消息不明・絶滅生物 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物 D:一般保護生物 不足：情報不足 RH:保護参考種

東京：「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*:留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年 法律第78号）

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 2/8

11	千葉県印西市から利根川河口堰（千葉県香取郡東庄町）までの中下流部は、河床勾配は緩やかで、河口堰の湛水区間となっており、ヨシ原には、オオセッカ、コジュリン等の鳥類が生息し、ワンド・たまりには、モツゴ等の魚類、イシガキ類等の底生動物、トウキョウダルマガエル等の両生類、ミズアオイ等の植物が生息・生育する。水辺には、カモ類、サギ類、カモメ類等の鳥類が生息している。	植物	ヨシ原	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		ヨシ群落、カササゲ群落が該当
		植物	ミズアオイ(環境NT、茨城準絶、千葉C)	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	モツゴ(千葉D)	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		底生動物	イシガキ類	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		両生類	トウキョウダルマガエル(環境NT、群馬VU、茨城注目、埼玉NT1、千葉B)	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	カモ類	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	サギ類	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	カモメ類	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	オオセッカ(国内、環境EN、茨城IB類、埼玉DD、千葉A)	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	コジュリン(環境VU、群馬EN、茨城II類、埼玉VU、千葉A)	概要	利根川中下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	ヨシ原	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		ヨシ群落が該当
12	また、利根川河口堰から河口までの下流部は、ヨシ原にはヒヌマイトトンボ、キイロホソゴミムシ等の陸上昆虫類が生息し、水域にはマルタ、ニホンウナギ、シラウオ等の回遊魚やスズキ、ボラ等の魚類が生息し、干潟にはシギ、チドリ類の鳥類の渡りの中継地となり、エドハゼ等の魚類やヤマトシジミ等の底生動物が生息する。	植物	ヨシ原	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		ヨシ群落が該当
		陸上昆虫	ヒヌマイトトンボ	概要	利根川下流部	国土交通省調査		R4利根川下流水辺現地調査(陸上昆虫)業務
		陸上昆虫	キイロホソゴミムシ(環境EN、千葉A)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	マルタ(群馬VU)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	ニホンウナギ(環境EN、群馬VU、茨城準絶、埼玉NT22(繁殖鳥)、千葉C)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	シラウオ(千葉C)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	スズキ	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	ボラ	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	エドハゼ(環境VU、茨城準絶、千葉C)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	シギ類	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		鳥類	チドリ類	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)		
底生動物	ヤマトシジミ(環境NT、千葉B)	概要	利根川下流部	河川水辺の国勢調査(国交省)				
13	烏川・神流川は、広い河川敷が存在する扇状地河川であり、オオヨシキリ等の鳥類が生息する水際のヨシ原、イカルチドリ等の鳥類、カワラバッタ等の陸上昆虫類、カワサイコ等の植物が生息・生育する礫河原、オイカワ、アブラハヤ、ギバチ等の生息環境となる連続した瀬と淵、ムサシノジュスカケハゼ等が生息するワンド・たまりが形成されている。烏川・神流川の高低水敷や低水路にはハリエンジュを中心とした樹木が繁茂しており、特に神流川では樹林化が進行している。	鳥類	オオヨシキリ(群馬NT、埼玉NT1(繁殖鳥))	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		ヨシ群落、オギ群落が該当
		鳥類	イカルチドリ(群馬NT、茨城II類、埼玉NT1(繁殖鳥)、千葉C)	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		植物	ヨシ原	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		陸上昆虫	カワラバッタ(群馬VU、茨城II類、埼玉EN)	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		植物	カワサイコ(群馬EN、埼玉VU)	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	オイカワ	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	アブラハヤ	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		最新の水国(2019)では未確認。過去は2003、2009、2013に確認あり。
		魚類	ギバチ(環境VU、群馬VU)	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		魚類	ムサシノジュスカケハゼ(環境EN、群馬VU)	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
		植物	ハリエンジュ	概要	烏川・神流川	河川水辺の国勢調査(国交省)		最新の水国(2012)では未確認。過去は2005に確認あり。
		14	江戸川の上流部では、ワンド・たまり、蛇行部の砂州が形成され、ヨシ原等にはオオヨシキリやセッカ等の鳥類、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類が生息し、砂州にはコチドリ等の鳥類が生息する。ワンド・たまりには、タモロコ、ミナミメダカ等の魚類が生息し、カイツブリ等の鳥類、ニホンアカガエル等が生息する。江戸川の下流部では、感潮区間となっており、ヨシ群落やシオクグ等の植物が生息する。トビハゼ等の魚類が生息する干潟が形成され、シギ・チドリ類の渡りの中継地になっている。	鳥類	オオヨシキリ(埼玉NT2(繁殖鳥)、千葉D)	概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)
鳥類	セッカ(千葉D)			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
鳥類	コチドリ(千葉B)			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
鳥類	シギ類			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
鳥類	チドリ類			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
鳥類	カイツブリ(茨城準絶、千葉C)			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
植物	ヨシ原			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
植物	ヨシ群落			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
植物	シオクグ(茨城II類、千葉D)			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
陸上昆虫	ヒヌマイトトンボ			概要	江戸川	国土交通省調査		R4江戸川管内湿地環境調査検討業務
両生類	ニホンアカガエル(埼玉VU、千葉A、東京EN)			概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)		
魚類	タモロコ	概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)				
魚類	ミナミメダカ(環境VU、茨城準絶、埼玉NT2、千葉B、東京CR)	概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)				
魚類	トビハゼ(環境NT、千葉B、東京CR)	概要	江戸川	河川水辺の国勢調査(国交省)				

※1: 種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境: 環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬:「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版)動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版)植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足

栃木:「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅:絶滅 I類:絶滅危惧I類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 不足:情報不足 地域:絶滅のおそれのある地域個体群 注目:要注目

茨城:「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅:絶滅 IA類:絶滅危惧IA類 IB類:絶滅危惧IB類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 注目:情報不足①注目種 不明:情報不足②現状不明種

埼玉:「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧I類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧類 CR:絶滅危惧I類 EN:絶滅危惧II類 VU:絶滅危惧III類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

千葉:「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X: 消息不明・絶滅生物 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物 不足: 情報不足 RH: 保護参考雑種

東京:「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*: 留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

15	支川の渡良瀬川は、栃木県日光市の北西、皇海山（標高2,144m）に源を発し、足尾山地を下り草木ダムに注ぎ、山間地を経て群馬県みどり市で関東平野に流れ出ている。ここより流路を南東に変え、足尾山地の南西縁に沿って流下し、支川桐生川を合流後、栃木県足利市で岩井山を迂回する。ここまでの河床勾配は1/150～1/400の急流河川で、河道は礫・玉石を主とした礫河原が形成され、礫河原の中州等にはコチドリ、イカルチドリ等の鳥類が生息し、連続した瀬と淵には、サクラマス（同種で生活史が異なるヤマメを含む）、ウグイ等の魚類が生息する。近年は、高水敷にハリエンジュの繁茂が顕著に見られる。 岩井山付近から下流では、河床勾配が1/1,000～1/4,000と緩やかな流れとなり、支川の旗川、秋山川、旧渡良瀬川の流路であった支川の矢場川を合流する。栃木県栃木市藤岡町から茨城県古河市にかけて渡良瀬遊水地があり、支川巴波川、思川の2河川が合流し、その後南流して利根川に合流する。河道は低水路と高水敷が明確となり、流れは緩やかとなる。ヤナギ類やヨシ・オギ群落の植物が生育し、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息する。 渡良瀬遊水地は、面積約3,300haに及ぶ広大なオープンスペースを有する遊水地である。ラムサール条約湿地に登録されており、約1,500haに及ぶ広大なヨシ原が広がる。ともに、トネハナヤスリ、ハナムグラ、タチスミレ等の植物が生育し、チュウビ等の猛禽類やオオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息し、谷中湖等の水辺ではサギ類やカモ類が生息する。近年ではコウノトリが生息・繁殖している。	魚類	サクラマス（ヤマメ）（環境NT、群馬NT、茨城IA類、埼玉VU）	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ウグイ	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヨシ・オギ群落	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	ヨシ群落、オギ群落が該当
		植物	ヤナギ類	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	ネコヤナギ群集、タチヤナギ群集などが該当
		植物	ハリエンジュ	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥））	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	セッカ	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	コチドリ	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	イカルチドリ（群馬NT、茨城II類、埼玉NT1（繁殖鳥））	概要 渡良瀬川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヨシ原	概要 渡良瀬遊水地	河川水辺の国勢調査（国交省）	ヨシ群落が該当
		植物	トネハナヤスリ（環境VU、群馬CR、栃木注目、茨城IB類、埼玉CR）	概要 渡良瀬遊水地	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ハナムグラ（環境VU、群馬VU、栃木注目、茨城II類、埼玉EN）	概要 渡良瀬遊水地	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	タチスミレ（環境VU、群馬CR、栃木I類、茨城IA類、埼玉CR）	概要 渡良瀬遊水地	河川水辺の国勢調査（国交省）	

※1：種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境：環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬：「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版)動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版)植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足

栃木：「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅:絶滅 I類:絶滅危惧I類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 不足:情報不足 地域:絶滅のおそれのある地域個体群 注目:要注目

茨城：「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅:絶滅 IA類:絶滅危惧IA類 IB類:絶滅危惧IB類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 注目:情報不足①注目種 不明:情報不足②現状不明種

埼玉：「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧I類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群\*

千葉：「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X:消息不明・絶滅生物 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物 D:一般保護生物 不足:情報不足 RH:保護参考雑種

東京：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*:留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種:我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物:特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 4/8

16	さらに、鬼怒川は、栃木県さくら市から栃木県宇都宮市を貫流して南下し、茨城県結城市で支川田川が合流する。この間鬼怒川は、河床勾配1/500以上と急流で川幅も広く玉石が織りなす礫河原を網状に流れ、カワラニギク、カワラニガナ等の植物が生育し、カワラバッタ等の陸上昆虫類が生息する。瀬・淵にはアユ・サケ等の魚類が生息・繁殖し、ワンド・たまりにはムサシノジュスカケハゼ等の魚類が生息する。中州等にはコアジサシ、イカルチドリ等の鳥類が生息する。 田川合流後の河床勾配は、1/1,000~1/2,000と緩やかとなり、川幅は狭くなり、最下流部で茨城守谷市大木の台地を貫流して利根川に合流する。下流部では、ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類が生息し、砂河原にはカワラヨモギ等の植物が生育する。	植物	カワラニギク (環境VU、栃木Ⅱ類)	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	カワラニガナ (環境NT、栃木注目、茨城IB類)	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	カワラバッタ (栃木注目、茨城Ⅱ類)	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	アユ	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	サケ	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ムサシノジュスカケハゼ (環境EN、栃木Ⅱ類)	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	コアジサシ (環境VU、栃木Ⅱ類)	概要 鬼怒川	国土交通省調査	H29鬼怒川・小貝川水辺現地調査(鳥類)その他業務
		鳥類	イカルチドリ (茨城Ⅱ類)	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	ヨシ群落、オギ群落が該当
		植物	カワラヨモギ	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	タチヤナギ群集、ジャヤナギーアカメヤナギ群集などが該当
鳥類	オオヨシキリ	概要 鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)			
17	小貝川は、堰による広大な湛水区間となっており、ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類が生息し、連続する瀬・淵には、オйкаワ、サケ等の魚類が生息し、ワンド・たまりにはドジョウ等の魚類が生息する。水際にはタチスミレ、キタミソウ等の植物が生育する。クヌギ・エノキの雑木林にはオムラサキ等の陸上昆虫類が生息・繁殖する。	植物	ヨシ原	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	ヨシ群落、オギ群落が該当
		植物	ハナムグラ (環境VU、栃木注目、茨城ⅠI類)	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	タチスミレ (環境VU、栃木Ⅰ類、茨城ⅠA類)	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	クヌギ・エノキの雑木林	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	ムクノキエノキ群集が該当
		植物	キタミソウ (環境VU、栃木注目、茨城IB類)	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	サケ	概要 小貝川	国土交通省調査	H26鬼怒川・小貝川水辺現地調査(魚類・空間利用実態)業務
		魚類	ドジョウ (環境NT、栃木不足)	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	オйкаワ	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	オオムラサキ (環境NT、栃木注目、茨城Ⅱ類)	概要 小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
18	霞ヶ浦は、琵琶湖に次ぐ広大な湖面積を有し、ヨシ等の植物が生育する湖岸帯が広がっており、ヨシ原には、オオヨシキリ等の鳥類やカヤネズミ等の哺乳類が生息し、ワンド・たまりには、イシガイ等の底生動物が生息し、水辺には、サギ類やコガモ、カイツブリ等の鳥類が生息する。水域には、水産資源となるコイやワカサギ、シラウオ等の魚類が生息する。	底生動物	イシガイ類	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		哺乳類	カヤネズミ (茨城不明)	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	サギ類	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	ヨシゴイ、アマサギ、チュウサギなどが該当
		鳥類	コガモ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	カイツブリ (茨城準絶)	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	コイ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	シラウオ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ワカサギ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	

※1: 種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境: 環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧Ⅱ類、EN:絶滅危惧Ⅲ類、VU:絶滅危惧Ⅳ類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬:「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版)動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版)植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧Ⅱ類、EN:絶滅危惧Ⅲ類、VU:絶滅危惧Ⅳ類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足

栃木:「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅:絶滅Ⅰ類:絶滅危惧Ⅰ類Ⅱ類:絶滅危惧Ⅱ類 準絶:準絶滅危惧 不足:情報不足 地域:絶滅のおそれのある地域個体群 注目:要注目

茨城:「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅:絶滅ⅠA類:絶滅危惧ⅠA類ⅠB類:絶滅危惧Ⅱ類 準絶:準絶滅危惧 注目:情報不足①注目種 不明:情報不足②現状不明種

埼玉:「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧Ⅱ類 EN:絶滅危惧Ⅲ類 VU:絶滅危惧Ⅳ類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧Ⅰ類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧Ⅱ類 VU:絶滅危惧Ⅲ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

千葉:「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X: 消息不明・絶滅生物 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物 不足: 情報不足 RH: 保護参考雑種

東京:「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧Ⅱ類 EN:絶滅危惧Ⅲ類 VU:絶滅危惧Ⅳ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*: 留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 5/8

20	中川は、感潮区間があり、汽水域に生息するアシシロハゼ、スズキ等の魚類やクロベンケイガニ、カワゴカイ属等の底生生物が生息する。ヨシ原にはオオヨシキリ等の鳥類、ヒスマイトトンボ等の陸上昆虫類が生息し、干潟にはシギ・チドリ類の鳥類が生息している。また、サギ類の鳥類の集団営巣地となる樹林が形成されている。	植物	ヨシ原	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ(埼玉NT2(繁殖鳥)、東京CR)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	シギ・チドリ類	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	サギ類	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	アシシロハゼ(東京NT)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	スズキ	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		底生動物	クロベンケイガニ(東京*)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		底生動物	カワゴカイ	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	ヒスマイトトンボ	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
21	利根川本川や支川では、特定外来生物であるコクチバス、ブルーギル等の魚類や、アレチウリ、ミズヒマワリ、ナガエツルノゲイトウ等の植物、ガビチョウ等の鳥類が確認されている。高水敷には、ハリエンジュ等の外来植物が広範に確認されており、在来種の生息・生育・繁殖の場への影響が懸念されている。	魚類	コクチバス(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ブルーギル(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	アレチウリ(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ミズヒマワリ(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ナガエツルノゲイトウ(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	ガビチョウ(生態系被害防止外来種リスト該当種、特定外来生物)	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ハリエンジュ	概要 利根川本川・支川	河川水辺の国勢調査(国交省)	2020、2021、2022に繁殖確認
87	上流部では、アユ、ウグイ等の魚類の生息・繁殖環境となる連続した瀬と淵、ムサシノジュズカケハゼ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、コアジサシやチドリ類の鳥類、カワラサイコ等の植物、カワラバッタ等の陸上昆虫類の生息・生育・繁殖の場となる礫河原の保全・創出を図る。	魚類	アユ	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	最新の国水(2012)では未確認。過去は1999に確認あり。
		魚類	ウグイ	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ムサシノジュズカケハゼ(環境EN、群馬VU)	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	コアジサシ(環境VU、群馬EN、茨城II類、埼玉CR、千葉A)	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	チドリ類	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	カワラサイコ(群馬EN、茨城準絶、埼玉VU、千葉C)	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	カワラバッタ(群馬VU、茨城II類、埼玉EN)	概要 利根川上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
88	中上流部では、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、オイカワ、ニゴイ等の魚類の生息・繁殖の場となる瀬・淵、モツゴ等の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、ハンゲショウ、ヤガミスゲ、タコノアシ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。稲戸井調節池については、オオタカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるハンノキ林の保全、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原の保全・創出を図る。	鳥類	オオヨシキリ(埼玉NT2(繁殖鳥)、千葉D)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	最新の国水(2018)では未確認。過去は1993、1997に確認あり。
		鳥類	セッカ(千葉D)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	オイカワ	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ニゴイ(千葉C)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	モツゴ(千葉D)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ハンゲショウ(群馬NT、埼玉VU)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヤガミスゲ(群馬NT、茨城準絶、千葉D)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	タコノアシ(環境NT、群馬CR、茨城準絶、埼玉VU)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオタカ(環境NT※5、群馬NT、茨城準絶、埼玉VU(繁殖鳥)、埼玉VU、千葉C)	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ハンノキ林	概要 利根川中上流部	河川水辺の国勢調査(国交省)	

※1: 種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境: 環境省レッドリスト2020

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧II類、EN: 絶滅危惧III類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 純絶滅危惧、DD: 情報不足、留意: 留意、LP: 地域個体群

群馬: 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版) 動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版) 植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、CR+EN: 絶滅危惧I類、CR: 絶滅危惧II類、EN: 絶滅危惧III類、VU: 絶滅危惧II類、NT: 純絶滅危惧、DD: 情報不足

栃木: 「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅: 絶滅 I類: 絶滅危惧I類 II類: 絶滅危惧II類 準絶: 準絶滅危惧 不足: 情報不足 地域: 絶滅のおそれのある地域個体群 注目: 要注目

茨城: 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅: 絶滅 IA類: 絶滅危惧IA類 IB類: 絶滅危惧IB類 II類: 絶滅危惧II類 準絶: 準絶滅危惧 注目: 情報不足①注目種 不明: 情報不足②現状不明種

埼玉: 「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧II類 EN: 絶滅危惧III類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 NT1: 準絶滅危惧I類

【植物】EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CE: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧II類 EN: 絶滅危惧III類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群\*

千葉: 「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X: 消息不明・絶滅生物 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物 不足: 情報不足 RH: 保護参考種

東京: 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧II類 EN: 絶滅危惧III類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 \*: 留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 6/8

89	中下流部では、オオセッカ、コジュリン等の鳥類の生息・繁殖環境の場となるヨシ原、モツゴ等の魚類、イシガイ類等の底生生物、トウキョウダルマガエル等の両生類、ミズアオイ等の生息・生育・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。	鳥類	オオセッカ（国内、環境EN、茨城IB類、埼玉DD、千葉A）	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	コジュリン（環境VU、群馬EN、茨城II類、埼玉VU、千葉A）	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	最新の水国（2012）では未確認だが、報告書中に「礫河原再生関連調査業務において確認」との記載あり。
		植物	ヨシ原	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	モツゴ（千葉D）	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ミズアオイ（環境NT、群馬CR、茨城準絶、千葉C）	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		底生動物	イシガイ類	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		両生類	トウキョウダルマガエル（環境NT、群馬VU、茨城注目、埼玉NTI、千葉B）	概要 利根川中下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
90	下流部では、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場となる汽水域のヨシ原、シギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地やハゼ類等の魚類、貝類等の底生生物の生息・繁殖の場となる干潟の保全・創出を図る。	陸上昆虫	ヒヌマイトトンボ	概要 利根川下流部	国土交通省調査	R4 利根川下流水辺現地調査（陸上昆虫）業務
		植物	ヨシ原	概要 利根川下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	シギ・チドリ類	概要 利根川下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ハゼ類	概要 利根川下流部	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥））	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
91	鳥川・神流川では、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、イカルチドリ等の鳥類、カワラバツタ等の陸上昆虫類、カワラサイコ等の植物の生息・生育・繁殖の場となる礫河原、オイカワ、アブラハヤ、ギバチ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬と淵、ムサシノジュズカケハゼ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。 神流川については、ハリエンジュを中心とした樹林化対策を進める。	鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥））	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヨシ原	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	イカルチドリ（群馬NT、埼玉NTI（繁殖鳥））	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		陸上昆虫	カワラバツタ（群馬VU、埼玉EN）	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	カワラサイコ（群馬EN、埼玉VU）	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	オイカワ	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	アブラハヤ	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ギバチ（環境VU、群馬VU）	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ムサシノジュズカケハゼ（環境EN、群馬VU）	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ハリエンジュ	概要 鳥川・神流川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
92	江戸川では、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類、オオヨシキリやセッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原等、タモロコやミナミメダカ等の魚類、カイツブリ等の鳥類、ニホンアカガエル等の両生類の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、コチドリ等の鳥類の生息・繁殖の場となる砂州の保全・創出を図る。 シギ・チドリ類の鳥類の渡りの中継地やハゼ類等の魚類の生息・繁殖の場となる干潟、ヨシ群落やシオクグ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。	陸上昆虫	ヒヌマイトトンボ	概要 江戸川	国土交通省調査	R4江戸川管内湿地環境調査検討業務
		鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥）、千葉D、東京CR）	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	セッカ（千葉D、東京CR）	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヨシ原	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	タモロコ	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ミナミメダカ	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	カイツブリ（茨城準絶、千葉C、東京NT）	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		両生類	ニホンアカガエル	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	コチドリ（千葉B、東京CR）	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		鳥類	シギ・チドリ類	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		魚類	ハゼ類	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	ヨシ群落	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	
		植物	シオクグ（茨城II類、千葉D、東京VU）	概要 江戸川	河川水辺の国勢調査（国交省）	

※1：種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。  
環境：環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群  
群馬:「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版)動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版)植物レッドリスト(2022年改訂版)」  
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧III類、VU:絶滅危惧II類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足  
栃木:「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」  
絶滅:絶滅 I類:絶滅危惧I類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 不足:情報不足 地域:絶滅のおそれのある地域個体群 注目:要注目  
茨城:「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」  
絶滅:絶滅 IA類:絶滅危惧IA類 IB類:絶滅危惧IB類 II類:絶滅危惧II類 準絶:準絶滅危惧 注目:情報不足①注目種 不明:情報不足②現状不明種  
埼玉:「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」  
【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧I類  
【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群  
千葉:「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」  
X:消息不明・絶滅生物 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物 D:一般保護生物 不足:情報不足 RH:保護参考種  
東京:「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」  
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧II類 EN:絶滅危惧III類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*:留意種  
生態系被害防止外来種リスト該当種:我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト  
特定外来生物:特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

【参考資料】 本文掲載種の根拠資料 7/8

93	渡良瀬川では、コチドリ、イカルチドリ等の鳥類の生息・繁殖の場となる礫河原、サクラマス（同種で生活史が異なるヤマメを含む）、オオヨシキリ、セッカ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、ウグイ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬と淵の保全・創出を図る。 渡良瀬川については、ハリエンジュを中心とした樹林化対策を進める。 渡良瀬遊水地では、治水機能との調和を図りながらトネハナヤスリ、ハナムグラ、タチスミレ等の植物、チュウヒ等の猛禽類やオオヨシキリ、セッカ等の鳥類が生息・生育・繁殖の場となるヨシ群落等の湿地の保全・創出を図る。	鳥類	コチドリ	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	イカルチドリ（群馬NT、茨城Ⅱ類、埼玉NT1（繁殖鳥））	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	サクラマス（ヤマメ）	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ（埼玉NT2（繁殖鳥））	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	セッカ	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ウグイ	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ハリエンジュ	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	トネハナヤスリ（環境VU、群馬CR、栃木注目、茨城ⅠB類、埼玉CR）	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ハナムグラ（環境VU、群馬VU、栃木注目、茨城Ⅱ類、埼玉EN）	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	タチスミレ（環境VU、群馬CR、栃木Ⅰ類、茨城ⅠA類、埼玉CR）	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	チュウヒ（国内、環境EN、群馬DD、栃木ⅠⅡ類、茨城ⅠB類、埼玉EN）	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ群落	概要	渡良瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
94	鬼怒川では、カワラノギクやカワラニガナ等の植物やカワラバツタ等の陸上昆虫類、コアジサシやイカルチドリ等の鳥類の生息・生育・繁殖の場となる礫河原、アユ、サケ等の魚類の生息・繁殖の場となる連続した瀬・淵、ムサシノジュズカケハゼ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまりの保全・創出を図る。 オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、カワラヨモギ等の植物の生育・繁殖の場となる砂河原の保全・創出を図る。	植物	カワラノギク（環境VU、栃木Ⅱ類）	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	カワラニガナ（環境NT、栃木注目、茨城ⅠB類）	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	カワラバツタ（栃木注目、茨城Ⅱ類）	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	コアジサシ	概要	鬼怒川	国土交通省調査	H29鬼怒川・小貝川水辺現地調査(鳥類)その他業務
		鳥類	イカルチドリ（茨城Ⅱ類）	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	アユ	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	サケ	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ムサシノジュズカケハゼ（環境EN、栃木Ⅱ類）	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要	鬼怒川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
95	小貝川では、オオムラサキ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場となるクヌギ・エノキの雑木林、オオヨシキリ等の鳥類の生息・繁殖の場となるヨシ原、オイカワ・サケ等の魚類の生息・繁殖の場となる瀬・淵、ドジョウ等の魚類の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、タチスミレやキタミソウ等の植物の生育・繁殖の場となる湿地環境の保全・創出を図る。	陸上昆虫	オオムラサキ（環境NT、栃木注目、茨城Ⅱ類）	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	クヌギ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	タチヤナギ群集、ジャヤナギ-アカメヤナギ群集などが該当
		植物	エノキ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	オイカワ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	サケ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	ドジョウ	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	タチスミレ（環境VU、栃木Ⅰ類、茨城ⅠA類）	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	キタミソウ（環境VU、栃木注目、茨城ⅠB類）	概要	小貝川	河川水辺の国勢調査(国交省)	

※1: 種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境：環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬：「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版) 動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版) 植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類、CR:絶滅危惧ⅠA類、EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:純絶滅危惧、DD:情報不足

栃木：「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅:絶滅Ⅰ類:絶滅危惧Ⅱ類 準絶:準絶滅危惧 不足:情報不足 地域:絶滅のおそれのある地域個体群 注目:要注目

茨城：「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅:絶滅ⅠA類:絶滅危惧ⅠA類ⅠB類:絶滅危惧Ⅱ類Ⅱ類:絶滅危惧Ⅱ類Ⅱ類 準絶:準絶滅危惧 注目:情報不足①注目種 不明:情報不足②現状不明種

埼玉：「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧1類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

千葉：「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X:消息不明・絶滅生物 A:最重要保護生物 B:重要保護生物 C:要保護生物 D:一般保護生物 不足:情報不足 RH:保護参考雑種

東京：「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部) 2020年版」

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 \*:留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種:我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物:特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

96	霞ヶ浦では、オオヨシキリ等の鳥類、カヤネズミ等の哺乳類の生息・繁殖の場となるヨシ等の湖岸帯、イシガイ等の底生生物の生息・繁殖の場となるワンド・たまり、カイツブリ等の鳥類、シラウオ等の魚類の生息・繁殖の場である砂地の保全・創出を図る。	鳥類	オオヨシキリ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		哺乳類	カヤネズミ(茨城不明)	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		植物	ヨシ原	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	ヨシ群落が該当
		底生動物	イシガイ類	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	カイツブリ(茨城準絶)	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	シラウオ	概要 霞ヶ浦	河川水辺の国勢調査(国交省)	
97	中川では、アシシロハゼ、スズキ等の魚類、クロベンケイガニやカワゴカイ属等の底生生物の生息・繁殖の場である汽水域、オオヨシキリ等の鳥類、ヒヌマイトトンボ等の陸上昆虫類の生息・繁殖の場であるヨシ原、シギ・チドリ類等の鳥類の生息・繁殖の場である干潟、集団営巣しているサギ類の鳥類の生息・繁殖の場である樹林の保全・創出を図る。	魚類	アシシロハゼ(東京NT)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		魚類	スズキ	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		底生動物	クロベンケイガニ(東京*)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		底生動物	カワゴカイ	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	オオヨシキリ(埼玉NT2(繁殖鳥)、東京CR)	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		陸上昆虫	ヒヌマイトトンボ	概要 中川・綾瀬川	国土交通省調査	
		植物	ヨシ原	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	
		鳥類	シギ・チドリ類	概要 中川・綾瀬川	河川水辺の国勢調査(国交省)	

※1: 種名の後の括弧書きは、重要種または外来種としての指定状況を示す。

環境: 環境省レッドリスト2020

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、留意:留意、LP:地域個体群

群馬: 「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編(2022年改訂版) 動物レッドリスト(2022年改訂版)」及び「群馬県の絶滅のおそれのある野生生物 植物編(2022年改訂版) 植物レッドリスト(2022年改訂版)」

EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧IA類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足

栃木: 「栃木県版レッドリスト(第3次/2018年版)」

絶滅: 絶滅 I類: 絶滅危惧I類 II類: 絶滅危惧II類 準絶: 準絶滅危惧 不足: 情報不足 地域: 絶滅のおそれのある地域個体群 注目: 要注目

茨城: 「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 動物編 2016年改訂版 選定種一覧」及び「茨城県における絶滅のおそれのある野生生物 植物編 2012年改訂版 選定種一覧」

絶滅: 絶滅 IA類: 絶滅危惧IA類 IB類: 絶滅危惧IB類 II類: 絶滅危惧II類 準絶: 準絶滅危惧 注目: 情報不足①注目種 不明: 情報不足②現状不明種

埼玉: 「埼玉県レッドリスト動物編 2018」及び「埼玉県レッドリスト2011植物編」

【動物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類 NT:準絶滅危惧 NT1:準絶滅危惧I類

【植物】EX:絶滅 EW:野生絶滅 CE:絶滅危惧I類 CR:絶滅危惧IA類 EN:絶滅危惧IB類 VU:絶滅危惧II類NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群\*

千葉: 「千葉県レッドリスト動物編(2019年改訂版)」及び「千葉県レッドリスト植物・菌類編(2017年改訂版)」

X: 消息不明・絶滅生物 A: 最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物 不足: 情報不足 RH: 保護参考雑種

東京: 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧I類 CR: 絶滅危惧IA類 EN: 絶滅危惧IB類 VU: 絶滅危惧II類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 \*: 留意種

生態系被害防止外来種リスト該当種: 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト

特定外来生物: 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成16年 法律第78号)

# ⑥総合土砂管理

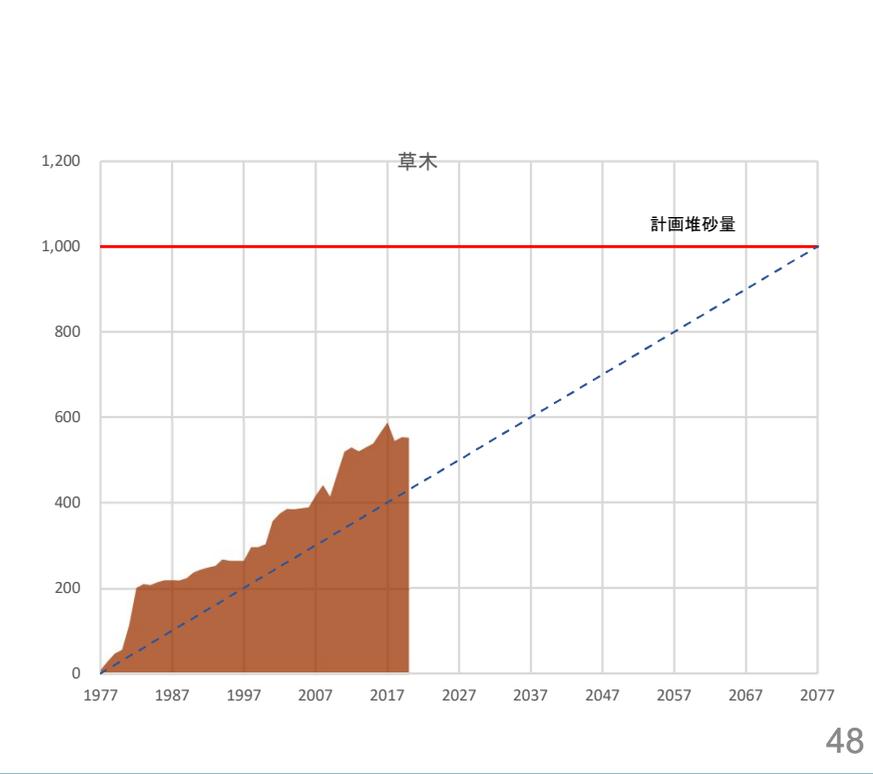
# 山地領域の状況(渡良瀬川流域)

- 上流域の山地においては、急峻な地形と火山の噴出物などからなる脆弱な地質、厳しい気候などにより荒廃が著しく、大小数多くの崩壊地を有している。今後も土砂流出のリスクを有する状況であることから、引き続き、砂防堰堤等による土砂流出対策の推進が必要である。
- 昭和22年のカスリーン台風により各所で山腹崩壊と土石流が多発し、足尾山地、赤城山東斜面からの流出土砂により渡良瀬川流域内で709名の人命が失われる土砂災害が発生した。
- 砂防事業の進捗状況は、直轄で砂防堰堤165基、山腹工2箇所、床固工等28箇所が整備されているほか、群馬県で砂防堰堤約100基、床固工等約10基が整備され、栃木県においても渡良瀬川の支川流域における砂防施設が整備されている。



堆砂の状況

- 渡良瀬川流域には、直轄管理1ダム(渡良瀬遊水池含む)、水資源機構管理1ダムの他、補助ダム、利水ダム等を合わせると8基のダムが存在する。
- 水資源機構管理ダム及び補助ダムにおいて、堆砂率が100%を超えているダムはない。
- いずれのダムにおいても、堆砂測量などのモニタリング調査による傾向監視を引き続き実施し、具体の支障が懸念される場合には、必要に応じて対策を検討、実施していく。



# 山地領域の状況（鬼怒川流域）

- 日光火山群が流域内に位置する大谷川、鬼怒川本川では、火山性の地質に由来する荒廃地が広く分布するため、土砂生産及び流出が非常に活発である。今後も土砂流出のリスクを有する状況であることから、引き続き、砂防堰堤等による土砂流出対策の推進が必要である。
- 平成27年関東・東北豪雨では、男鹿川流域において既往最大規模の降雨が発生し、芹沢地区で同時多発的に土石流が発生したほか、多数の土砂災害が発生し、地域住民の生活に甚大な被害を及ぼした。
- 砂防事業の進捗状況は、直轄で砂防堰堤245基、床固工等124箇所、流路工・帯工11箇所、山腹工6箇所が整備されているほか、栃木県においても砂防施設が整備されている。



## 過去の被災状況

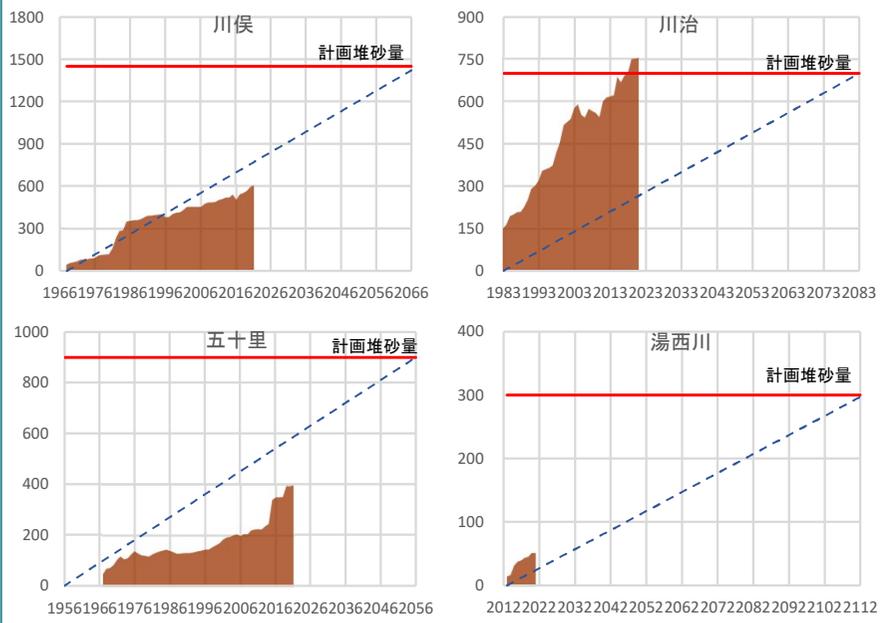


## 近年整備された砂防施設



## 堆砂の状況

○ 鬼怒川流域には、直轄管理4ダムその他、補助ダム、利水ダム等を合わせると13基のダムが存在する。  
 ○ 直轄管理4ダムのうち、川治ダムは堆砂率が100%を超えており、貯砂ダムの設置及び貯水池内の土砂掘削等の堆砂対策を行っている。  
 ○ いずれのダムにおいても、堆砂測量などのモニタリング調査による傾向監視を引き続き実施し、具体の支障が懸念される場合には、必要に応じて対策を検討、実施していく。

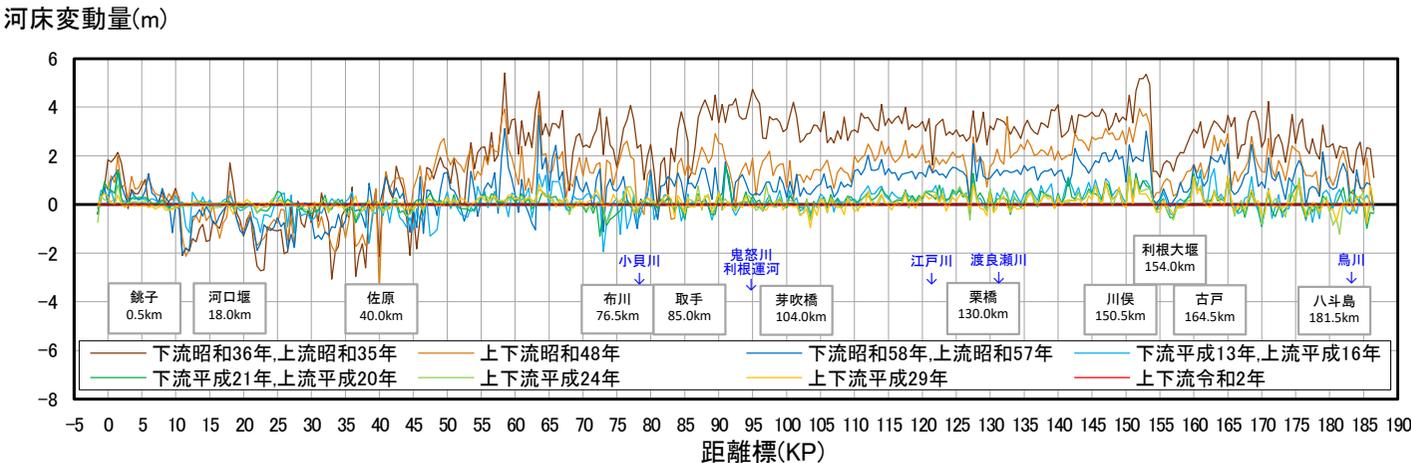
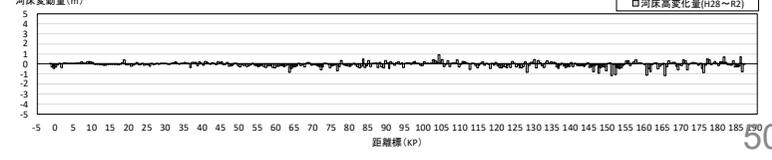
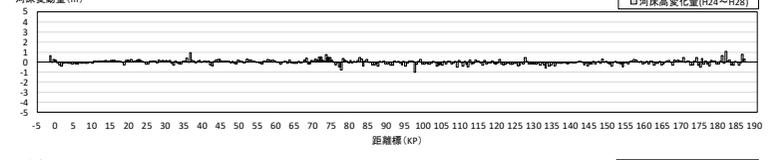
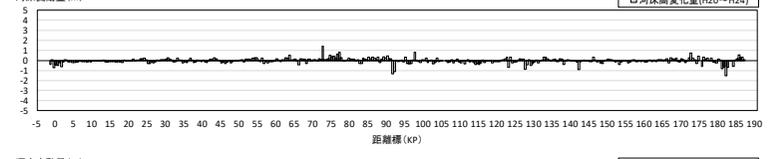
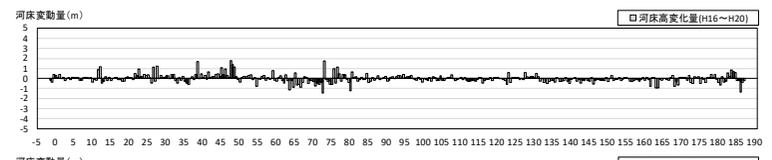
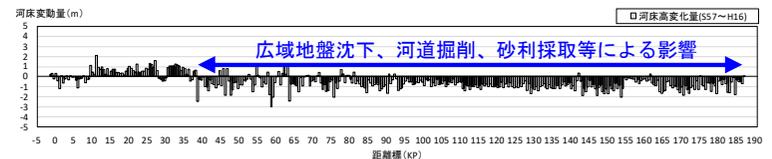
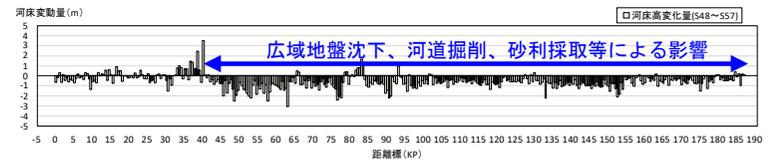
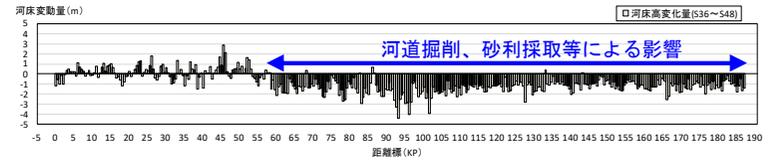
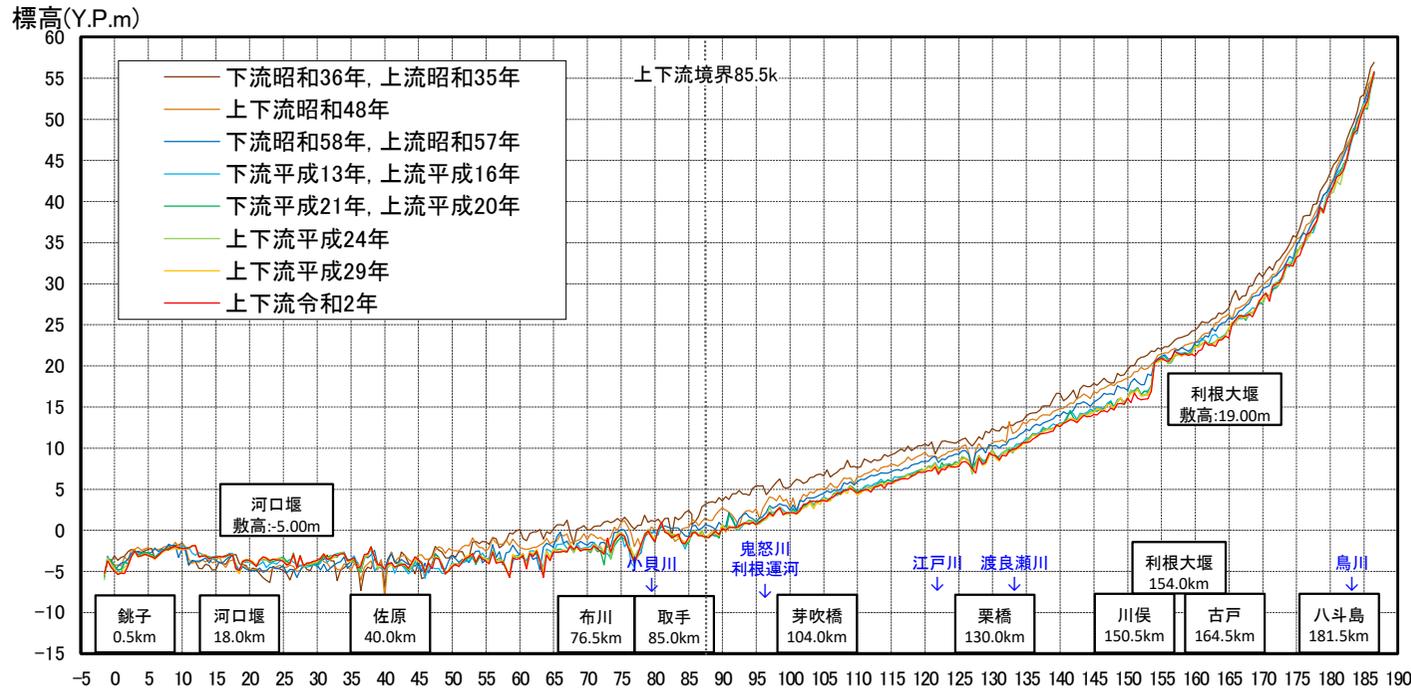


## 荒廃地の状況



- 既往60年間(昭和36年～令和2年)の低水路平均河床高は、佐原(40.5km)～八斗島区間(182.0km)では河床低下傾向にあり、佐原より下流では堆積傾向にある。
- 佐原(40.5km)～利根大堰(154.0km)の河床低下の一因として、昭和41年に建設された利根大堰の影響が推察される。しかし、これらの傾向は平均河床高の経年変化の推移から、近年では概ね安定傾向にある。

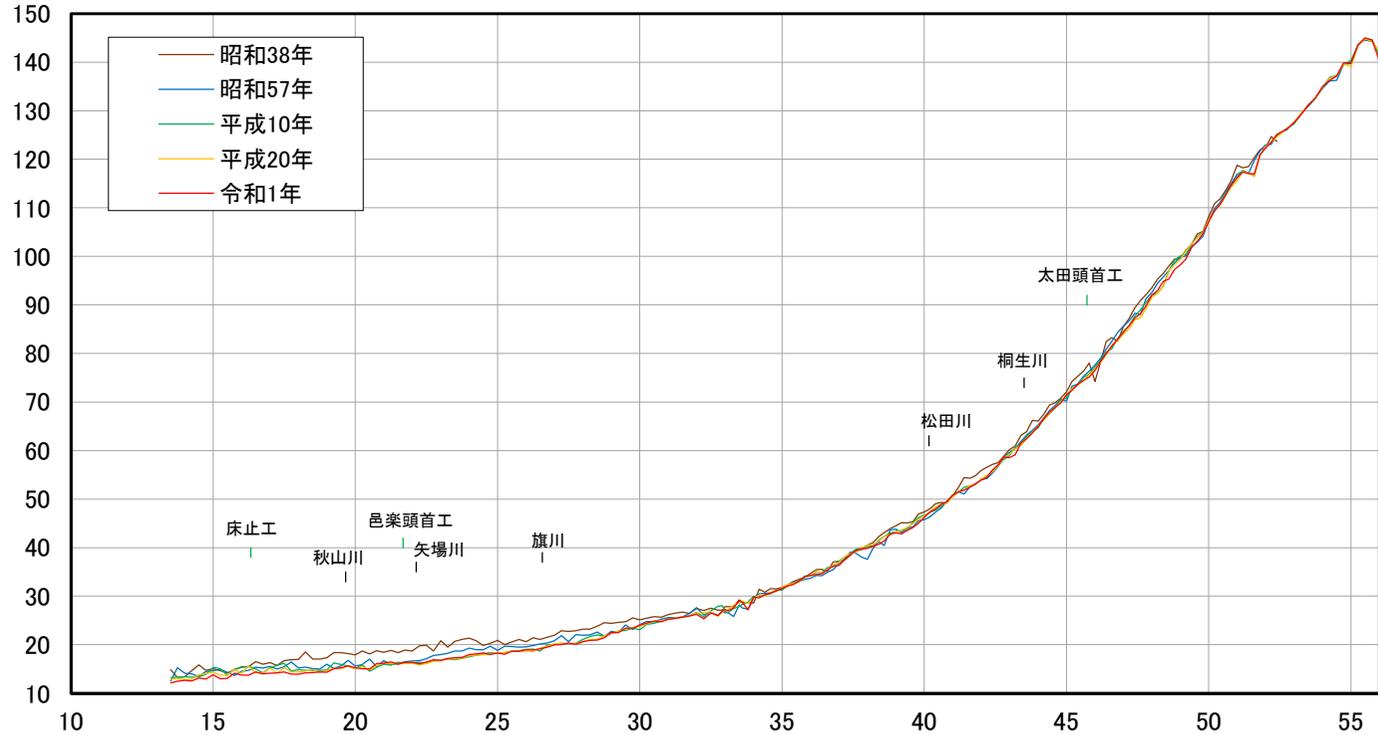
## 河床変動の状況



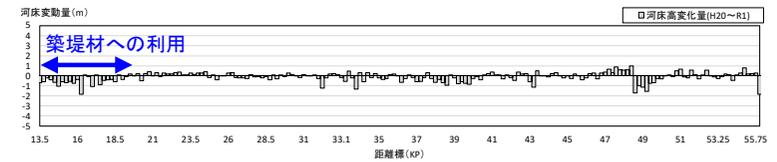
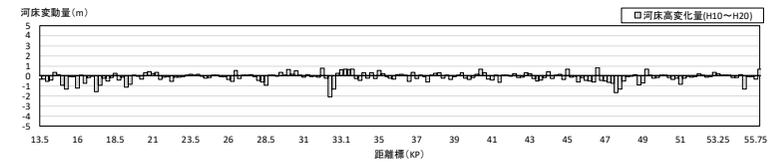
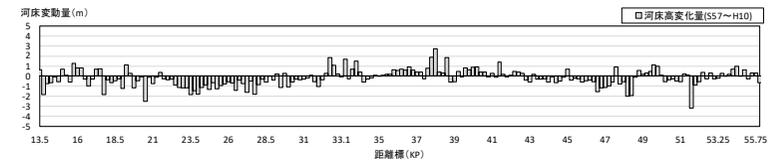
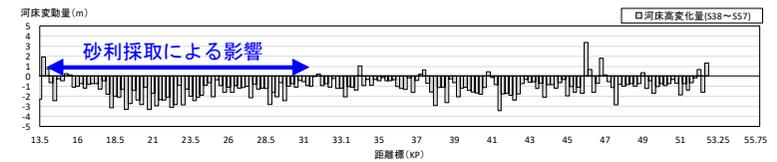
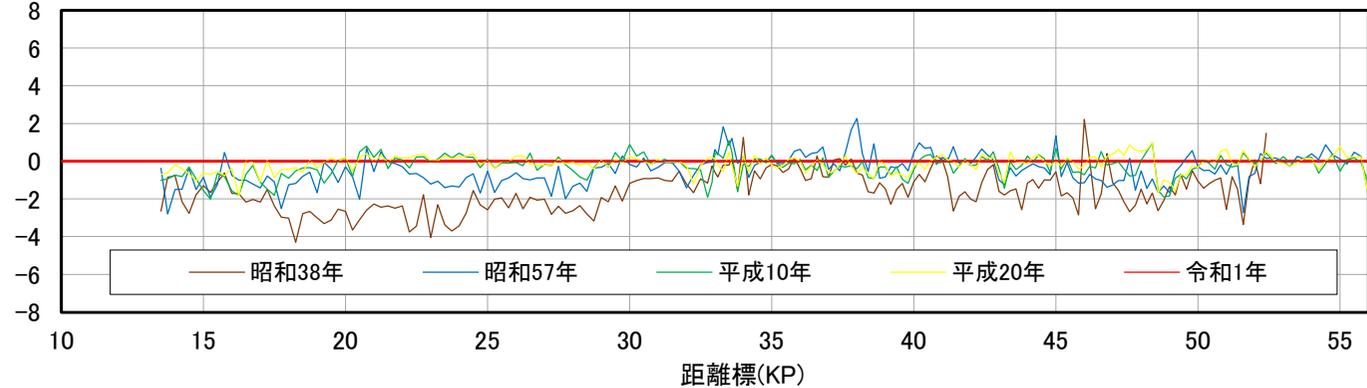
○ 既往56年間(昭和38年～令和元年)の低水路平均河床高は、昭和40年代～昭和50年代にかけて、砂利採取等により河床低下がみられる。昭和60年代以降は、おおむね安定傾向にある。

## 河床変動の状況

標高(Y.P.m)



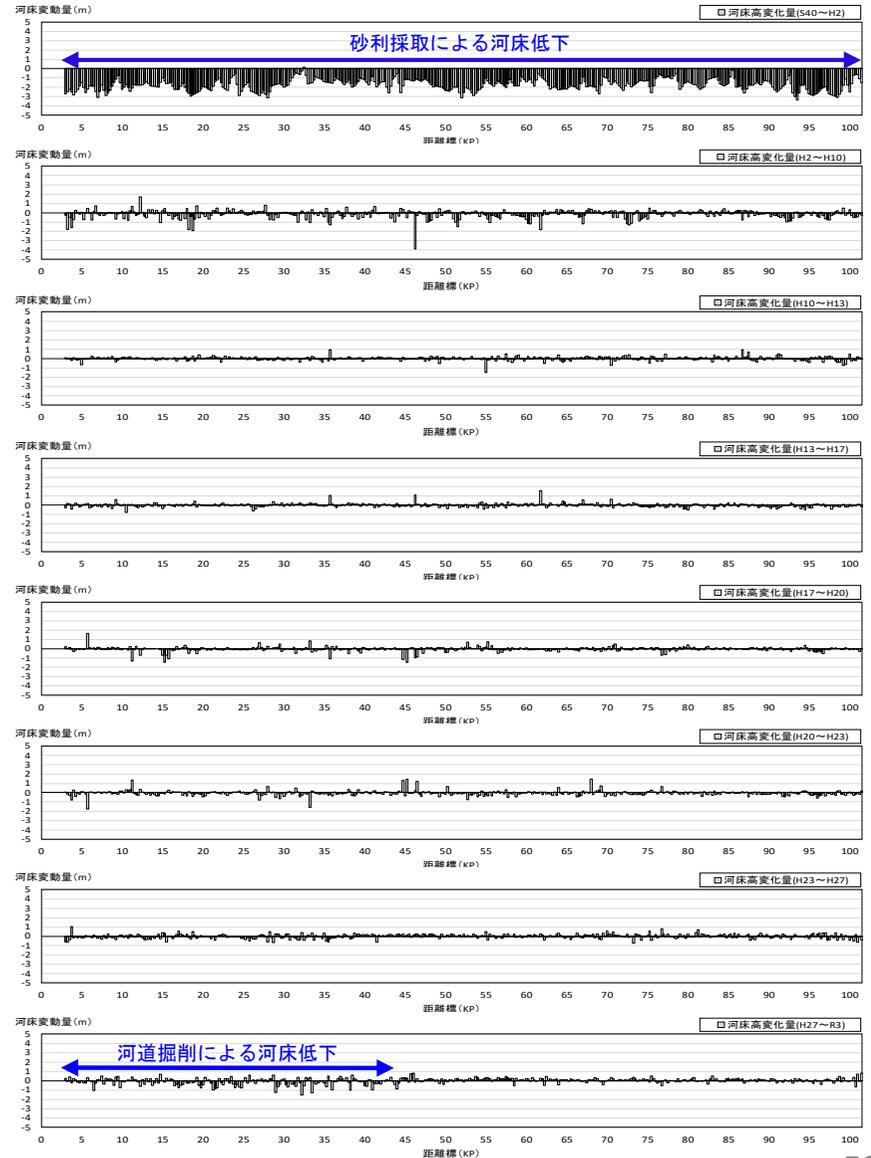
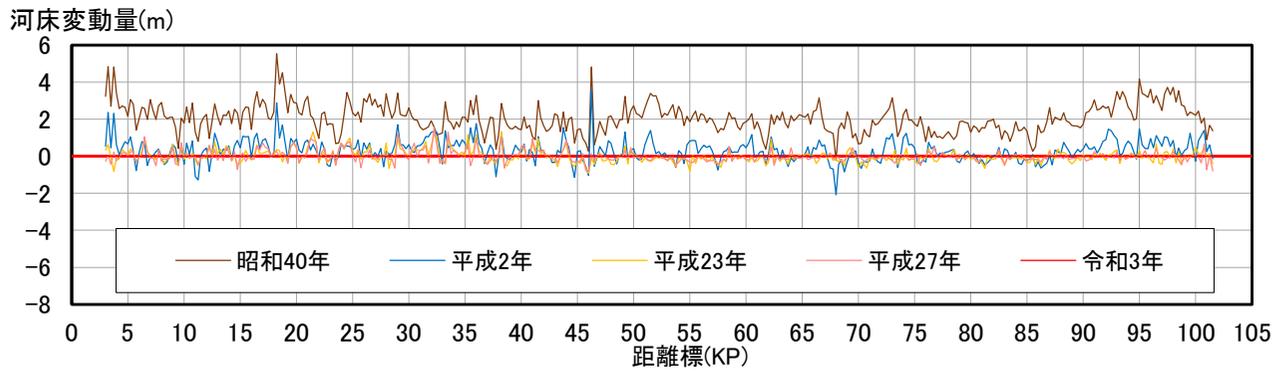
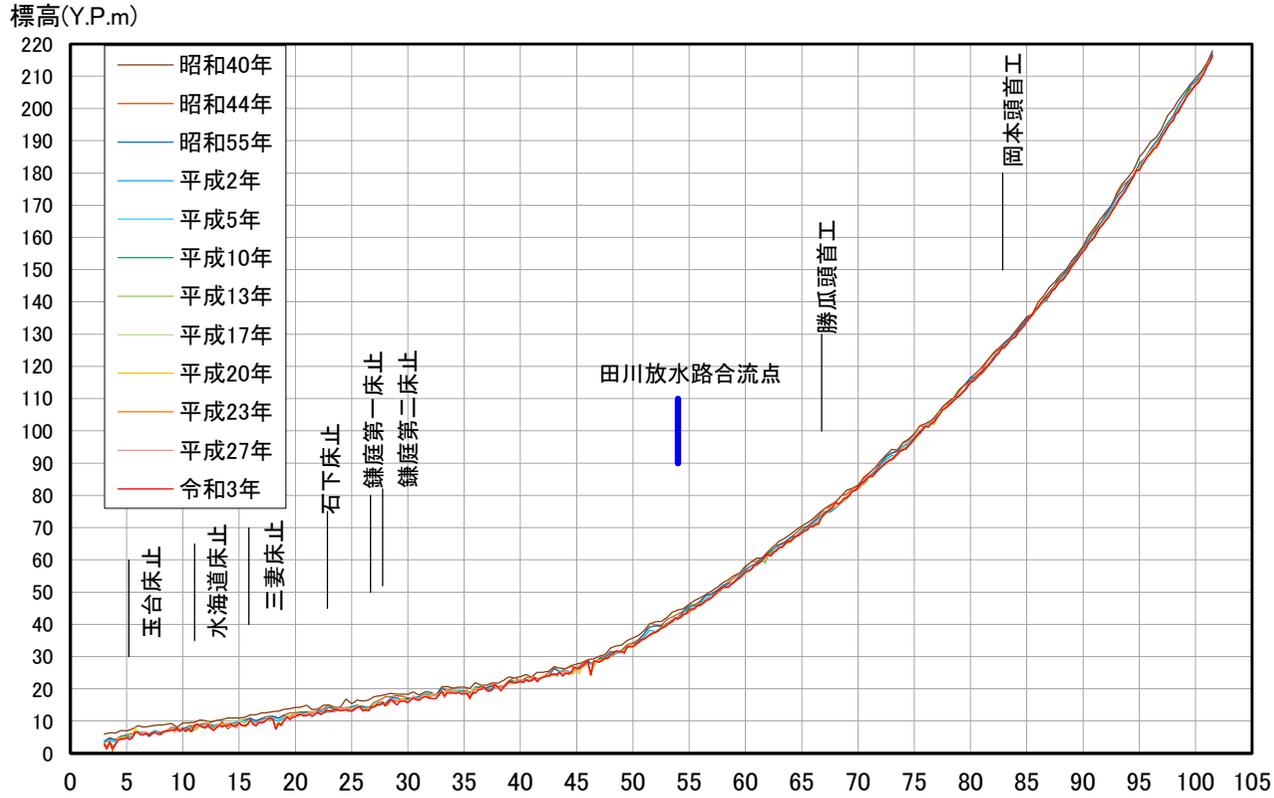
河床変動量(m)



# 河道領域の状況(鬼怒川流域)

○ 既往56年間(昭和40年～令和3年)の低水路平均河床高は、昭和40年代から平成初期にかけて主に砂利採取によって河床低下しているが、近年では安定傾向となっている。

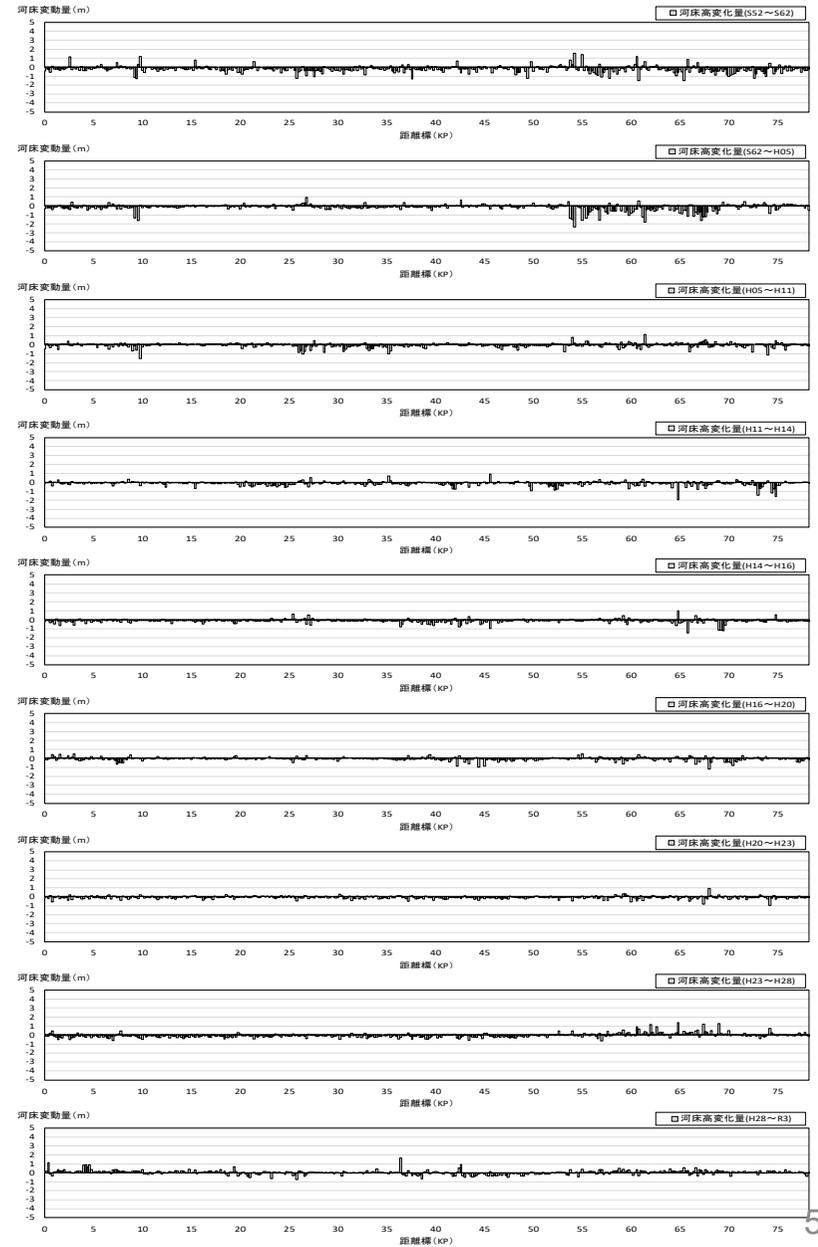
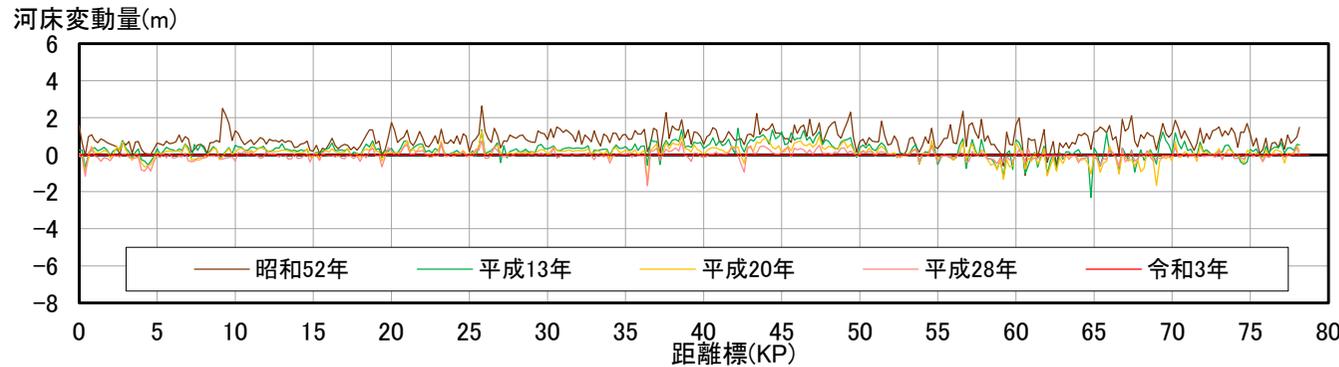
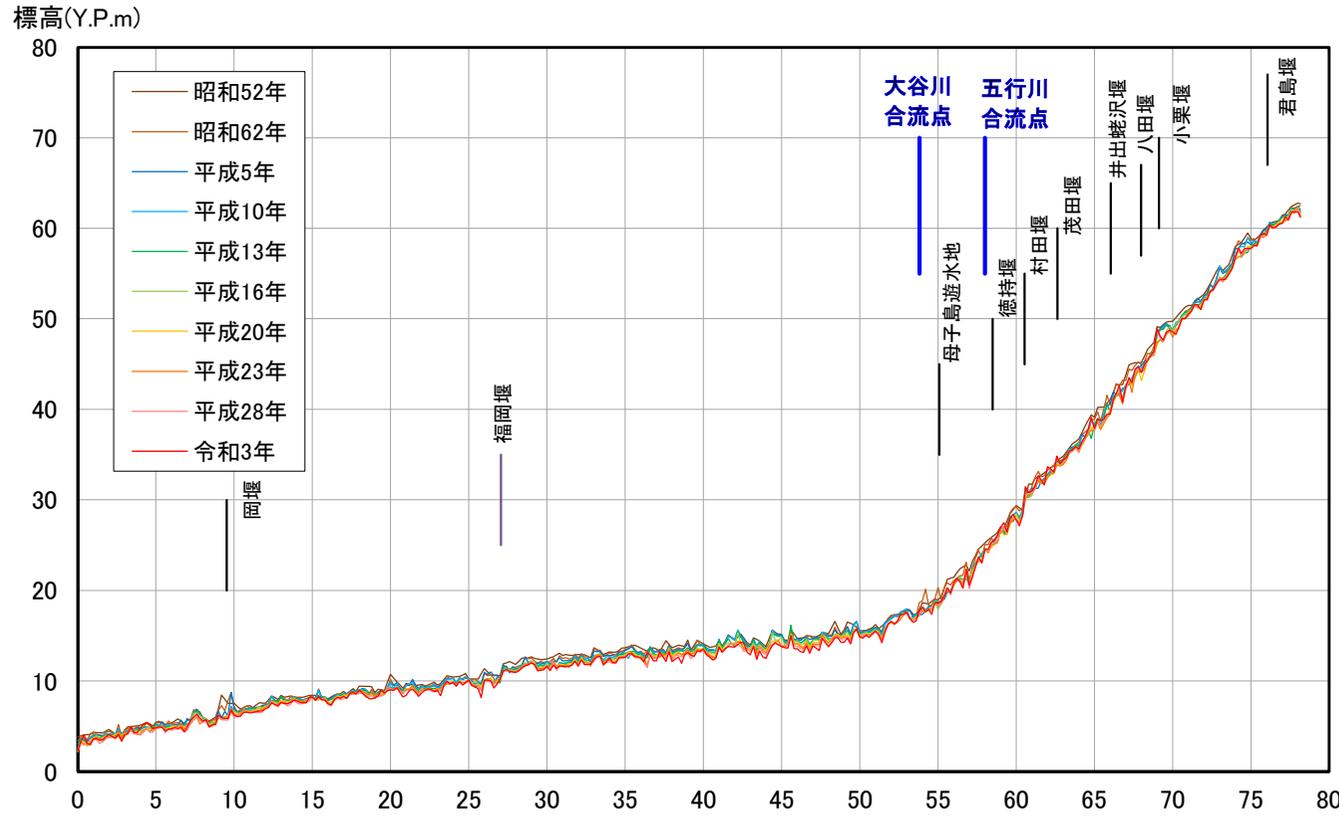
## 河床変動の状況



# 河道領域の状況(小貝川流域)

○ 既往45年間(昭和52年～令和3年)の低水路平均河床高は、昭和50年代頃までは河床低下傾向を示しているが、近年では概ね安定傾向となっている。

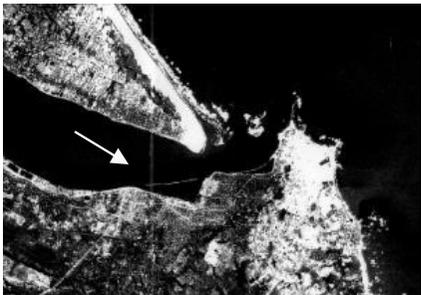
## 河床変動の状況



# 河口・海岸領域の状況

- 戦前の利根川河口の地形は、鹿島灘海岸側(左岸側)から伸長する砂州と右岸側からの岩礁にはさまれた開口部が形成されていたが、昭和23年から昭和30年にかけて河口導流堤が建設され、安定した開口幅が形成された。その後、波崎漁港施設の建設等により、河口地形はほぼ現在の姿で安定しており、河口閉塞は生じておらず、また、侵食、堆積のいずれの傾向も見られない。
- 江戸川の河口域では、昭和40年代まで埋立てが進み、海浜や河口砂州はない。河口部横断形状の経年変化状況より、昭和40年代以降は現在に至るまで河口部の河床は安定している。

## 利根川河口部の変化



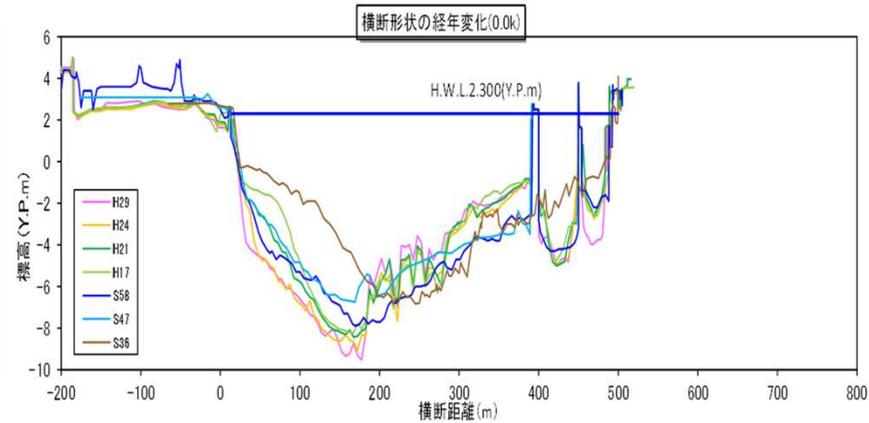
S21撮影



H18撮影



R1撮影



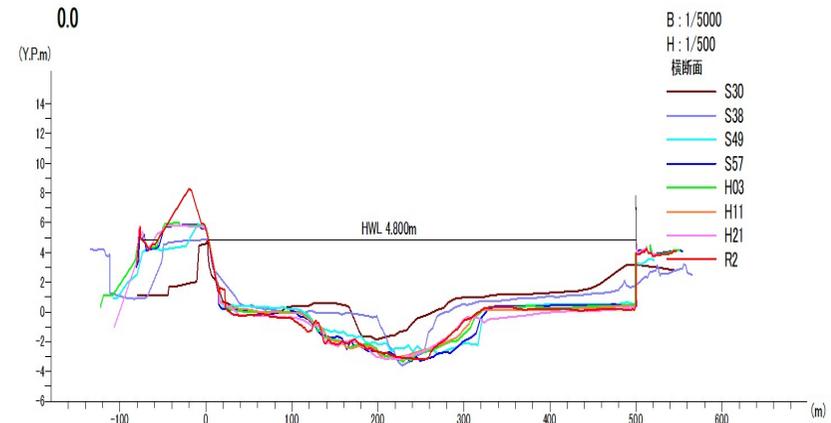
## 江戸川河口部の変化



S30年代撮影



R2撮影

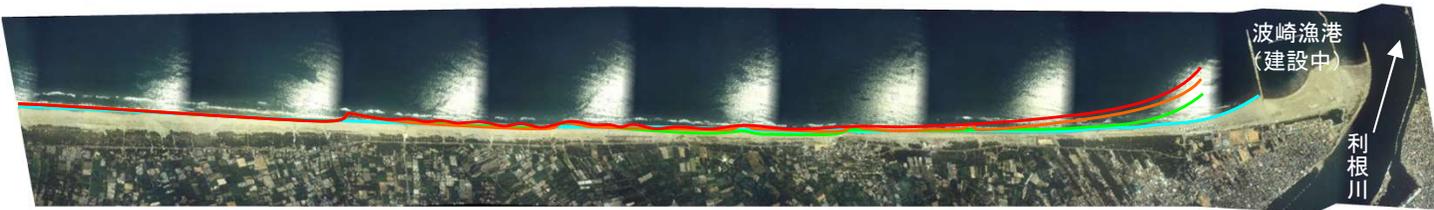


# 河口・海岸領域の状況

- 利根川左岸側の鹿島灘海岸では、昭和59年以降、波崎漁港の建設及びヘッドランドの整備を行っており、全体としてわずかに前進していることから、概ね安定傾向を示していると言える。
- 鹿島灘海岸全体としては、一部で海岸侵食対策事業を行っている地区はあるものの、波崎漁港建設以降、汀線に顕著な変化は見られない。

汀線の経年変化

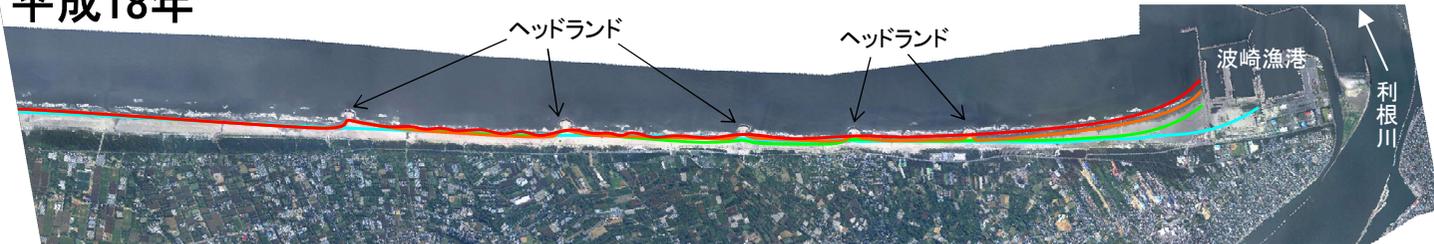
昭和59年



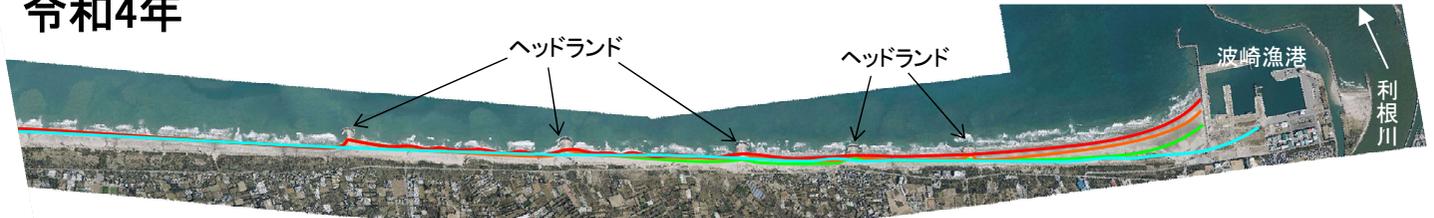
平成8年



平成18年



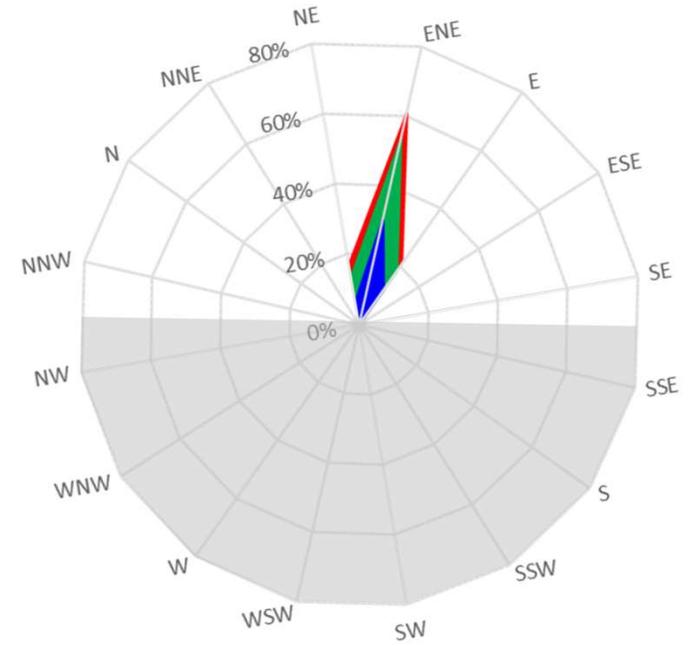
令和4年



- S59
- H8
- H18
- R4

波高波向頻度図

■北東、東北東、東方向から波が襲来しており、海岸線に対して垂直に近いため、南北両方向に漂砂する。



0.00m～ 1.00m～ 2.00m～

集計期間平成18年～平成19年